

515-143



1200501487131

515
3



9.1.15

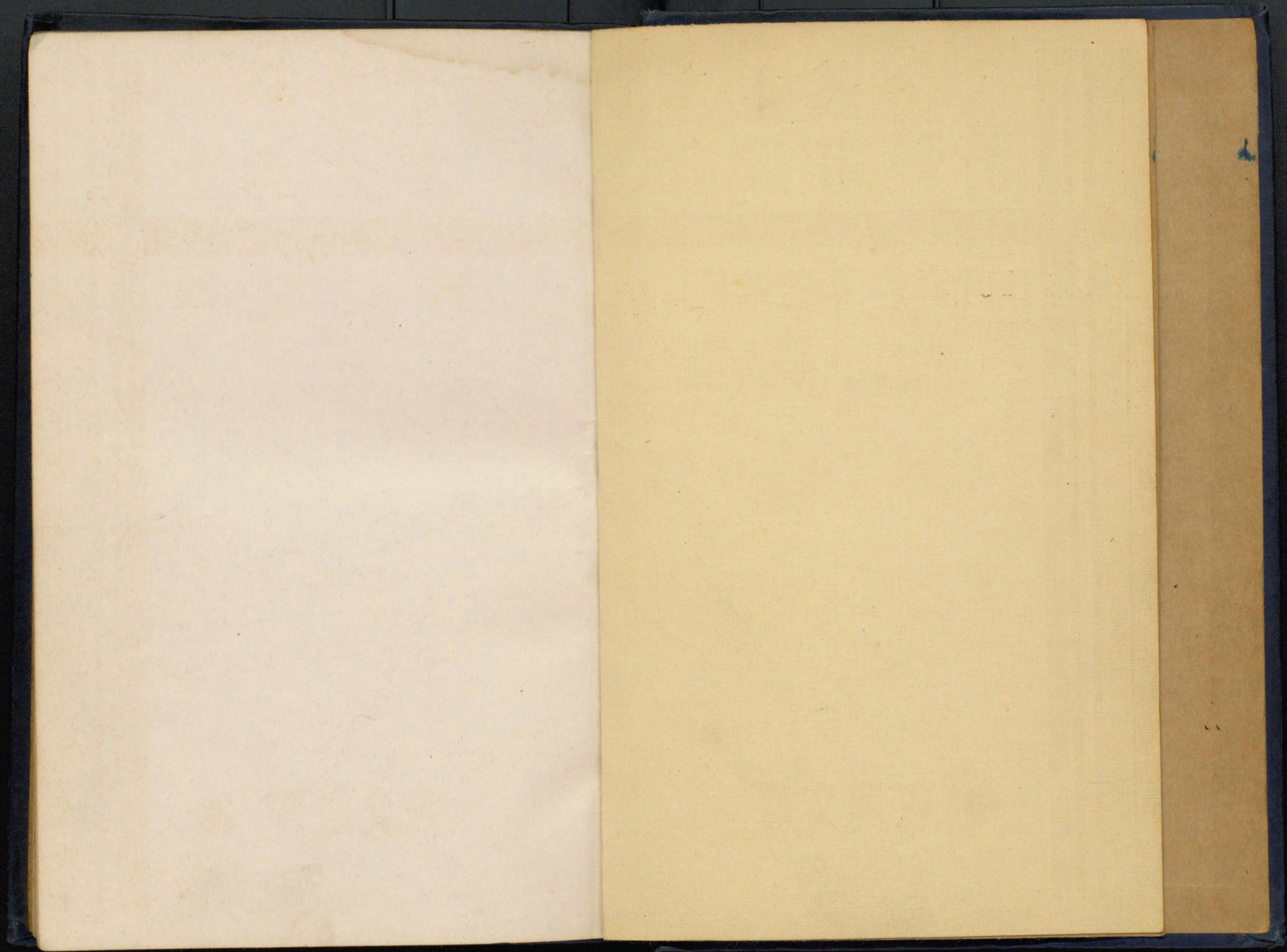
60

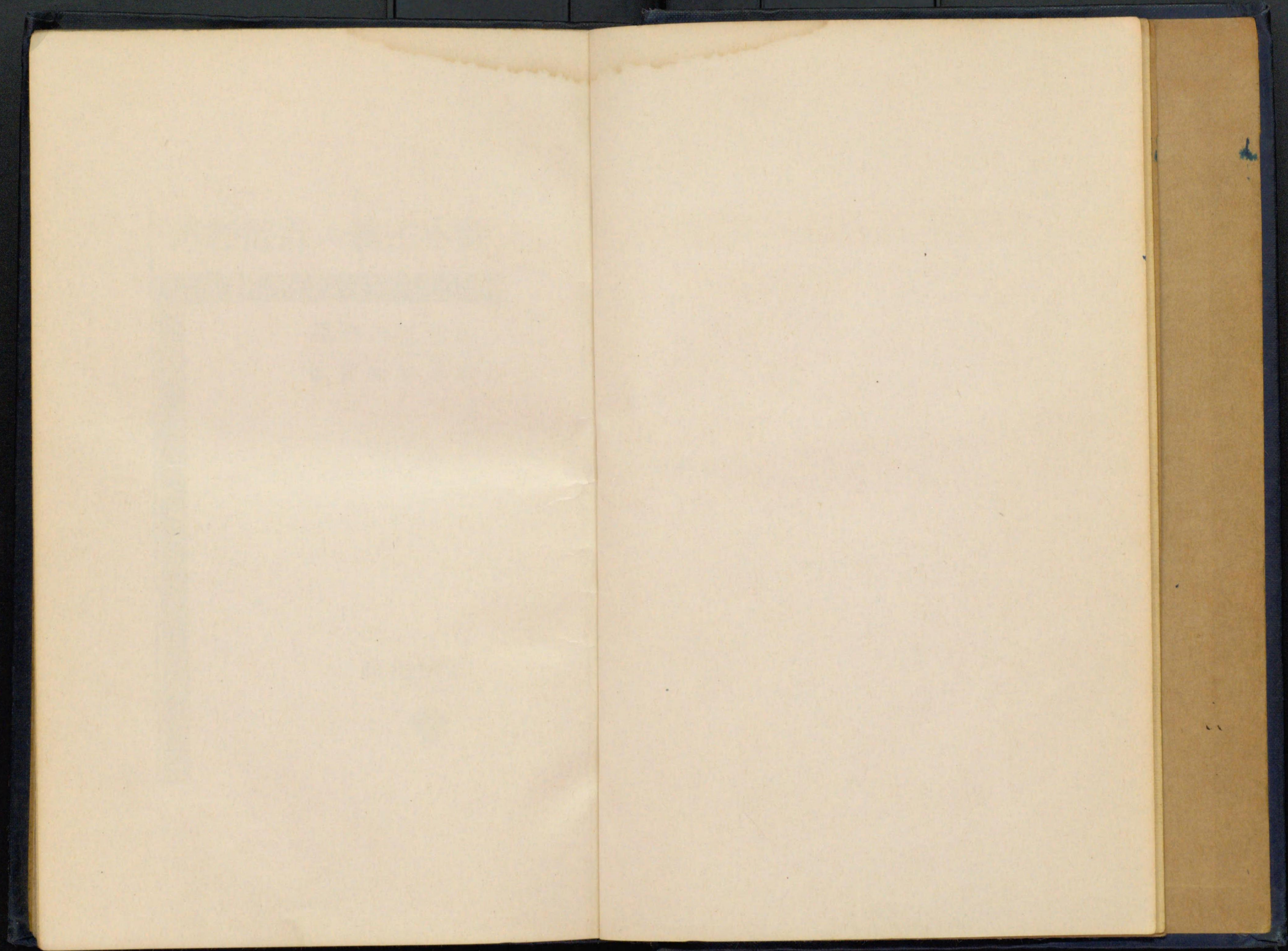
資本主義の
「計畫經濟」

10 世界經濟叢書

經濟批判會譯編

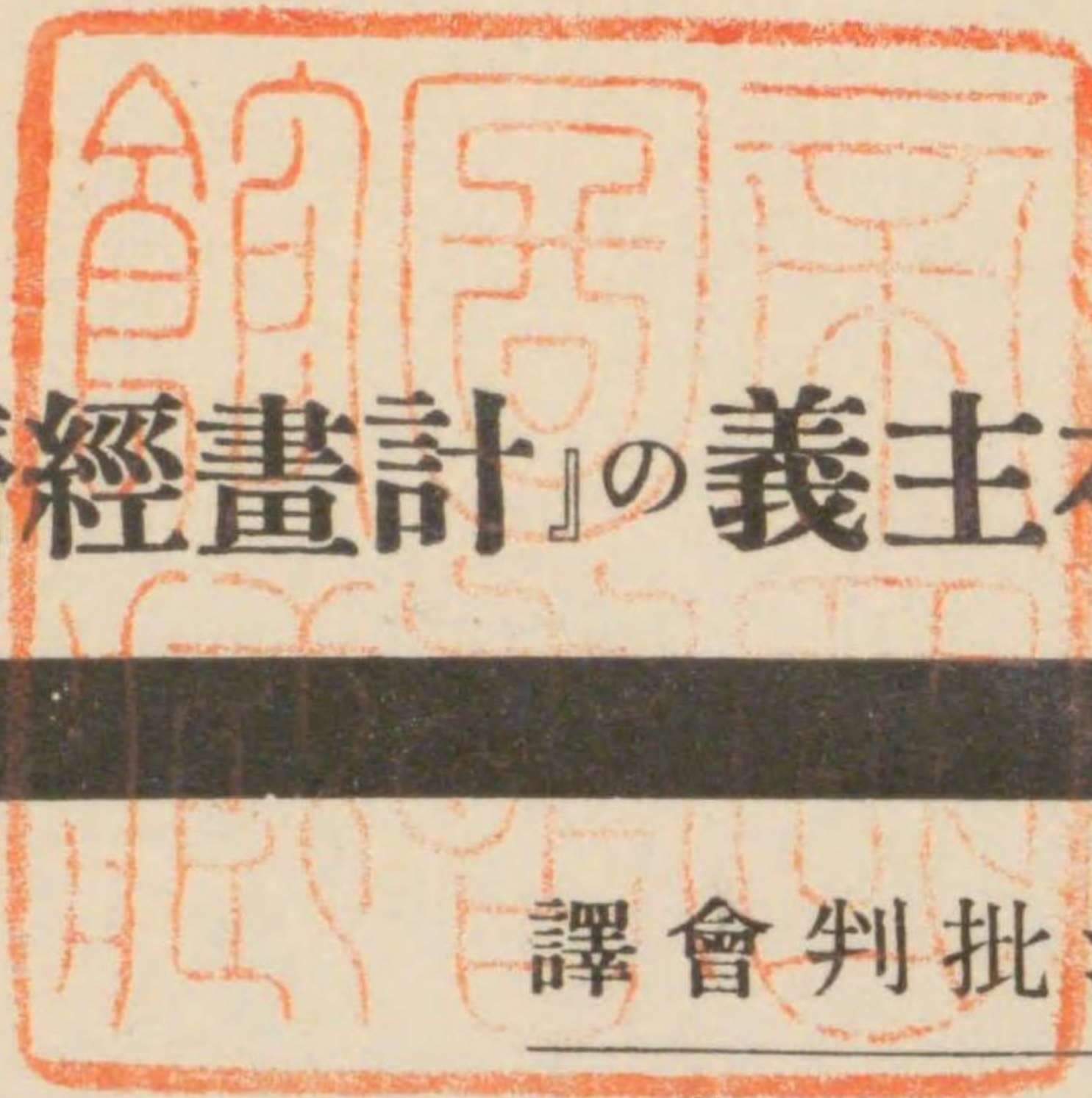
● 叢文閣版





515
143

『濟經畫計』の義主本資



譯會判批濟經

書叢濟經界世

(10)

版閣文叢



5/5-143

資本主義の『計畫經濟』 目次

第一部 資本主義『計畫經濟』理論

- 一 資本主義の下での國民經濟『計畫化』(イー・マルコフ)……………三
- 一 世界經濟の狀態と『計畫經濟』……………三
- 二 資本主義『計畫經濟』の三つの傾向……………七
 - 一 社會民主主義者の『國家資本主義』……………七
 - 二 獨占資本家の『計畫化』……………一四
 - 三 經營内の計畫化を社會全體へ……………一六
- 三 資本主義『計畫經濟』の批判……………一八
 - 一 方法的根柢……………一九
 - 二 階級社會での計畫經濟はいかにして可能であるか?……………二〇
 - 三 資本主義の下での『計畫化』の失敗……………二六

目次

一

資本主義の計畫經濟

東京大学出版会

昭和二十一年三月

目次

東京大学出版会



四 ソヴェート同盟の計畫經濟と資本主義『計畫經濟』……………二九

二 恐慌と資本主義『計畫經濟』(ヴェー・オシンスキー)……………三五

一 資本主義體制の諸矛盾……………四〇

二 計畫經濟の前提。資本主義『計畫經濟』は不可能……………四六

三 國家資本主義について(アー・フォガラシ)……………四八

一 恐慌と『國家資本主義』……………四七

二 レーニンの國家資本主義論……………四七

三 社會民主主義者の『國家資本主義』策動の歴史的地位……………五三

四 『國家資本主義』策動の特徴……………五九

第二部 計畫經濟世界會議……………六三

一 計畫經濟世界會議についての諸報道……………六三

一 第一日——會議の二潮流……………六三

二 第二日——ソヴェート代表オシンスキーの演説……………六五

三 第三日——ソヴェート代表の諸報告の反響……………六六

四 第四日——計畫經濟會議に於ける社會ファシスト……………六八

二 世界恐慌とブルジョア經濟學者の計畫的幻想(ヴェー・オシンスキー)……………七一

一 世界恐慌の發展と恐慌切抜け策の失敗……………七一

二 各國に於ける資本主義『計畫經濟』の諸提案……………七六

三 計畫經濟世界會議の召集とそのプログラム……………八〇

四 會議に於ける資本主義『計畫經濟』の提案……………八五

一 ローヴィンの報告……………八五

五 資本主義『計畫經濟』は不可能……………九〇

一 ソヴェート代表のローヴィン批判……………九〇

六 計畫經濟の本質と前提——ソヴェート代表の報告……………九四

七 ソヴェート經濟の諸問題……………九四

一 ソヴェート代表の報告への反駁とその批判……………九六

八 科學的管理と計畫化——パーソンの報告……………一〇〇

九 會議の總決算……………一〇六

附 外國に於ける『計畫氣分』と
アムステルダム計畫經濟會議 (エヌ・オシンスキー)……………一〇九

一 『計畫化思想』の流行の原因……………一〇二

二 合衆國に於ける計畫經濟思想の發展……………一〇〇

三 アムステルダム會議、その構成、そのプログラム……………一〇三

四 ローヴィンの資本主義の下での計畫化可能説……………一〇三

五 ローヴィンの提案に對するソヴェート代表の批判……………一一五

六 ソヴェート同盟に於ける計畫經濟……………一一六

三 資本主義の空想と社會主義の現實(アー・ド・フリース)……………一一三

第三部 各 國……………一二七

第一 アメリカ合衆國……………一二七

一 資本主義『計畫經濟』理論(ハリ・ガンネス)……………一二七

一 合衆國に於ける計畫經濟熱と大ブルジョアジの態度……………一二七

二 ファシスト及び自由主義小ブルジョアジの『計畫經濟』……………一二三

一 ドンハム教授の『計畫經濟』……………一二三

二 ファシスト・ウォルの『計畫經濟』……………一二三

三 自由主義歴史家ピアドの『計畫經濟』……………一二五

四 スールの『計畫經濟』……………一二六

三 大ブルジョアジの『計畫經濟』——スウォープ案……………一二四

四 ファシズムへの途……………一二四

二 資本主義的計畫經濟は可能であるか?(ルイス・フィッシャー)……………一二五

一 『計畫化』思想の發生……………一二五

二 ソヴェート同盟の計畫經濟とアメリカの『計畫經濟』……………一二五

第二部 イ ツ……………一二六

一 銀行統制と社會民主主義(エー・ローレンツ)……………一二六

目次

六

一 社會ファシストと銀行統制……………一六一

二 銀行統制の本質……………一六五

二 ドイツ労働組合總同盟の計畫經濟案(ワルター・ネッテルベック)……………一七一

一 シュライヒャーへの途……………一七一

二 ドイツ労働組合總同盟が身分制國家を宣傳する……………一七五

三 職業身分制秩序と労働者階級……………一七六

第三イギリス……………一八〇

『國民計畫化』—労働黨最近のトリック(ベン・フランシス)……………一八〇

人名索引

手引

『計畫經濟』或ひは『統制經濟』の問題は我國でも流行思想になつた。本書はヨーロッパ及びアメリカに於ける同問題の主要資料を収録したものである。

第一部では『計畫經濟』『統制經濟』問題の概觀を興へ、第二部では一九三一年八月の『計畫經濟世界會議』(アムステルダム)についての諸報告を集め、第三部ではこの思想の發祥地たるアメリカ合衆國を初め各國別の資料を紹介した。

資本主義の『計畫經濟』

第一部 資本主義『計畫經濟』理論

一 資本主義の下での國民經濟『計畫化』(イー・マルコフ)

——一九三一年八月二十三日から二十八日までの

アムステルダム計畫經濟會議の成果について——

〔資本主義の下での國民經濟の計畫化についてのデマゴギー的謔言〕
DKI一九三一年十月二十五日第三十八號による〕

一 世界經濟の狀態と『計畫經濟』

五ヶ年計畫の第二年度の成果と遂行とが廣汎な大衆の共有財産となつて、ボルシエヴィキは五ヶ年計畫を遂行する、しかも五年とはかゝらずに四ヶ年で遂行するだらうといふことがどんなに頭の狂つた懷疑家や曲解家にも明かになつた一九三〇年の末以來、資本主義諸國では、國民經濟に對する『計畫化の效用』についての考察に耽ることが突然流行となつた。だがこの計畫化の重要性についての見解の『方向轉換』に直接の衝擊を與へたのは、決してソヴェート同盟の成果だけではなく、

義を通じてある。社會民主黨の國家資本主義の宣傳は全線に行亘つてゐる。そしてこれはプロレタリアートを×××階級闘争から外らせやうとする新たな企てである。彼等がありとあらゆる社會主義への途を考案してこれをプロレタリアートに示さうとするのは、専らプロレタリアートが唯一の××××、つまりプロレタリア××××へ行かないやうにするためなのである。

國家資本主義は生産手段×××を揚棄しはしない。右のやうな方策が示してゐるやうな資本家のゐない資本主義國家といふものは存在し得ない。資本主義國家をその手中に收めてゐる個々の企業家は、それを『合法的』に買ひ取つたのである。國家が個々の資本家を、時としては若干の經濟部門をまでも、階級の利益のための國家統制に無理に服従させるのは、ただか全資本家階級の存在が危険に陥つた非常時だけである（世界戦争中のドイツ國家資本主義）。だが、資本主義を救済するために石炭生産の土地國有化をやらうといふ破産した労働黨の出してゐるやうな要求は、意識的な欺瞞である。それは勿論擔税大衆を犠牲にしての資本主義的生産部門救済の企てを意味するに過ぎないが、しかし現下の×××つゝある資本主義にはこのやうな大げさな×××ブルジョア的方法を取ることはできないのである。

では今日社會民主主義者が國家資本主義についてこんなに騒ぎ立てゝゐるのはなぜであるか？

一、それは、恐慌と資本主義經濟の一切の貧困とからの血路を持來すことのできるものは、たゞ社會主義的計畫經濟だけであるといふ信念が、廣汎な勤勞大衆の間に、特にプロレタリアートの間に、ますます根を下して行つてゐるからである。社會民主主義者はこの氣運をますますもつて考慮に入れなければならない。それに彼等はもはや激しい世界經濟恐慌の教訓を學んだあとの労働者階級には『組織化された』資本主義の理論を御馳走してやることはできず、さうかと言つてプロレタリア××××に進むわけにも行かないので、現在では『組織化された』資本主義の理論の代用品たる國家資本主義の理論を作り出してゐるのである。そして彼等は何よりも先づ、オーストリアに於ける信用銀行の、ドイツに於けるダナート銀行及びドレスデン銀行の救済のやうな若干の事實を熱烈に支持して、これを自分たちの利益になるやうに利用してゐるのである。

×××によるこれらの銀行の救済はプロレタリアートの利益のために、つまり労働者階級の狀態を改善し、失業者を減少させる等々のためにやられたものでは決してない。それは社會民主主義者が労働者に吹込まうと努めてゐるやうに社會主義的原則の勝利では決してなく、むしろ何よりも先づこれらの銀行の崩壊によつて×××瀕した多くの資本家の×××××し、この資本家の×××の救済費を勤勞大衆の肩に轉嫁するための方策であつた。勤勞大衆はこの救済活動の資金を新×及び××

の形態で國家に納めなければならぬのである。

二、國家資本主義の理論はなほ別の意義を持つてゐる。世界經濟恐慌は××××××を著しく促進させた。素晴らしい××××××が、個々の國々ではプロレタリア××××××のための決定的な××××へも、捲き起されてゐる。ブルジョアジーはこれらの闘争のために武装してゐる。これらの××××、資本主義國家がプロレタリアートの××××對してブルジョアジーの階級支配を擁護し、プロレタリアートの××××××で押へつけ叩き伏せることを可能にするために、個々の生産部門、就中軍需工業に關聯した生産部門を、直接にその統制の下に置く（だが生産手段の××××は排棄されない）といふことを、必然的にしてゐると言つてよいだらう。ソヴェート同盟に對する帝國主義諸國の軍事的干涉の場合にも、新たな帝國主義戦争の場合にも、かういふことが起り得る。そして社會民主主義者は興亡ともに資本主義の存在と結びついてゐるものであるから、彼等もまたブルジョアジー××××を強化する手段としての國家資本主義の發展のための地盤をイデオロギーの上から準備しなければならぬ。國家資本主義の理論はこのために役立たなければならぬ。そしてこの國家資本主義は労働者にとつては新たな××××××を意味し、ブルジョアジーの軍事的擁護を意味するものである。

きまりきつてマルクスからの引證をやつて（マルクス、『資本論』第二卷の民衆版へのカウツキ

一の序文またはレンナー著『資本主義的經濟の理論』参照）、資本主義の下でも計畫化が可能であるといふ幻想を労働者の間にまき散らしてゐるこの傾向は、労働者の間に於ける社會ファシスト的腐敗化活動の、労働者階級の權力のための闘争への途上に横はつてゐる最も大きな障碍をなす活動の本質的な一構成部分である。

アムステルダム會議でのこの傾向の代表者はフリッツ・ナフタリであつた。この會議がすでに終りに近づいてから、ナフタリは『組織化されてゐない資本主義の組織化』に關する彼の「意味深長な理念」をもう一度改めて全世界に御馳走するために現はれた。「國家の組織化的作用」、地方自治體の經濟指導の役割の増大に關する彼の演説、即ち「銀行Ⅱ及びトラスト統制の組織化」と従つてまた國民經濟計畫の「組織化」とに對する熱烈な要求は、勿論逆立ちしてもこれ以外のものではあり得ないが、その抽象さと頼りなさや曖昧さとで人目をそばだたせるところの、それでゐる労働者を愚鈍にするといふ最も具體的な目的を追求してゐるところの、美辭麗句の混合物であつた。實際ナフタリはたゞ、彼がこの會議の前に「進め」のなかで簡単に展開したところの『組織化された資本主義』に關する「綱領的」理念を通俗化したに過ぎなかつた。彼は劣悪な資本主義經濟から計畫的な指導に、經濟の統制に至る途を示すやうな『改革』の實行を要求した。だがナフタリの無内容

一 資本主義の下での國民經濟計畫化

な演説のなかにははつきりした目的が匿されてゐた。即ち、彼は一般的な美辭麗句を連發することによつて階級的武器の鋒先を『計畫經濟思想』に停止させ、このブルジョア會議で資本主義の下でも國民經濟の計畫化が可能であるかのやうな印象を呼び起さうとしたのである。

二 獨占資本家の『計畫化』

第二の傾向はトラスト資本の線に沿つてゐる。つまり、新たな獨占組織を『形成』し、新たな協定を締結し、新たな諸制限等々を採用するための鬭争の線に、新たな販賣市場を獲得し、高率の利潤を手に入れ、『すでに分配されてゐるものの再分割』をやるための鬭争を、ソヴェート同盟に對する干涉の組織と新たな世界戦争の組織と労働者階級の×××對する×××とを、『ヨリ組織的』にやることができるやうにするための線に沿つてゐる。『計畫化』といふスローガンは獨占資本のありふれた事務『統制』の見え透いたごまかしに過ぎないのであるが、このスローガンの下に金融資本の露骨な、攻撃的な××政策と××政策とが進められてゐる。大資本主義的獨占の『計畫化』は現在製糖業、弾性ゴム採取業、珈琲栽培、銅山、鉛採掘業、電氣工業その他のありとあらゆる經濟部門の多種多様な『五ヶ年計畫及び三ヶ年計畫』にその沈澱物を見出してゐる。

獨占資本のこの種の方策が『計畫化』とは何の關係もないといふことは分り切つたことである。

それは巧みな詐欺であつて、實際には生産、販賣及び價格の『統制』をやり、『資本主義の計畫化』といふ看板を掲げて大衆を愚弄するための、獨占團體のごくあり來りの政策がやられるのである。社會ファシストたちが熱心にかつぎ廻つてゐるこの近代的な看板は、大資本家たちが彼等のうしろ暗い陰謀の口實にするために借りて來たものなのである。『計畫化』といふ社會ファシスト的美辭麗句は、獨占資本の經濟的カンバーニヤの内容をなしてゐるこのうしろ暗い陰謀にそつくり照應した形式である。

この大衆愚弄の方法に對する鬭争は、社會ファシストの『國民經濟計畫』に對する鬭争よりも容易である。といふのは、この實踐的な『計畫』はそれが實現されて行くにつれて、資本主義的生産様式の無政府状態を排除するどころではなく、それを極度に増大させて行くので、『計畫化』をやる資本家自身がつねに彼等が資本主義の無計畫性に對する鬭争に全く無力であることを告白せざるを得なくなるからである。

アムステルダム計畫經濟會議で一番腹藏なく述べ立てられたのは外ならぬ右の立場であつた。資本主義的獨占の、またはその助けを借りた、計畫化の思想は、大部分の公式報告のなかを赤い絲のやうに貫いてゐた。『國民經濟計畫化の問題』に關するローヴィン博士の主要報告は、資本主義的

獨占の方法による國民經濟の計畫化の憚るところのない理論的基礎づけに捧げられてゐた。彼の理論の基礎は、一定の、種々な時期と地方とに妥當する生産費と資本家の「公正な利潤」とを參酌して計畫的に決定されるころの、いはゆる「社會的価格」であつた。ソヴェート・ロシアの代表同志ローニンがそのローヴィン批判のなかで次のやうに強調したのは絶対に正しかつた。即ち、これはすべて根本的に見れば、市場に對する一定商品量の「割當制度」に歸着する、つまり根本的に見れば今までにすでに遂行されたか、または現在なほ資本主義的獨占によつて遂行されてゐる（深刻な反對と失敗とをもつて）諸方策と何等選ぶところがない。だから、ローヴィン博士は或ひはその報告のなかで何か目新しいものを持出したと考へてゐるかも知れないが、實際には彼は實踐によつてとうの昔に否定された事實を辯護してゐるのである。なぜならば、資本主義的獨占によつて生産、販賣及び價格を統制するといふ政策がことごとく破産に終つてゐるといふことは、今や動かすことのできない事實であるからである。

三 經營内の計畫化を社會全體へ

最後に、第三の傾向は個々の資本主義的經營のなかで「計畫思想を實現」しやうとするものである。これに屬するものは生産の科學的組織化、冗費節約運動、テイラー・システム及びフォード主義である。こゝでもまた個々の資本主義的經營の經驗が「理論家たち」によつて無批判に全資本主義經濟の上に引移されてゐる。

この傾向は殆んどすべての資本主義國に於て、主として技師、技術家、一切の「合理化指導者」、「冗費節約運動の組織者」等々からなる小ブルジョア層の多かれ少かれ「急進的」な部分と結びついてゐる。ひつくるめて見るとこの種の「理論家」は全く濟度することのできない自分の頭の蠅を追へない精神錯亂者である。彼等が批判を行ひ、資本主義の不生産性に關する事實即ちその不生産的な支出や、資本主義的生産及び分配様式の無政府状態を搜し出してゐる間は、彼等も若干の興味を惹く。だが彼等がその治療方法に關する具體的な提案をもつて現はれて來るや否や、彼等は全く濟度すべからざるものとなる。

この種の「資本主義の計畫化」を代表する傾向の代辯人は、アムステルダム會議では、テイラー主義者協會（合衆國の合理化指導者達の團體）の全權バーソン博士であつた。彼は「科學的管理の實踐並びに原理」についての報告をやつた。彼はその報告のなかで若干の商品の「工作位置」、管理及び販賣（商業）の組織化に關する一切の諸問題を概説した後で、それだけでは不充分だといふ結論に到達した。

『科學的管理は一定の限定された(生産)領域の安定化の過程で次のことを發見する。即ち、統制に服しない非組織的外國の影響を受けるから、完全な安定化といふことはそこでは全く不可能である。生産の科學的組織化も亦た、一定の限定された領域の安定化の過程はたかだかそれを取り巻く全經濟の不安定を増大させるだけであるといふことを發見する』(註)。

(註) エッチ・エス・パーソン博士『科學的管理の原理並びに實踐』六頁。

そこで彼は、『工作位置』、區分、經營の)管理の領域に於ける科學的成果を一國民經濟部門の全體に、否個々の國民經濟の上にさへも、擴張しなければならぬと結論を下してゐる。

比類のない失業と未曾有の激烈な恐慌と國民經濟上の無制限な不經濟性とを惹き起してゐる近代資本主義の全批判に於ては、パーソン博士は疑ひもなく正しい。だがその提案となると、彼は全く駄目である。パーソンには決定的な問題に對して個々の經營の組織化方法を全國民經濟に擴張すべきであるといふやうな回答を與へる資格はない。彼がこんな回答を與へる資格がないことはわかり切つたことである。なぜならば、プロレタリアート×××なしに、プロレタリア×××××なしに、資本主義×××なしに、國民經濟の計畫化をやるといふことはできない相談だからである。

三 資本主義『計畫經濟』の批判

一 方法論的根柢

さて最近イギリス、合衆國、フランス、日本その他で問題になつてゐる國民經濟計畫の吟味と批判に移るならば、吾々は次のやうに言はなければならない。即ち、これらの計畫はすべて實際の計畫經濟をやらうと企てゝゐるものではなく、むしろ計畫經濟に關する幻想を作り出さうと企てゝゐるものであつて、根本的に見れば現在のところ『一般的な』おしやべりの段階を出でず、その輪廓は立案者にとつてもそれを實行する人間にとつても依然として極めて不明確であり且つ曖昧である。

これらの『五ヶ年計畫』や『十ヶ年計畫』の方法論的基礎は何であるか？ 第一に、それはすべて、×××資本主義社會の無政府状態を排除するか若くは排除することができる、その結果資本主義は資本主義的獨占の支配によつて調整された、『拘束された』、束縛された、等々の資本主義に轉化する、と主張するまちがつた、虚偽の、辯護的な『組織化された資本主義の理論』に立脚してゐる。第二に、これらの國民經濟『計畫』の一部分は著るしく國家經濟の領域に關係してゐる。ブルジョア的な物知りはすべて國家的方策の遂行を『計畫經濟』と考へてゐるのであるから、彼等にとつては全く論理的な話である。最後に、第三に、それはその生みの親さへも信じてゐない證明済み

のまちがった命題から、つまり、「計畫化」は任意の社會的環境のなかで統一的な効果をもつて遂行される、換言すればその生みの親の『希望』によれば任意の社會的内容に着せることのできる形式であるといふ命題から出發してゐる。例へば今年「一九三一年」の二月十七日の「チャーナル・オヴ・コマース」は次のやうに述べてゐる。

「もしソヴェート同盟がその獨自の目的のために數年ならずしてその産業機構を建直すことができるとすれば、次のやうな疑問を提起しても差支へないだらう。即ち、なぜ生産装置が高度に發展してゐる他の諸國も同じやうな方法で經濟的復活のために必要であると考へられる變革をやつてはいけないのかと」。

この疑問に對する回答は極めて簡單である。曰く、資本主義はその全社會的性質から言つて計畫經濟とは調和し得ないからである。國民經濟的計畫化は勝手氣儘な經濟制度にかぶせることのできる無内容な形式ではない。それは必然的に生産の非組織性と無政府状態とに立脚せざるを得ない資本主義的生産諸關係とは原則的に異つた新たな型の生産諸關係である。

二 階級社會での計畫經濟はいかにして可能であるか？

まだ階級が存在してゐる一社會に於ける國民經濟的計畫は、どういふ事情の下で可能であるか？

この疑問はすでに歴史的實驗によつて、マルクス及びエンゲルスの教義に完全に一致して、回答を與へられてゐる。第一に、生産手段の××××××××××といふ條件の下に於て。第二に、プロレタリアート××××××××××たる政黨によつて指導されるプロレタリア××××××××への國民經濟の全樞要個所の集中といふ條件の下に於て。第三に、プロレタリアート××××××××××といふ基礎條件の下に於て。このプロレタリアート××××××××××こそは社會主義的計畫化に對する一切の反抗を抑壓し、計畫化そのものをプロレタリア勤勞大衆の新たな社會主義的教育及び訓練の道具に轉化する可能性××××××××××の階級たるプロレタリアートに保證するものであり、このことはさらに一定の段階に達すると最後の資本主義的階級たる大土地所有の××××××××××と關聯してゐるものである。

資本主義の下でかういふ諸前提がたとへ近似的にでも作り出されるであらうか？ 決して作り出されない！ 私有財産に立脚する資本主義は勿論生産手段××××××××××して、これを國家の手に集中させることはできない。

二三の右翼日和見主義者達が何と言はうとも、資本主義の下では、國家が一國の國民經濟の全管理をその手中に集中さすべきであるといふ國家資本主義的空想を、實現することはできない。なぜならばそれは資本家××××××××××することになるからである。資本家のゐない資本主義といふものは存在

し得ない。のみならず自由競争時代の古典的資本主義の格言は周知の通りかうであつた。「國家の經濟への不干渉」。獨占資本主義の時代には、特に戦後は、國家がますます頻繁に經濟に干渉し始めた。だがこのことは第一に××裝置が銀行、トラスト、取引所等の「無冠の帝王」の手中に収まり、××が右のうちその時に最も勢力のあるグループの意志を無制限に實行に移す場合にのみ可能となつたのである。

同様にまた資本主義の下では、種々な資本家のグループ間の競争を排除するやうな計畫的な經濟政策をやる機能もない。資本主義國家では國民經濟の領域に於ける一切の方策が、工業家と農業家との間の、銀行資本、トラスト産業、外國貿易業者等々の間の喧嘩の種になる。彼等が一致するのは勤勞者を搾取し抑壓することにかけてだけである。

最後に、これが特に重要なのだが、ブルジョアジー×××をやつてゐるブルジョア國家と、プロタリアート×××をやつてゐるプロタリア×××との間には、吾々の當面の問題に關聯して、次のやうな基礎的な差異がある。即ち、社會主義的經濟計畫を遂行してゐるプロタリア國家は單に資本家階級×××からのこの計畫に對する反抗を押しつけるだけでなく、またこの階級そのものを××××××するといふことである。これに反してブルジョア國家は、その資本主義的搾取計畫を遂行するに當つてプロタリアートの×××にぶつかり、あらゆる方法でこれを克服するのであるが、しかし單に階級としてのプロタリアートを清算することができないだけでなく——プロレタリアートがなければブルジョアジーは一日として存在することができない——、却つて自らプロレタリアートによつて××××××やうに運命づけられてゐるのである。資本主義諸國に於ける「計畫經濟」に關する一切のおしやべりが現はれて來たのは、かういふ資本主義の清算の×××が著しく成熟して來た恰かもその瞬間に於てであつた。

さて吾々はブルジョア議會の内外で行はれた最近の歴史的闘争を思ひ起して見やう。イギリスの炭坑業に關する法律草案、ヤング案に關する緊急命令（ドイツ）、關稅率の採用（合衆國、フランス等々）、勞働時間、社會保險等々に關する法律。これらの法律のすべてをきつかけとして到るところに、一方では種々な資本家のグループ間の闘争が、他方では資本家と勞働者との間の闘争が、敵の様子が不斷に變化する闘争が捲き起された。

こゝ暫らくの間に資本主義諸國で雨後のたけのこのやうに現はれて來た一切の「計畫」は、一般に一國の國民經濟の計畫では決してなく、實は一定グループのブルジョアジーの利己的な利害から出發した計畫である。一例として最近ロイド・デヨーチが熱心に辯護してゐるイギリスの「電化十

ケ年計畫』を取つて見やう。全く明かなやうに、これはイギリス重工業の言ひふるされた『計畫』であつて、土地貴族及びその他の生産部門の打ち勝つことのできない妨害につき當るもので、そのために資本主義のイギリスでは實行することのできない代物である。

×××つゝある資本主義を救済するために種々な經濟計畫を考案する資本主義的『理論家』たちが見落してゐるのは第一に、個々の經濟部門の『統制化』はまだ國民經濟的計畫化ではないといふことであり、第二に、今日の資本主義諸國では國民經濟の個々の部門の間には密接な結びつきがあつて、いかなる個々の經濟部門も全體としての國民經濟の無政府的な資本主義體制に依存してゐるものであるから、資本主義の下では一つの生産部門の『計畫化』さへ不可能であるといふことであり、最後に、資本主義の下ではどんな『計畫』の遂行も資本主義の枠の中では解決することのできない諸對立の極度の尖鋭化を意味するから、どんなに巧妙に考案された『資本主義的計畫』でも必然的に坐礁するやうに運命づけられてゐるといふことである。

資本主義的『計畫化』の理論家たちが經濟狀態の安定化を論ずるとき、彼等は一體何を指してゐるのであるか？ 彼等が通常考へてゐるのは、(a) 個々の生産部門の發展に於ける一定の均衡關係であり、(b) 過剰生産の克服または少くともその防止であり、(c) プロレタリアートの階級闘争の排除または緩和である。

だがとうの昔から知られてゐるやうに、『資本主義の世界には均等性も調和的な支配も均衡性も決して存在しなかつたし、また存在することができない』(レーニン)といふことはどんなマルクス主義者でも、否近代科學に通じてゐる人間なら誰でも『知つてゐるところである』。資本主義の下で恐慌を排除するといふやうなことは『ブルジョア經濟學者のお伽噺』(レーニン)であつて、これは現在の世界經濟恐慌が美事に實證してゐる通りであるといふことも、同様にまた周知のことである。では階級闘争の排除または緩和といふことはどうかと言へば、かういふ『努力』が全く無効であることを確信するためには、たゞ今日資本主義諸國で起つてゐる事實に眼を轉ずればそれで充分である。

のみならず、一切の國民經濟的計畫化が資本主義の下では望みがないといふことは、吾々××××××××にだけでなく、また目先のきくブルジョア的なまたは小ブルジョア的な物知りにもわかつてゐる。例へばステュアート・チェイズは明かにかう聲明してゐる。即ち、總國民經濟的計畫化を合衆國に提案したとすれば、『フォード君でさへもかういふ提案には狼狽するだらう。平凡な人間には月世界への旅行もこれほど困難な仕事ではないかも知れない』と。だがそれにも拘はらず資本

家とその理論家と辯護人が『國民經濟的計畫化』について兎や角言つてゐるとすれば、それはブルジョアジーのいゝ氣な社會的偽善と階級的欺瞞との一表現である。

三 資本主義の下での「計畫化」の失敗

資本主義諸國に於ける國民經濟計畫化に關するおしやべりは暫らく措くとしても、資本主義的×は小麥、彈性ゴム、砂糖、珈琲、錫、亞鉛、銅等々の商品の價格と販賣とを「計畫化」し、『統制』するためには大童になつてゐる。これらの諸方策は本質的には制限政策の性質を持つてゐる。換言すれば價格の釣上げをやるために市場に持ち出される〔商品〕數量を人工的に統制しやうとする性質を持つてゐる。彈性ゴムの採取を制限するためにイギリスで採用されたステューヴンソン法の排棄からも、ブラジルで採用された珈琲貯藏の破壊からも、資本家たちは何にも學ぶところがなかつた。だが右の何れの場合にも一目で明かなやうに、これらの方策は資本主義の下では發展の不均衡と生産の無政府状態との結果として完全に失敗するやうに運命づけられてゐるのである。その理由は、第一に、或る一地方または一國に於ける生産制限は、他の一地方または一國に於ける一層強度の生産増加を呼び起し、以前にはこれらの生産物を生産しなかつた土地でその生産を刺戟する——例へばブラジルの棉花栽培、フロリダの彈性ゴム栽培等々——からであり、第二に、販賣の集中化はまだ決して生産の集中化を意味しないからである。例へば右に擧げた生産物の生産者がどの國でも百萬をもつて數へるところの農業では、販賣條件がいくら悪化しても、一定の任務即ち意識的な生産制限をやるために、それを「組織化」し、『團結』させるといふことは、どうあつてもできない。農業生産者は誰も彼もその収入を増加させやうとして必然的に生産を擴張する。そして彼等が取り結んだ一切の「制限協定」はこれまた必然的に私的資本主義的無政府状態と諸對立とのためにはね飛ばされてしまふ。

資本家たちは販賣の統制と安定化とに全く失敗してしまつたので、最近では播種面積の制限を煽動することによる過剰生産に對する積極的な闘争方法に、否さらに時としては貯藏品の破壊とか、農場の「休耕」とか、農業生産に巧妙な「毒害」の方法を適用することによる珈琲の木や茶の木の破壊とかいふ野蠻な形態にまでも、かぢりついてゐる。

こゝで吾々は何よりも先づ、マルクスがすでに六十年以前に農産原料品の生産を「組織的」に統制するといふ思想をこつぴどく皮肉つてゐるといふことを思ひ起す。マルクスは『資本論』第三卷のなかで次のやうに書いてゐる。

「原料の生産を共同的に、干涉的に、豫測的に統制しやうとする一切の思想——かういふ統制は

大體に於て、資本主義的生産の諸法則とは全然一致することのできないものであつて、つねにただな望みに止つてゐるか、でなければ極めて危険な、施すすべのない瞬間に於ける例外的の共同行爲たるに止るものである——は、需要供給が相互に調節するに至るだらうといふ信念に場所を譲る』(『資本論』第二卷第一部ハンブルグ一九二二年九六—七頁、邦譯改造社版九三—四頁)。

このマルクスの言葉は、その施すすべもなく濟度し難い點に於て、穀物、棉花、原料品等々の「生産を共同的に、干涉的に、豫測的に統制しやうとする」の何等選ぶところのない數多くの資本主義の「計畫經濟屋たち」の肺腑をえぐるものがあり、直接彼等のために書かれたものゝやうである。

資本主義的獨占の「計畫化」に關聯してゐる諸事實の研究から、次のことがはつきり出て来る。即ち、國民經濟計畫を生産擴張の道具に役立てゝゐるソヴェート同盟とは反對に、資本家たちは否應なしに生産制限の方向に向つてのみ「計畫化」をやらざるを得ない。さらにまた、ソヴェート同盟では個々の部門の計畫化は國民經濟計畫に従屬させられ、これによつて現存生産資金の分配と組合せとの均衡が得られるのであるが、資本主義の下での「計畫化」は他の生産部門を犠牲にしての一生産部門の無理やりの強化を意味してゐる。換言すれば、資本主義の下では個々の生産部門の「計畫化」は生産の無統制と無政府状態とを著るしく増大させるので、國民經濟的計畫化の一切の可能性がなくなつてしまふ。だがこゝから次のやうな結論が出て来る。即ち、社會的生產と個人的領有との對立の結果、資本主義社會に於ける發展の不均等と生産の無政府状態との結果、恒久的な「統制」の組織化や「計畫化」や「生産及び販賣の統制」やは、個々の生産部門に於てさへも全然できない相談であつて、初めから失敗するやうに運命づけられてゐるものであると。

四 ソヴェート同盟の計畫經濟と資本主義「計畫經濟」

では「計畫化」の第三の傾向、つまりどの程度まで資本主義の下で個々の經營を「計畫化」することができるか、またそれが資本主義諸國に於ける總國民經濟の「計畫化」への必要な橋渡しになるかどうかといふ問題に移らう。

個々の資本主義的經營の内部での「計畫思想」でさへも狭い限界のうちに閉ぢ込められてゐるものであるといふことを最もよく實證してゐるものは、現在の恐慌である。この恐慌は實際よく利く統制と生産統計とを持つてゐる數多くの經營の閉鎖を惹き起した。生産が市場の需要を遙かに追ひ越すやうに作用する資本主義的生產様式の無政府状態は、また否應なしに個々の資本主義的經營の「計畫」がはね飛ばされるといふ結果を來すだらうし、また來さざるを得ない。なぜならば、どん

な景氣指數でも工業的過剰生産恐慌を豫見したり豫防したりすることはできないからである。このこともまた現在の世界經濟恐慌でこの上もなくはつきりと示されてゐるところである。

現在數多くの資本主義諸國で、特に合衆國で、種々な大資本主義的獨占團體が何年にも亘るところの自分たちの「生産」並びに販賣計畫」を作製してゐる。そこではこれらの經營またはコンツェルンの「五ヶ年計畫」や「十ヶ年計畫」が問題になつてゐる。これらの計畫の「原動力」は先見であり、推量に基づく將來の販賣條件の評価である。だが將來の諸關係の評価は資本主義の下ではつねに著るしく推量に立脚せざるを得ないし、非常に不確かなものたらざるを得ないから、個々の資本主義的經營または團體の内部での「計畫」さへもことごとく大體に於て空中樓閣であつて、何等確實な土臺を持つてはゐらないといふことは明かである。

なほ注意しなければならないことは、個々の經營またはコンツェルンの生産計畫は一國全體の國民經濟計畫と同一のものではないといふことである。たとへ個々の經營のなかで資本家が彼の豫定した生産計畫を、それが部分的に彼の意志のまゝになる限り、或る程度まで維持することができたとしても、これは最高度に矛盾し對立する經濟的諸關係の複雑な組合せを伴ふ資本主義の下での「國民經濟的計畫化」の可能性を與へるものでは絶対にない。

經營の「計畫」から資本主義の下での「國民經濟的計畫化」へのこれらの無批判な一般化のすべてに共通する中心的な方法的誤謬は、經營やトラストや産業部門の「管理」の技術的形態としての計畫と新たな型の生産諸關係としての、新たな型の經濟生活の統制としての國民經濟的計畫化とを粗雑にも混同してゐるといふことである。

だから資本主義の下での國民經濟の「計畫化」を論ずる場合に次のやうなことが考へられてゐるのである。即ち、(a)「計畫」の單なる技術的形式的側面。この場合にはこの形式とその内容との間の一切の關聯がひきちぎられ、その本質が平面化される。(b)マルクスレーニンの教義のうち「資本家」に氣に入るやうな部分だけの利用。これはこの××××の偉大な××××達から出て來た國民經濟計畫化に關する××××思想を大衆の面前××××するためである。彼等は主人がゐるのに勘定をしてゐる。つまり計畫即ち計畫經濟及び社會主義のための闘争に於ける労働者階級の創造的な役割を考慮せずに計畫化をやらうとしてゐる。だがこのことこそは、根本的に見れば、資本主義諸國の勤勞大衆に對する資本主義的「計畫化」の本質のヨリ急速な曝露を促進するものである。スターリンは最近ソヴェート同盟の經濟學者に對する演説のなかで次のやうに言つた。

「生産計畫は歸するところ數字と仕事豫定表との計算に過ぎないと考へるならば、それは馬鹿な

一 資本主義の下での國民經濟計畫化

三

ト同盟で×××××たプロレタリアートが實際やつてゐる計畫化を全力を盡して説明し×××なればならない。

二 恐慌と資本主義「計畫經濟」(ヴェー・オシンスキー)

(計畫經濟世界會議(アムステルダム一九三一年八月)へソヴェート同盟代表から提出された資料のうち、オシンスキーの「國民經濟計畫化の諸前提、本質及び諸形態」の第一節「資本主義の恐慌と資本主義經濟へ計畫原理を採用するための諸提案その不可能」)

一 資本主義體制の諸矛盾

現在資本主義經濟は自分が運命づけられてゐるその最大の恐慌に見舞はれてゐる。しかもこの恐慌は異常に長い繼續を持ち好轉の印も見えないのであるが、その深さと鋭さとの點でも、またその一般的な擴がりの點でも實に最大のものである。指導的諸國に於ける數十パーセントの工業生産制限、數千萬の人間を含む失業、戦前の高さの半分に當る小麥價格の下落や「繁榮」期とくらべて三分ノ一に當る棉花價格の下落や砂糖Ⅱ及びゴム市場に於ける一つの現實的破局、等々と結びついた鋭い農業恐慌、途方もない消費不足、いやそれどころでなく都市及び農村に於ける勤勞者の饑餓、

さうかと思へば資本主義的「國民」經濟の特徴を示す試み、即ち「過剰な」生産資源や商品の破棄などといふ手段によつて過剰生産をなくする試み（石油坑の埋没、甘蔗の減却、穀物を機關車の燃料として使ふこと、合衆國に於ける全棉花收穫の三分ノ一を廢棄させる提案、ブラジルに於ける珈琲、オーストラリアに於ける羊、カリフォルニアに於ける桃の大部分の破棄、等々）——これらすべてのことは現恐慌の特徴的な特質である。最近に至つて、それは獨占資本主義の重要な結び目の×××いふ形態を取り始めた（ドイツに於けるダナート銀行及びそれと關係を持つ二三のコンツェルンの崩壊）。このことは全ドイツ經濟を一般に脅したし、またヨーロッパに波及しつゝある一つの信用恐慌、及び始まりつゝある本位貨の震撼をも作り出した。このやうな情勢にあるので、資本主義の反對者ではなく今度はその指導者と擁護者とが、體制そのものゝ存在といふ問題を提案し、そして恐慌がその一つの血路の探求に、また資本主義體制の色々な種類の改善の模索に従事してゐる状態である。

それと同時に、社會主義的經濟體制を持つ世界で唯一の國——ソヴェート同盟——では一九三〇年ばかりでなく一九三一年前半に於ても引續き生産の急速な増大が行はれてゐる。部分的に生じた諸困難は成長に伴ふ困難であつた。そしてその特徴は、資本主義的術語で言へば、「勞動力供給の不足、つまり失業とは反對の一つの現象である。一九三一年に於ける九百五十萬ヘクターに上る作付面積の増加、棉花栽培の倍化、清算された大農の農場の後に現はれた國營農場及び集團農場に於ける牧畜の急速な増大、盛大になつた漁業、織物工業に於ける生産擴張、等々はソヴェート同盟に於ては經濟的不幸ではなく、勤勞者の消費とその幸福との基礎の増大となつてゐる。一九三一年の半ばには「標準化された分配」と食料券（これらの諸制度については外國に於けるソヴェート同盟の反對者が非常に多くのことを書き散らしてゐる）との漸次的廢止の問題が全く現實的に提起されたが、これは全く當然な話である。また、世界穀物會議に於てソヴェート同盟の代表者が需要供給を「調節」するために穀物作付面積を制限しやうといふアメリカの提案にどうしても賛成することができなかつたが、これまた當然なことである。

世界資本主義恐慌のあまりにも淺薄な説明は全部これを等閑に付することにして、こゝに二つの命題を確認することができる。資本主義體制の擁護者たちも亦たこの命題を恐慌の一説明として唱へ始めてゐる。二つの命題とは、第一に、經濟過程の自然生長性、不調和性、無政府状態、そして第二に、生産の發展と消費者の壓倒的部分である大衆の購買力の發展との間の深い溝がこれである。ソヴェート同盟の生きた實例との比較といふ背景の前では、資本主義のこれらの諸矛盾は特に

はつきり現はれる。そしてソヴェート同盟にこの矛盾が存しないといふことは明かに國民經濟上の計畫と結びついてゐるものであるから、ソヴェート同盟から「計畫的方法」を借用して、これを資本主義經濟に移入し移植しやうとする思想がますます擴がり始めたのである。この場合資本主義經濟體制を、社會主義的基礎——計畫的方法が事實上その上に基礎をおきそれから實際に發生し、またそれが計畫的方法の一般周知の成果を事實上條件づけてゐる——によつて取り代へるべきだなどといふ考へはないのである。

生産、流通、金融、等々に於ける無政府状態、生産と購買力との間の裂け目は、決して個々別々に排除し得る孤立的な現象ではない。この場合それから切離すことのできない全複合體は常に且つますます増大する力をもつて——しかもすでに一世紀以上も——存在し、存続し得たのである。この複合體とは資本主義的生産様式であつて、その特徴は次のやうに數へ上げることができる。

生産手段の私有。社會的分業及びそれから流出する都市と農村との間の對立。市場を通じて、且つ價值法則に基づく經濟單位の結びつき。一定の發展段階に於ては、生産手段の諸大企業への集中、生産手段の資本——資本家階級の所有——への轉化。直接生産者の幾百萬の大衆の、労働者及びプロレタリアの階級への轉化、その唯一の所有たる労働力は一つの商品であつて、その價格はその再生産の價值によつて決定される。小「獨立」生産者の尠大な中間層の——専ら農業に於ける——保存、彼等は資本、地主及び地代取得者、商人的「媒介者」、及び色々な寄生的集團によつて抑壓されてゐる。經濟發展の主なる動力としての利潤の獲得と資本の成長、この場合一方では労働力といふ商品の最小限の價格と餘剩價值生産上のその最大限の利用に向つて、他方では資本家間の競争に際して商品を最も高く且つ最も有利に販賣することに向つての資本家の努力。縦斷的または横斷的集中及び産業Ⅱ及び商業資本と銀行資本との融合の結果としての資本家の獨占的結合體の形成、このことは資本家の諸集團相互間及び諸生産部門相互間の競争を排除するものではなく、かへつてそれに一つの巨大な集中性と力とを與へるものである。全世界に亘る販賣市場××××、資本投下領域××××、安價な原料の××××の擴大。世界の分割及び各資本主義國家による最大限の植民地領域獲得を目的とする、國家權力を掌握した獨占團體（帝國主義集團）の鬭争。世界的規模での争覇戦及び労働力、小生産者等々に對する壓迫——別な形を取つた、だが遙かに強力な——の出現、その結果は全世界に於ける經濟的震撼ばかりでなく、帝國主義列強間の戦争、植民地××××、民族的抑壓の尖鋭化、増大する軍備、等々である。

このやうな諸關係の閉鎖的な内的に統一された複合體が存在するといふことは現實の一事實であ

る。その具體的な表現形態は萬人周知のところである（世界××、××Ⅱ及び××××國家及びⅡ國民の全體制を作り出した『平和』條約、一九二〇—二一年の世界恐慌、現在の世界恐慌、ロシアに於ける最初の××××××を含む一聯の諸××、及び新たな戦争に對する帝國主義諸集團の準備を含めて）。最近の半世紀は次のことを最もはつきり示してゐる。即ち階級的利益の形を取つた物質的利益が世界史の進行を決定すること、これらの利益のための闘争は弱められないどころか却つて一つの前代未聞の集中と擴大と鋭さを示してゐること、あらゆる經濟的資源と現代國家のあらゆる權力手段とまたイデオロギー的影響の強力な武器（科學、學校、教會、新聞雜誌）とを所有する帝國主義的集團はその支配を保持し擴大する闘争に於て人間の大衆的××××物的Ⅱ及び文化財の大量××××とを含むあらゆる手段に訴へてゐること。

二 計畫經濟の前提。資本主義『計畫經濟』は不可能

このやうな状態の下では、資本主義體制の二つの矛盾を別々に排除したりこの體制に計畫原理を別々に持ち込んだりする試みは、どうしたところで經濟的、社會的、及び政治的現實性を要求することはできない。これらの兩矛盾は必ず私有、階級、及び私有を保護するブルジョア國家權力の存在の上にその基礎をおいてゐるのである。『組合國家』と宣言されてゐるイタリア、こゝでは工業

家及び労働者は個々の工業部門の職業組合及び労働組合に加入する義務を負ひ、國民經濟會議の首脳部は生産及び市場を統制するやうにできてをり、一般に國家權力は經濟諸關係に著るしく干渉を加へてゐるのであるが、このイタリアも、あらゆる『非組合國家』と同様に、一般的過剰生産及び支拂能力ある需要の基礎からの生産の分離といふお定まりの状態に陥つてゐる。

資本家の『自發的』自己組織に基いて、資本主義體制へ計畫原理を採用する企て（アメリカ式提案）——トラスト及び結合禁止法の廢止、部門別の計畫Ⅱ及び合併事務局やまた個々の部門間の計畫化と結合とのための中央機關やの創設による——は、看板通りの目的の達成を保證するものではなくて、反對に事實上その下に隠されてゐる目的、即ち反トラスト法の廢止といふ目的の達成を保證するに過ぎないだらうことは自明である。だが一般に、個々の部門内部の、また個々の部門間の『計畫』（事實上は生産割當）Ⅱ協定のこの體系は、たゞ大獨占體の地位を鞏固にし且つ労働者及び農民の利益に對する攻撃を容易にするだけだらう。それは企業家の争覇戦をも大衆の消費不足をも取引所投機をも『資本の水割り』をも、大資本のあらゆる帝國主義的努力（これは強められるだけだ）をも、總結果としての恐慌をも取り去りはしないだらう。ドイツでは工業家がすでに戦前に於て個々の部門のカルテルとシンディケート、個々の部門間の結合體を作り出す可能性を持つたので

あるが、このドイツでは恐慌が特に猛烈に荒狂つてゐる。

それに劣らず望み薄なのは、計畫經濟機關——これは企業者、労働者、科學的技術的インテリゲンチアの代表者から成り、監視と統制・極端な場合には強制命令の権利を持つ——の助けによつて諸階級の協調、私有權の部分的制限、價格及び利潤の統制、労働者の或る生活水準の決定と「年」賃銀の採用、株式發行の統制、等々に基く計畫經濟の採用といふ提案である。計畫經濟世界會議に於けるその報告の中でローヴィン博士（ワシントン）の提案はさう言つてゐるし、また「經濟化された資本主義」理論のヨーロッパの擁護者の思惟過程も似たものである。

現代經濟の巨大な複雑な機構は、次の二つの前提のうちのいづれが一つの下でのみ機能し得る。即ち數萬または數十萬の企業者とその代理人（彼等はその企業の結果に人格的にも物質的にも利害關係を持ち且つ彼等の「個人的イニシアティブ」を實現する上で充分な自由を持つてゐる）の自然發生的な相互關係に基いてか、もしくは全國民經濟機構——或ひは初めは少くともその決定的部分——の統一的組織にある最も徹底的な全包括的な管理に基いてか、いづれかである。第二の場合には、指導者團の社會的同種性、彼等の意識及び意志の共通性が必要である。この場合これらの意識や意志は社會的利益に向けられてゐなければならず、私的利益に向けられてゐてはならぬ。また、

「企業者」の階級タイプの代りに、異なつた社會的教育、異なつた利益と習慣、異なつた世界觀を持つ本質的に異なつた社會的タイプの人間を置換へなければならぬ。さういふ人間になり得るのは一般的原則から言へばたゞ工業労働者のみである。そして、ソヴェート同盟では企業の指導者の九〇%以上が×××××労働者であることも決して偶然ではない（××××への服従は極めて重要な要素をなしてゐる。それは社會的目的、意識、意志及び行動の統一性を保證する）。また根本的問題としての計畫的社會的生産に對する全労働者大衆——もしくは初めは少くともその活動的多數者側——からの絶對的な歸依が必要である。その時初めて複雑な、提起することも實現することも困難な國民經濟の計畫を、有効に作成し實現することができる。

これら二つの唯一可能な經濟の種類代りに私は一瞬間次のやうな一つの狀態を假定しやう。即ちそこでは、經濟的配慮の實行とイニシアティブとのための從來の刺戟と從來の形態とは破壊されたが、指導者幹部は依然として殘存してをり、制限された權利を持つ企業家に對しては、混合的な社會的構成を持つ監督機關が對置され、この機關は計畫し統制するが管理については少しも責任を持たず、またその混合的な社會的構成の結果として諸利益と社會的心理との多様性を示す。その上になほその根柢に保存されてゐるブルジョアの利益、習慣、及びイデオロギーを促進する環境が存

在する。他方労働者大衆は計畫經濟を支持すべき強力な刺戟を持つてゐない、なぜならば彼等はそれを一つの一般的なもの、彼等のものと考へないからである。このやうにして作り出された状態の唯一の結果は次のやうなことであるにちがひない。即ち一、計畫機關内部に於ける個々の階級集團の絶え間のない衝突と闘争、これは計畫作成を妨げ、計畫經濟の失敗を招來せざるを得ない。二、個々の企業者間の同様な闘争、それは計畫の作成と實現とを妨げるだらう。三、形態及び本質の上で、著るしい指導の官僚主義化。四、或る場合に於ける活動的指導者の優柔不斷と怠惰。五、他の場合——しかも壓倒の場合——に於ける、計畫決議に對する彼等の不服従。六、無數の濫用、詐欺、買収の出現。七、經濟過程の阻止と互壞、それは最悪の恐慌に相當するだらう。なほ次のことを附加へなければならぬ。國民經濟計畫化の決定的諸前提の一つは一國の自然的資源（土地、地中に埋藏されてゐる財寶、水力）の統一的所有といふことであるが、このやうな所有が存在しない場合には計畫活動の阻止は驚くべきものがあるだらうこと。

とにかくこれらすべての假定は全く條件つきのものである。なぜならば、現實の支配と力とを持つ企業者がそのやうな自滅を計るだらうといふ假定は全く非現實的であるやうに思はれるからである。そしてそれにも劣らぬ非現實的だと思はれるのは、資本主義體制の×××××の急速な解決方

法としてのこの種の提議である。

もしそのやうな企圖が形式だけでも「採用」されるならば、（恰かもウイルソンの國際聯盟計畫が採用されたやうに）その外被のなかでは獨占團體のその支配の強化のための闘争が展開され、この場合計畫的幻想に感染するだらう大衆の反抗は弱められるだらう。實際には提案は實現されつこないからそんな危険は存在しない。

だから資本主義の下では國民經濟計畫化の實現可能性に對する望みは全くない。計畫活動は社會主義經濟體制の不可分の構成部分の一つを成してをり、その胎内で計畫活動は發生し、發展し、實現される。

三 國家資本主義について（アー・フォガラシ）

〔「カイエ・デユ・ボルシェヴィスム」一九三二年六月第十二號による〕

一 恐慌と『國家資本主義』

一九三一年秋銀行恐慌の眞最中に、オーストリア社會民主主義は、經濟恐慌を『國家資本主義の時期』の開始だと宣言することによつて大規模な策動を試み、またこの機會に『國家資本主義による組織化經濟』そのほか類似の諸理論についての綱領文書を發表した。オーストリア社會民主黨の國家資本主義『理論』は、要するに恐慌の一般的『辯明』とその正當化とにほかならない。この理論は、オーストリア、フランス、チェコスロヴァキア、ドイツに於ける右翼並びに『左翼』社會民主主義者によつて、日本の社會帝國主義者によつて、『ソヴェート』干渉メンシェヴィキ（ダン）によつて、またトロツキー派によつて異口同音に承認された。

フランスの社會主義者は最近その政府參加の綱領のなかへこれを挿入した。

この情勢は、『國家資本主義』についての社會ファシストの陰謀を餘すところなく曝露すること

を必要ならしめる。このためには、第一に、『國家資本主義』の概念を正確に把握しなければならぬ。第二に、社會民主主義的新『理論』と、昔の改良主義的及び日和見主義的教義との關係を明かにしなければならぬ。そして第三に、資本主義國家と經濟との間にどんな變化が現實に起りつゝあるかを分析しなければならぬ（吾々はこの第三の題目を別に取扱はう）。

二 レーニンの國家資本主義論

國家資本主義の全問題にとつて決定的な重要性を持つものは階級の見地である。レーニンはこれを次のやうに定式化した。

『現實に於て統制の問題はことごとく次のことにある。誰が誰によつて統制されるか、即ち統制する階級はどちらで、統制される階級はどちらか』。

レーニンは國家資本主義についてのすべての論說でこれと同じ意味のことを言つてゐる。レーニンは必要な限りのあらゆる明瞭さをもつて、ブルジョアジーの支配の條件の下での國家資本主義とプロレタリア××××での國家資本主義との間の本質的な對立を強調し、これをもつて階級相互の關係と國家資本主義の内容とを理解する鍵を與へてゐる。帝國主義世界戰爭の間に、社會民主主義は——現在と同じく——國家資本主義を社會主義と同一視してゐたが、レーニンはその當時、資本

主義の條件の下での國家資本主義の階級内容について一つの古典的な定義を與へた。

『××××何か？ それは支配階級の組織である——例へばドイツに於ては大地主と資本家との。だからこそドイツのブレハーフたち（シャイデマン、レンチ、等々）は「戦争社會主義」を云々するのである。だがそれは戦争の獨占的國家資本主義にほかならず——もつと簡單明瞭に言へば——労働者にとつては×××××あり、資本家にとつては軍事的に確保された利潤にほかならない』。

レーニンは吾々に國家資本主義の階級的内容について教へたばかりでなく、國家資本主義と社會主義との間の階級關係についても教へた。

独占

『眞に××××民主主義的な國家に於ける××××國家資本主義は、不可避免的に不可抗的に社會主義への一步及び數歩をなすものであることがわかるだらう……なぜならば社會主義とは國家資本主義的××××一步先にほかならないからである』。

プロレタリアートによる××××××××××、ブルジョアジーの××××××××××、××××××××この一步を完成するための前提である。これが國家資本主義についてのレーニンの全言説の本質である。この決定的な思想を本質的にすり替え、これに反對の意味を與へること——これが社會ファシストの××××的策動全體の目的である。

社會民主主義者は資本主義諸國の國家資本主義とソヴェート同盟の國家資本主義とに廣く手を擴けてゐる。従つてプロレタリア××××の國家資本主義についてのレーニンの言葉は、社會民主主義者の國家資本主義『理論』を曝露するために何よりも重要である。丁度プロレタリアート××××の國での國家資本主義の問題の國際的役割と關聯して、レーニンは××××××××第三回大會でこの問題について次のやうに述べた。

独裁

『××××××××の手中にある社會での國家資本主義と、プロレタリア××××での國家資本主義——これは二つの異つた概念である。資本主義國家では、國家資本主義とは、ブルジョアジーの利益のために、そしてプロレタリアート××××××××、國家によつて統制された經濟を意味する。プロレタリア××××では同じこと〔經濟の統制〕が、もう一層強力にブルジョアジーに對抗し彼等と闘争するといふ見地から、労働者階級の利益のために行はれてゐるのである』。

××××××××第四回大會で、レーニンは國家資本主義を次のやうに特徴づけた。
『吾々が建設した國家資本主義は特殊の國家資本主義である。それは國家資本主義の普通概念と一致しない。吾々はあらゆる司令權を掌握してゐる。吾々は土地を所有する。それは國家に屬

してゐる。吾々の反對者たちは、この事實を少しも重要でないと信ぜしめやうとしてゐるが、このことは非常に重要なのである。土地が國家に屬するといふことは經濟上に於て大きな實際的的重要性を有する。吾々はこれに到達した。そして私は言はねばならぬ。吾々の將來の活動はすべてこの枠のなかでのみ發展せねばならぬと。吾々はすでに、吾々の農民は満足し吾々の工業及び商業は活氣づいてゐるといふ點まで到達した。私が先に言つた通り、吾々の國家資本主義が文字通りに解された國家資本主義とちがふ點は、吾々が土地ばかりでなく最も重要な産業諸部門をプロレタリア國家の手中に掌握してゐるといふ事實にある』。

國家資本主義概念の固定した不動の形態ほどレーニンと縁遠いものはあるまい。レーニンの天才は、國家資本主義の役割は階級間の力の關係の變化につれて機能を異にすることを示すことができただのである。即ちソヴェート同盟の發展の段階が異なるに従つて、國家資本主義は異なつた特質を得るのである。

吾々は社會主義的建設の問題と關聯させて、國家資本主義の問題のレーニン主義的分析のイデオロギー的富を、全部に亘つて展開する餘裕がない。吾々はこゝで二つのモメントを拾ひ出しておかうと思ふ。

第一、レーニンは、プロレタリアート×××の條件の下での國家資本主義の諸定義を、資本主義的條件の下での國家資本主義の諸定義と明瞭に對立させた。この對立を見落すすべての理論は不可避免的に、資本主義制度の條件の下での國家資本主義といふ社會民主主義的見地に導く。第二、プロレタリア國家での國家資本主義は、この言葉の本來の意味とはちがつた意味を、即ち過渡的な、時間的に限定された意味を持つといふことが強調されなければならない。この事實を黙殺するすべての理論は不可避免的に、ソヴェート同盟に於ける社會主義についての、一國に於ける社會主義の建設の可能性についての社會民主主義的見地に導く。

これと關聯して、ソヴェート同盟のボルシェヴィキ×××第十四回大會で、同志ジノヴィエフ及びカメネフの反レーニン主義的態度に對して同志スターリンの取つた態度は最大の重要性を持つてゐる。

一九二五年に、カメネフとジノヴィエフとは國家資本主義をソヴェート經濟の決定的形態だと言明した。同志スターリンは、眞の辯證法的唯物論者として、彼の結語のなかで問題の根柢をつかんだ。彼はジノヴィエフとカメネフとが國家資本主義の問題を『スコラ的に』歴史的關係を離れて分析し『辯證法的に』分析しなかつたことを指摘した。レーニンが國家資本主義をソヴェート經

濟の決定的形態として許し得るものと考へたのは、どういふ條件の下で、そしていつのことだつたか？ レーニンが「外國資本を引寄せてその助力によつて産業を再建しかうして國家資本主義を導入し、それを通じてソヴェート権力と農村との關聯を打立てること」を必要と考へたのは、一九二一年、産業的混亂の時期に於てであつた。だが、状態は根本的に變化し、利權讓渡及び委任經營の特殊的重みは最小限に止まるに至つた。

「……現在、一九二五年に、國家資本主義を經濟の決定的形態だと稱することは、吾々の國有産業の社會主義的特質を歪めることを意味し、過去の状態と現在の状態とのすべての相異を理解しないことを意味し、また國家資本主義の問題を辯證法的にでなくスコラ的に、形而上學的に取扱ふことを意味する」(イー・スターリン「レーニン主義の諸問題」(ドイツ譯四〇三頁))。

同志スターリンのこれらの言葉はレーニンの諸命題の繼續であり、それらとともにプロレタリアート×××の條件の下での國家資本主義の問題の辯證法的分析である。同志スターリンの言葉が現在に於て大きな國際的な重要性を得たことは當然である。なぜならば國際社會民主主義全體は、現在の瞬間に於て、ソヴェート同盟には社會主義などは存しないで反對に國家資本主義が建設されてゐるのだといふ、もとのトロツキー派の議論やブルジョアジーの議論の結論に照應しつゝ、ソヴェ

ート經濟の社會主義的性質を否定しやうと企ててゐるからである。従つてレーニン及びスターリンによる國家資本主義の分析は、「ソヴェート同盟の國家資本主義」といふ社會民主主義のにせ理論を武装解除する武器を吾々に與へるばかりでなく、また資本主義諸國に於ける「國家資本主義」の建設といふ幻想を植え付けやうとする社會民主主義的策動を、残らず撃破するのに必要な明瞭さをこの概念に與へるものである。

三 社會民主主義者の「國家資本主義」策動の歴史的地位

帝國主義世界××と資本主義の一般×××の時期に於て、社會民主主義は資本主義及びブルジョア國家の内容を歪めるための大きな策動を行はうとしてゐる。實際に於て、理論の多様な諸變形——昔の改良主義及び日和見主義から社會帝國主義及び社會ファシズムまでの社會民主主義の進化の種々な段階に應ずる——の根柢に、常に次のやうな同一の思想が潜んでゐる。即ち資本主義はもはや資本主義ではなくなつて、實は社會主義になつてゐるのだと。そればかりではなく、資本主義國家は實は「吾々の」國家であり、民主主義國家であり、國民國家であり、「勞働の國家」であつて、「勞働者の國家」になるにはたつた一字足りないだけであると。

社會民主主義のすべての理論、すべての策動、陰謀、綱領は、この根本思想をめぐつてゐる。社

會民主主義の任務は、あまり露骨な欺瞞を隠蔽すること、漠然とした、混亂した公式を使つて欺瞞を事實と調和させること——一言で言へば、嘘を本當らしくすることにある。こゝから——その時の條件に應じて——同じ根本命題の種々な變種の必要が出て來るのである。

この根本命題の最も重要な變種は、カウツキーの戦後に於ける超帝國主義の理論、カウツキー『ヒルファーディングの獨占的新資本主義の平和的、平和主義的理論、また昔のベルンシュタインの『社會主義への成熟』の理論の變種としては、組織化された資本主義の諸理論である。最後に社會化の諸綱領がある。これは一九一九年以後社會民主主義諸政黨によつて定式化された——當時ドイツ社會民主黨は、『社會化は到來した』といふスローガンを掲げて、労働黨の綱領（『今日の社會主義』及びレオン・ブリュム、ヴァンダーヴェルド一派によつて定式化された社會化の實行案の程度まで労働者運動を押し下げやうとしたのである。資本主義の『新型』、帝國主義の新型といふ諸理論には新型國家といふ社會民主主義的諸理論が照應する——それはもはや『昔の』階級國家ではなく、民主的國家、國民國家となつた國家であつて、ブルジョア國家と労働者國家との間の過渡的様相であるといふ。ウィーンの新報『アルバイター・ツァイトゥング』はかういふ意味で次のやうに書いてゐる。

『民主的基礎の上に形づくられたウィーン自治體は、世界に於ける最初の眞の労働者政權として敬意を表されなければならない』（『アルバイター・ツァイトゥング』一九二七年五月一日）。

オーストリアの社會ファシスト・レンナーは次のやうに書いた。

『……××がプロレタリアートにとつてそれ自體に於て目的であるといふのならば、共和國はどこでもすでに部分的にプロレタリア共和國になつてゐるのである。例へばオーストリアではウィーンが、ドイツではプロシアがそれである』（『カンフフ』〔闘争〕一九三〇年六月）。

社會民主主義が政治的見地からその民主的特質を認めてゐる『新國家』は、同時に『經濟國家』であり『社會國家』である。久しい以前から社會民主主義の理論と實踐とのなかで一般的になつてゐたこの概念こそ、最近の『國家資本主義』策動の先驅である。

ファシストの組合國家の思想も源をこれらの社會民主主義的國家『理論』に發する。吾々はこれと關聯してきつぱりと次のことを強調しなければならない。改良主義はファシズムにその國家『理論』の根柢を與へた。これはブルジョア國家のファッシ化、社會民主主義のファッシ化といふ複雑な過程を理解するために非常に必要なことである。

新型國家についての社會民主主義『理論』は、マルクス及びレーニンの國家學說の本質的原理——

—勤勞大衆の抑壓を機能とする支配階級の強力—及び抑壓装置、武器としての國家——を歪曲することを目的とする。社會民主主義の國家「理論」はブルジョア國家に正反對の機能を賦與する（「管理國家」Versorgungsstaat）。カウツキーの公式は社會民主主義者によつて古典的と考へられてゐるし、また卑劣なブルジョアジーの辯護として實際に古典的である。それは次の通りである。

「近代民主的國家は次の點に於て過去の諸種類の國家と異つてゐる。即ち搾取者の階級の諸目的のための國家機構の裝備がその本質をなしてゐないこと、本質と不可離に結びついてゐないことがこれである」（カウツキー「唯物史觀」第二卷二九八頁〔原文による〕）。

「國家資本主義」はこの命題の完成されたものである。即ち國家は他の諸機能を果すばかりでなく、全經濟を統制する。何よりも先づ「經濟的諸機能」×××を占有するのだと。

この社會民主主義的立場は、ブルジョアジーの支配の條件の下での國家資本主義の役割についてレーニン主義的立場とは正反對である。レーニン主義的立場はこれについて次のやうに言ふ。國家による經濟の規制は、大衆の抑壓者としての國家の機能を強化するにほかならないと。

「合衆國、ドイツは「經濟生活を規制し」て、勞働者（及び部分的には農民）のために×××××を、資本家のためには樂園を作り出しつゝある。その規則は、勞働者の生活水準を飢餓まで低め

資本家には（こつそりと反動的、官僚的なやり方で）戦前の水準以上の利潤を保證することにあら」（レーニン）。

それだけにますます、新型國家及び國家資本主義の社會民主主義的理論が××主義的著述者の勞作のなかに反映してゐることを強調しなければならぬ。これは同志ブハーリンの勞作に於て著しい。同志ブハーリンの誤謬は、××資本の國家との癒着、相互浸透を一般に國家資本主義と考へ、またこれを國家による經濟の漸次的組織化及び規制化といふ意味での國家資本主義への傾向と考へる點にある。彼に於ては、トラスト化の傾向さへもイタリーに於ける「經濟の國有化」及び有名なウイーンの『自治體社會主義』と同様に、國家資本主義への傾向と考へられてゐるのである。

一九二九年にブハーリンは次のやうに言つた。「現在の國家資本主義は新たな根柢の上に發展しつゝある」。現在の國家資本主義は戦時のそれとくらべてヨリ「高度の形態」を持つてゐると。一般にブハーリンの國家資本主義論は、原理的に組織化された資本主義の理論に照應してゐるばかりでなく、また社會民主主義の現在の國家資本主義「理論」にも照應してゐる。同志ブハーリンが社會民主主義の政治的結論を斥けてゐるのは言ふまでもないが、それにも拘はらず彼の理論は不可避免的に、論理的にそして首尾一貫して、社會民主主義的命題に導くのである。

ムまでの社會民主主義者は、この『恐ろしい』恐慌、この『破局』、この『大動亂』の唯一の積極的方面は、それのおかげで國有化、社會化のための諸條件が決定的に成熟したことにありと云つてゐる。

だからこそ國家資本主義の理論は（奇妙に）いつも恐慌の擴大につれて地理的に擴大して行くのである。この『理論』はオーストリアに始まつて、ドイツでは困難の増大しつゝある時期に採用され、イギリスではこの『理論』は特殊なイギリス版によつて流布され、チェコスロヴァキアでは目下採用されつゝある。即ち同國では社會黨出身の司法大臣が……特別な國家資本主義法案を起草した。最後に、恐慌が最近數ヶ月間に著るしく尖鋭化したフランスで採用された（二三の工業部門の國有化、銀行統制、國家の「統制經濟」機關——これがフランス社會黨の最近の大會で採用された綱領の諸要項である）。

一「國家資本主義」は、ブルジョア國家の加速度的ファッショ化、社會民主主義の急速なファッショ化の條件の下で、ファシスト××の時期に採用された『組織化された資本主義』、超帝國主義、『建設的平和主義』の理論である。

三 最後に國家資本主義は、ソヴェート同盟が社會主義の時期に入り、勞働者國家に於ける社會

主義××××建設の實例が資本主義諸國の廣汎な大衆の上へますます廣くひろがつて行く瞬間に於て、反ソヴェート同盟××××が器用な人爲的な假面で隠蔽される必要のある瞬間に於て××××社會主義思想の全體を占める理論である。

これが『國家資本主義』といふ社會ファシスト××××の最も大切な特徴である。

第二部 計畫經濟世界會議

一 計畫經濟世界會議についての諸報道

〔計畫經濟世界會議（『社會經濟計畫化會議』）は、一九三一年八月二十三日から二十八日まで（會議は四日間）國際産業關係協會の主催の下にアムステルダムで開かれ、二十ヶ國から經濟學者（多數）、資本家（少數）、及び労働者（少數）の代表者三百人が出席した。左に、この會議について、この主要な諸報道を日附順に掲げる。〕

一 第一日——會議の二潮流 アムステルダム一九三一年八月二十五日。

オシンスキーを先頭とするソヴェート代表の計畫經濟世界會議への到着は、オランダの諸新聞に活潑な興味を呼び起した。種々様々な新聞がソヴェート代表の到着に多數の論説を捧けてゐる。現在のところではまだ、會議の組織者たちがどんな目的を追求してゐるのか明かでない。今日すでに

會議に二つの潮流が現はれてゐる。

指導的な商人及び企業者たちは、會議を狭い企業者の利益に役立たせやうと骨折つてゐる。この一群は國際關係首席代表ヴァン・デア・リューフに率ゐられてゐる。ヴァン・デア・リューフは當地の一新聞に論説を發表して、そのなかで彼の會社の取引状態を報告し、その繁昌を強調してゐるが、『實際的な性質の』一三三の大きな『困難』があることを認めてゐる。ヴァン・デア・リューフの意見によれば計畫經濟會議の目的はこのやうな諸困難を除くことにあるといふ。會議に於ける第二の潮流は、資本主義經濟體制の破産に氣がつき始めて、ソヴェート同盟の計畫化の諸經驗を資本主義諸國へ形式的に移植してそれを恐慌からの逃げ道にしやうと考へてゐる代表者たちからなつてゐる。會議の第一回集會のときにすでにこれらの兩群の間の矛盾がさらけ出された。

ヴァン・デア・リューフが、階級利害や政治的熱情を科學的見地から遠ざけて諸困難の緩和のための手段を發見することが必要だと聲明したのに對して、國際關係協會の副總裁マリー・バンクウイスは、あからさまに事實に直面してありのまゝを發表する必要があると力説した。彼女は自ら計畫經濟の信奉者をもつて任じ、資本主義社會に於ける經濟過程の管理の缺如を經濟恐慌の原因と見てゐる。第一回集會はこれら二つの演説で終りを告げた。次の集會では『經濟的進歩の最高點に於

ての失業』といふ題目について報告があることになつてゐる。報告者はヴィート、マクス・ツッ、オットー・ノイラートの諸代表と豫定されてゐる。それに續く討論にはソヴェート代表も數言を挟むだらう。

二 第二日——ソヴェート代表オシンスキーの演説

アムステルダム一九三二年八月二十六日。

計畫經濟世界會議の昨日の集會の興味焦點はソヴェート首席代表同志オシンスキーの演説だつた。すべての代表は最大の注意をもつて彼の演説を傾聴し、出席者の大多數はこれに拍手を送つた。

同志オシンスキーは彼の演説のなかで次の事實を指摘した。現在資本主義經濟をぐらつかせてゐる恐慌は、或る種の誤謬乃至缺陷に歸することのできる何らかの偶然事ではない。恐慌はむしろ、資本主義社會及び資本主義經濟の本質によつて條件づけられてゐる。前世紀の初めから現在に至るまで、資本主義經濟は週期的に工業恐慌の打撃を受けてゐるのである。

だが現在の恐慌は、以前の工業恐慌と同列に評價することはできない。現在の恐慌の主要標徴は經濟恐慌が資本主義體制の××××××土臺の上で起つてゐることである。

資本主義は生産を指導することができなくなつた。資本主義は、生産力を抑制する反動的體制だといふことを自ら示した。資本主義が現存技術でさへも完全に利用し盡すことができないとしたら、生産の電化、農業の機械化等々を遂行することは全くできない。資本主義は生産を計画的に規制することが全くできない。それは消費を左右することが全くできない。生産と消費とがその發展に於て一致せしめられない限り、經濟の計画的な規制は到底しつかりした土臺の上に立つことができないと。

會議の今日の集會の日程には、ソヴェート經濟の計畫化についてのソヴェート代表の報告がある。

三 第三日——ソヴェート代表の諸報告の反響

アムステルダム一九三一年八月二十七日。

昨日の午前の集會でアメリカ代表ローヴィンが彼一流の『組織化された資本主義』理論の變種を公開したあとで、會議はソヴェート同盟計畫活動の諸經驗の討議に移つた。議場は充ち溢れた。ソヴェート首席代表オシンスキーは拍手に迎へられながら登壇し、緊張した注意のうちにたつぷり二時間演説した。同志オシンスキーはソヴェート經濟の諸原理と社會主義建設の計畫化の方法とを詳説し、最も重要な諸成果とソヴェート同盟に課せられた諸問題とを叙述した。彼の報告のなかに引用された諸資料、とりわけ新建設の範圍と形式とについてのそれらは會議出席者に最大の印象を與へた。彼の報告はすべての出席者から嵐のやうな拍手を送られた。

次にソヴェート代表の他のメンバーも演説した——同志ガイステルは農業の社會主義的構成を取扱ひ、同志クラヴァルはソヴェート同盟に於ける労働について説き、同志ローニンはアメリカ人口ーヴィンの『理論』について述べた。わけでも深い印象を與へたのは同志クラヴァルの報告だつた。ソヴェート代表の報告についての討論は夜おそくまで續行された。ソヴェート同盟の代表者の詳論は出席者の大多数に非常に大きな印象を與へ、ソヴェート同盟の公然の敵さへも敢えて一言の反駁をも試みなかつたほどである。スイスの代表フォン・ハーンは文書の釋明を提出した。そのなかにはかう書いてあつた。彼は一度もソヴェート同盟の強制労働などと言つた覚えはなく、彼は誤解を受けてゐるのである。彼は實踐的な例をもつて、自分がソヴェート同盟の友であることを證明する覺悟があると。討論に加はつたラザール教授は、ソヴェート代表の報告には一言も立入らずに、ローヴィンの組織化された資本主義の『理論』についてのみ語つた。「左翼」社會民主主義者オットー・ノイラートもソヴェート同盟の友と稱し、殆んどソヴェート同盟の功績についてのみ語つた。

その他すべての演説者は五ヶ年計畫の重要性を語り、それが實現されつゝあることを指摘して、ソヴェート同盟の諸成果の重要性を述べ、それは資本主義恐慌に當面して特に注目し値すると語つた。特に面白かつたのは二人のアメリカ人クック及びブローデス、及びドイツ代表ポロックの演説である。彼等は少し前にソヴェート同盟を訪問した人々であつて、社會主義建設の成果について報告した。集會はソヴェート代表に對する嵐のやうな拍手をもつて終つた。會議全體を代表して議長はソヴェート代表に、彼等が彼等の國の諸經驗について報告するためにわざわざ來て呉れたことを感謝した。

〔以上IPK一九三一年八月二十八日八四號による〕

四 第四日——計畫經濟會議に於ける社會ファシスト アムステルダム（一九三一年）八月三十一日。

會議の最終日に思ひがけなくも國際労働局の社會民主主義的理事、世界戰爭中に於ける前フランス軍需大臣アルベルト・トーマが出て來た。プログラムによれば、彼は缺席して原稿が朗讀されるはづだつたのである。トーマは次のことを確認せざるを得なかつた。彼が理事長をやつてゐる國際勞

働局の設置以來十二年間、數多くの條約や協定にも拘はらず労働賃銀は上らず、却つて恐慌と關聯して最近では至るところで労働賃銀の後退が見受けられる。同時に失業保險及びプロレタリア協同組合に對する攻撃が行はれてゐる。もしこの過程が繼續するならば、それは資本主義世界の×××導くだらう。だから——とこゝでトーマは熱情を込めて兩手をさし上げて語つた——労働賃銀を高め、八時間労働制を採用し、社會保險を完成することが必要だ。このことは、ソヴェート・プロレタリアートののもとで見受けられるやうな熱心な關心を西歐の労働者の間に呼び起すだらうと。だがトーマは、彼が現在資本主義についてどういふ手段でそれを實現するつもりなのかについては一言も述べなかつた。そしてそれは、彼の言ふところによれば、十二年以來實現することができなかつたことなのである。

トーマのあとでドイツ社會民主黨の有名な「理論家」ナフタリが演説をやつた。彼は會議に向つて、「經濟生活へのブルジョア國家の干涉」といふ社會民主主義的綱領を支持しろと要求した。彼はかう主張した。計畫經濟は「人爲的に」こしらへ上げることが出来るものではなく、だんだんに（！）資本主義社會のなかから生育して來るべきものであると。

最終の集會日の討論の進行中に、二分間演説といふ類例のない議事進行法が決定された。その目

的は、社會ファシズム的演説に對するソヴェート代表の實質的討論を妨害して、會議の最終日を社會ファシズム一點張りで押し通さうといふのにあつた。

同志クラヴァルはこの二分間を利用して會議に向つて次のことを説明した。即ちトーマは労働者階級の名に於て演説する権利がない。トーマの同志たちが勢力を振つてゐるすべての諸國では、労働賃銀は下り労働者階級の狀態は悪化しつゝある。この勢力の圏外にあるソヴェート同盟に於てのみ、勤勞者の厚生は絶えず増大しつゝある。この狀態こそ、右のやうな諸君が資本主義社會でどんな役割を演じてゐるかはつきりと照し出すものである。吾々は、——と同志クラヴァルは續けて言つた——まつすぐに新しい道を求めてをられる學界及び技術的インテリゲンチアの代表者諸君とお話しをするためにやつて來たのであつて、ナフタリ及びトーマのやうな諸君とは何もお話しすることがない。同志クラヴァルは決定された議事進行方法に抗議し、ソヴェート代表の立場を明かにする覺書の提出を留保した。

集會の後に同志オシンスキーは二時間に亘つて會議代表たちの質問に答へた。オシンスキーの説
明は嵐のやうな拍手をもつて迎へられた。

夜の集會で『國際産業關係協會』の副總裁バンクハイスの演説をもつて會議が閉會された。

二 世界恐慌とブルジョア經濟學者の計畫的幻想

(ヴェー・オシンスキー)

——アムステルダム計畫經濟會議の決算——

(一九三一年九月十五日の『世界經濟及び世界政治』研究所に於ける報告の速記録を訂正したもの)

〔『世界經濟と世界政治』一九三一年九月一日による〕

一 世界恐慌の發展と恐慌切抜け策の失敗

現在ヨーロッパ及びアメリカのブルジョア諸國に見受けられる資本主義と社會主義との問題、殊に計畫化の問題に對する興味の高まりは自然の成行きと考へられ、そして何よりも先づ、目下すべての資本主義諸國を荒れ狂つてゐる經濟恐慌の不斷の尖鋭化によつて説明される。吾々は先づブルジョア經濟の現在の狀態を特徴づける二三の資料を引用しやう。

合衆國に於ける情勢を特徴づけるために、私の意見では元來生産の物理的數量の指標であり同時にまた商品流通の指標でもある恐らく最も有力な指標、即ち鐵道貨物に關する統計を取つて見や

う。鐵道貨物の統計は生産の物理的の大きさの自然的指標である。なぜならば殆んどあらゆる生産物はとにかく鐵道の厄介になるからである。もし吾々がこの指標を取り、そして現在アメリカの鐵道貨物が昨年や一九二九年やとではなく一九二二年とくらべてどうなつてゐるかを見るならば、吾々は一九三一年三月の第二週以來合衆國に於ける毎週の鐵道貨物は一九二一年の同じ週よりも低下してゐることを確認するのである。これは生産高が明かに一九二一年よりも低いことを意味してゐる。だがその時以來アメリカ工業の生産能力の増加が二〇—二五%を下らないのであるから（私の手許には正確な資料がない）、このことは現在恐慌が一九二一年よりも遙かに尖鋭であることを意味してゐる。しかも一九二〇—二二年の恐慌——吾々は誰も知つてゐる——がどんなものであつたかと言へば、この恐慌はかつて資本主義經濟が経験した最も尖鋭な恐慌の一つであつた。

もし鋼鐵生産用のマルデン爐の生産能力の利用の數字に目を轉ずるならば、今年（一九三一年）の最初の五ヶ月間には利用率がまだ四五%と五〇%との間を上下してゐたことを確認できる。ところでこれらの資料を基礎としてアムステルダム會議に於て、有名なオーストリアの社會民主主義者で同時に統計家であるノイラートはその圖表のなかで事態を次のやうに示した。即ち合衆國の製鋼業、ヨリ正しく言へば鋼鐵生産工業の能力の五〇%の利用が一九三一年前半を特徴づけるものであると。

事實上それは正しくない。なぜならば六月から利用率はすでに三七%に低下し、七月には三〇%となり、八月の半ばには利用率は三二%となつたからである。熔鑛爐については状態はもつと悪い。だが問題なのはアメリカ合衆國の鉄生産は常に鋼鐵生産よりも遅れてゐるといふことである。だから金屬工業で基本的なのは鋼鐵生産の指標である。しかも現在鋼鐵生産は生産能力の三二%以上は利用されず、七月の或る週の如きは利用率が二八%までも低下したといふ仕末である。纖維工業ではいくらか好轉が行はれて、それに相當する指標は春には上向いた。だがその後夏には瓦落を喰つて、纖維工業に於ける好轉の一切の曙光は消え失せてしまつた。

これらすべての事情の結果としてかなり有名な現象もしくは表現が現はれた。例へば、テキサス及びオクラホマでは二名の知事が、石油採取を×××に停止させ、かうして操短の目的を達するために、一隊の州兵に武装させて石油企業を占領した如きである。だからまた、一見全く荒唐無稽で且つ奇怪極まる提案、即ち本年度の全收穫の三分ノ一を焼き捨てやうなどの提案が生じて來る。この提案はいかにも合衆國の大多數のブルジョアの意見によつては認められなかつたが、提案としてはやはり極めて特徴的である。以上が合衆國の現在の經濟状態を特徴づける二三の事實である。

ドイツについて言へば、そこでは恐らく特別な説明を要しないだらう。それはすべての人の記憶

に今なほ新たなところである。ドイツの取引所は、ダナート銀行の破産及びドイツ獨占資本主義の最も有力な代表者たちの脅威的な將棋倒しの倒産の結果立會停止を行つたが、このドイツ取引所のごく最近の行動を取つて見るならば、取引所の立會開始の後取引所諸證券の途方もない下落が行はれた。この下落は直ぐには喰ひ止めることができず、またそれ以上の破産と結びついてゐた。諸君は現在ドイツの諸新聞の紙上で個々の企業による支拂停止の完全な表を讀むだらう。

イギリスの状態は最近の諸事件によつて充分よく特徴づけられてゐる。即ち内閣の更迭、金本位制の停止、等々これである。私は吾々が不注意にも看過した一事實に注意を向けたいと思ふ。夏の間、世界最大の海運トラスト、ローヤル・メイルの社長であるキルサント卿の詐欺をめぐつて、好奇心を唆る訴訟が行はれた……このトラストは世界最大の海運コンツェルンであり、イギリス最大の海運コンツェルンである。しかもイギリスでは海運業は基本的部門の一つをなしてをり、イギリスの國際貸借も著るしくこの部門に依存してゐる。そして事實上このコンツェルンはその指導者が全コンツェルンの悲觀すべき状態を隠蔽するために餘儀なく詐欺を行ふやうな破目に陥つたのである。今やこのコンツェルンには一般にコンツェルンに起り得る一切のことが襲ひかゝつた。コンツェルンは色々な方法によつて恢復策が講ぜられた。同コンツェルンは形式的には破産を宣告されなかつたが、事實上はイギリス最大の海運コンツェルンは大取引所コンツェルンの二大破産の後に破産してしまつた。イギリスに於ける状態はかうであるから、もし現在の恐慌が六―八ヶ月續くならば、政治的震撼は別としても、前代未聞の形を取つた經濟的大動亂が襲來し得るだらう。その形態と結果については今のところ何とも決定的なことは言へないが、それが資本主義の歴史上全く類例を見ない現象であるだらうことは考へ得るのである。

このやうな状態にあるので、全ブルジョア世界がかういふ状態からの血路を求めて止まないのも全く無理ならぬ話である。もし合衆國に於けるこの探求の歴史に眼を轉ずるならば、フーヴァー大統領は、『青い鳥』の探求者、ブルジョア社會のための幸福と現恐慌からの血路の探求者といふ意味の經驗はたつぷり持つてゐる。フーヴァー大統領はすでに一九三〇年の初めに一定のプログラムから始めて行つた。このプログラムは全工業家會議に提出されたもので、結局鐵道や運河等々のやうな色々な種類の土木事業に添つて仕事を組織することが必要だといふのである。その後フーヴァーは回狀に署名することによつて、大企業者たちから彼等が新資本を投下するといふ約束をかき集めやうとした。彼はまた彼等に向つて、市場の購買力を維持するために彼等が賃銀を切下けないといふ義務を要求した。そして、最後にフーヴァーは農業市場に干渉を加へ、そのために聯邦農事局

を通じて小麥、やゝ遅れて棉花を買上げ始めた。最後の方策は單に或る經濟的考慮を眼中においてるだけでなく、私の考へでは、當初の經濟的考慮からやゝ遅れて政治的考慮が現はれたやうに思はれる。

いづれにしても次の一事だけは言へる。これらすべての方策はモラトリアム實施といふ意味でのドイツの救援方策と全く同じく破産してしまつたといふことがこれである。このドイツ救援方策もやはり本質的には破産してしまひ、石鹼の泡沫であることを示した。なぜならば最初の形態を取つて持込まれた提案は後に至つて變更を受け、そしてこれんばかりの重大な結果も、國際市場に於て結ばれてゐる現在のゴルディアス王の結び目の毫末の清算をも與へなかつたし、また與へることができなかつたからである。一般に、從來ブルジョアの立場からしても道德的な方法による恐慌からの血路の探求といふ意味で通常の方法とされてゐたところの種々な試みも——それらは悉く何の役にも立たないことが示されるに至つた。だから、すでに全く逆説的な恐慌からの脱出方法を求め始め、または求めないにしてもとにかくそんな風なことを考へ始めたことについては充分根據があるのである。

二 各國に於ける資本主義『計畫經濟』の諸提案

アメリカ合衆國のインテリゲンチアの引用符つきの『急進派』の間に、また一部はアメリカのブルジョアジーの間にも、計畫の思想と、いづれかの形態で合衆國の經濟に計畫化を導入すれば現狀からの血路を與へることができるといふ考へが擴がり始めた。

この思想は同時にまたイギリスにも傳播した。ここでは例へばモズレーの五ヶ年計畫が現はれた。ドイツでも計畫化の思想が提唱されてゐる。しかも單に『組織化された資本主義』の理論の私付きの擁護者の間だけでは決してない。なぜならばこれらの連中はソヴェートの手本に従ふことを誰よりも嫌つてゐるからである。この思想がどこから起つて來てゐるかは全くわかり切つてゐる。言ふまでもなくそれはソヴェートの五ヶ年計畫が傳染したのである。これは、私が『イズヴェステイヤ』の自分の論文のなかで定式化したやうに、病人が健康者を見て、なぜ彼が健康であるかを突きとめやうとつとめ、しかる後に彼の行爲を表面だけ模倣しやうとつとめ、かくて自分は健康になることができるのだ考へるあの感情である。いづれにしても、すでにブルジョア社會では恐慌の根源が、彼等の考へるやうに、生産の無政府状態と、次には生産能力と購買力との喰ひ違ひであるといふ理解がすでに相當力強く擴まつてゐる。以前の恐慌の説明の追加として現在ブルジョアの智者はこの二つの矛盾を振り廻してゐる。こゝから當然次の結論が生じて來る。即ちもし無政府状態の

反對即ち計畫化をやるならば、またもし生産能力と購買力との間の喰ひ違ひの反對即ち双方を均等化する計畫を行ふならば、その時は恐慌から脱出することができる。どんな社會的基礎の上でそれは可能であるか——などにはお構なしである。たゞ先づもつてこの矛盾を見、その算術的解決を見て、その基礎の上に自分の出發點としてソヴェート同盟から直輸入の計畫化の思想が発生してゐるのである。計畫化に賛成する思想運動の萌芽はすでに一九二七年ステュアート・チェイズのもとに、また一九二八年末にはローヴィンのもとに見受けられた。彼等がソヴェート同盟に於ける計畫化の經驗を知つたといふことがその動機である。だがこれらの考へが百花燎亂と咲き亂れるに至つたのは恐慌が充分發展した一九三〇年に於てであつた。そしてこの年にはこの問題について我こそはと乗り出した幾多の經濟學者を數へることができる。例へばジョージ・スール、シー・バード（五ヶ年計畫案）、次いで再び現はれて十ヶ年計畫案を提出したチェイズ、次にエル・ローヴィン、デョルダン、次に有名な景氣變動時報を出してゐるハーヴァード大學の指導者の一人ドン・ハム、及びその他幾多の人々、このなかには學識ある經濟學者ばかりでなく、單なる資本家もある。これらの資本家たちは計畫化の思想をやゝ獨特な形態で展開し、先づ第一に計畫化のためには分散した企業の一が必要であること、一部門の限界内で協同一致して行動することが必要だが、それには反

トラスト法が邪魔になつてゐることなどにその注意を傾倒してゐる。計畫化が可能であるためには反トラスト法を廢止しなければならぬ、さうすれば資本家たちは上々の首尾で且つ勝手氣儘に自ら生産を計畫化することができるといふのである。つまり換言すれば、資本家たちは計畫化に藉口して一切のカルテル組織の禁壓手段の廢止を主張し、本質的には血路をたゞもつと大きい獨占的集中に見出したのである。前もつてかう言ふことができる。やゝ別な意味で計畫化を問題にしてゐる『急進的な』インテリゲンチヤ經濟學者の引用符つきの「善き意圖を持つた」命題や提案の根本的な實際的結果とは皆こんなものである。いづれにせよ、現在アメリカの商業會議所、このアメリカの商工業の最高代表機關ですら自ら進んで計畫化に乗り出してゐるといふことは注目すべきことである。だが早くもこのやうな形態の計畫化に賛成したのは、アメリカ労働總同盟會長グリーンンの代理人たるほかならぬウォルメイである。グリーンンはすでに五ヶ年計畫どころではなく、合衆國の十ヶ年計畫に賛成した。そこで強調しなければならぬのは、計畫化の立案者たち自身は大部分、彼等が自分の問題提起の形式なりともソヴェート同盟から借用したといふことを承認しやうとは考へてゐないことである。そしてあれこれの種類の計畫化に向つて呼びかけながら、彼等は豫めソヴェートとボルシェヴィキとから自らを遮斷しやうとしてゐるのである。

しかしあらゆる『遮斷』にも拘はらず、吾々には事實上これらの人々がソヴェートの手本から出發してゐることは明かである。そして主要な問題は本來、彼等が何について語つてゐるかといふことにあるのではなく、全く別なことに、即ちこの手本はためになるかどうか、吾々の身體にぴつたり合ふやうに出來た着物を彼等が着てよい時節であるかどうか、にあるのである。そして最後に、彼等が自分にとつては醫藥と考へてゐるものは恐らく或る有機體にとつては立派な滋養物でもあらうが、他の有機體にとつては醫藥たり得ないばかりか、もしもそれを服用しやうとでもするならば反對の効果を奏し得るのである。私はこの問題に後ほど移ることにして、差し當りアムステルダム會議の召集に論及しやう。

三 計畫經濟世界會議の召集とそのプログラム

アムステルダム計畫化會議は計畫化問題に賛同するブルジョア・インテリゲンチア間の上記の大衆運動の全く當然な結果であつた。だが誰がアムステルダム會議を召集し、その正體は何か？ その重要な後援者として三つのアメリカの施設を擧げることが出来る。即ち充分有名な施設であるワシントン經濟研究所、科學研究所『ラッセル・セーヂ財團』（これは勞働問題を研究する科學研究所である）、及びテイラー記念協會である。最後のものは合理化發明者の協會で、その運動の創始

者テイラーの名譽のためにさう名付けられたものである。そのほか、この會議にはヨーロッパの類似的の諸施設も參加した——だが牛耳を握つたのはこれら三つのアメリカの施設であつた。この三つの施設は現在の會議を召集したところの工業關係協會の基礎となつてゐる。現在の會議はこの協會の第二もしくは第三回目の會議のやうに思はれる。右の協會は工業の領域に於ける相互關係や企業者と勞働者との間の相互關係やまた勞働者の状態を研究し、一定の視角から科學的勞働組織の問題を研究してゐるのであるが、この協會は、一方では資本家や企業者を、他方では勞働者組織の代表者を協會内に引入れることに躍氣となつてゐる。會議に於ける協會の支配的分子はインテリゲンチア層、經濟學者、合理化技術者、それからまた勞働保護に當る各種の監督官、失業者問題關係者、等々であつた。彼等はまたこの會議に於ては多數者を成してゐるが、このことは會議の全進行とこの會議に於けるソヴェート代表者とその所説に對する態度をよく説明してゐる。本年度はこの會議に於ては計畫化の問題の審議が全會議の根本的プログラムとして提出された。計畫化の問題は二つの形態に於て、即ち個々の國家（勿論ブルジョア的）の形態に於て、及び世界的形態に於て提起された。なぜならばこれらの人々、即ちブルジョア的環境のなかでの計畫化の主張者は非常に大膽で徹底的であつて、彼等は一人残らず計畫化をもつて個々の國家に於ける恐慌を鎮撫するための適

當な（極めて有益ですらある）方法であると考へ、従つて彼等は計畫化は世界的規模に於ても適用されなければならないと結論したほどであつたからである。

もつと具體的に言へば、大會のプログラムは次の諸問題に分れてゐた。第一は、現在の經濟狀態の審議である。それは次のやうに定式化された。現代の逆説とは經濟的進歩の絶頂にありながら失業者が存在することである。第二は、問題の一般的提起に於ける社會經濟的計畫化の問題である。報告者は前述の、アメリカ合衆國に於ける計畫化に賛成するブルジョアの流派の創始者の一人ローヴィン博士であつた。第三に、企業の科學的管理とその計畫化に對する關係との問題が討議された。この問題についての報告者はテイラー協會の管理者——その責任書記——パーソン氏であつた。第四は、計畫化に關するソヴェート同盟の經驗であつた。これは會議のプログラム中では副次的項目として恰かも『一地方からの報告』として取扱はれた觀があるが、事實上は全會議の中心問題となつたのである。また吾々は非常に多くの例を擧げてこのことを斷定することができる。そしてこれはソヴェート代表の功績ではなく、ソヴェート同盟と諸事情の功績なのである。更にソヴェート同盟に於ける計畫化の經驗に關する報告の後に續いて、國際的規模に於ける個々の部門の計畫化といふ意味での國際的な計畫化について報告と討議とが行はれた。それに續いたのは世界的な計畫化の範圍に於ける組織上の問題、つまりどんな機關によつて世界的規模に於ける計畫化が實現されるかといふ問題である。最後の問題、または一群の問題——または究明されなければならず、また非常に雜然と研究された——は計畫化と關聯する労働者運動の幾多の問題である。これらの諸問題は報告の最後にまはされ、それに關する報告者としてはアルベル・トーマとドイツ社會民主黨の一般的理論家フリッツ・ナフタリが登壇した。これらの報告は會議の最終日に行はれ、且つこれらの報告に對する討議は演説に二分間、通譯に一分間各辯士に與へられたといふ性質のものであつた。同志クラヴァルはこの問題についてソヴェート代表の名によつて三分間演説をやつたが、彼は僅かにアルベル・トーマとナフタリの演説に對して數言挨拶を述べ、且つ二三の根本命題を語ることができただけで、それ以上に重要なことは何一つすることができなかつた。事實上會議に於て究明された三つの最も興味ある問題とは次のことであつた。第一、ブルジョアの條件のなかでの計畫化の可能性（ローヴィン氏の報告）、第二、ソヴェート代表の演説及び本質的には資本主義と社會主義並びに社會主義的計畫化との題目についての報告及び討議であつたところの報告の審議。

第三はさほど興味あるものではないが、しかもやはり充分特徴的で且つ好ましい題目——それはアメリカ人が言ひ現はしてゐるやうに、企業の科學的管理もしくは計畫化と關聯する合理化の問題

であつた。

これら三つの題目が最大眼目として取扱はれ、その他のものは色々な原因からこの大會では反響が少かつた。例へば、皮切りの題目であつた現情勢の評価はかなり不活潑に行はれたし、この問題の討議も充分廣汎に展開されなかつた。大會の幹部會は經濟狀態の究明をかなり圖式的に、一方では失業問題へ、他方では生産力の成長の問題へと分けた。このやうな問題提起は會議の組織者たちをして彼等が二人の報告者を登壇させる結果に導いた。即ち一人は失業について語つた。いかにも彼は事のついでに失業の原因をも闡明した、しかもそれをブルジョアの立場からばかりでなく、反動的ブルジョアの立場からすら闡明したのである。フランス人マクス・ラザールがそれである。生産力の成長に關する第二の報告はオーストリアの社會民主主義者であり且つ統計家であるオットー・ノイラートがやつた。彼は壁の上の繪を示すやうな統計的特徴づけを持つ報告をやつた。しかも彼は自分の立場からしてはやゝ特殊なことを言明した。次の二點は彼の立場からして特殊なことである。第一、ノイラートは價值及び價值法則の反對者であり、しかも彼は極めて獨特な反對者である。これはブルードンがやつたやうな論斷の一新變種である。第二の極めて特徴ある立場は世界の國々を次のやうに分けることができるといふ彼の主張である。即ち一方では工業生産物の生産に運命づけ

られた國と他方では農産物の生産に運命づけられた國とに分けることができるといふのである。第一の部類に屬するのはヨーロッパと北アメリカとの諸國であり、第二の部類に屬するのは殘餘の全世界である。かういふ處方は彼の統計的分析と彼の繪畫描寫的觀念とから生じたものである。そして一方に於て最高度にまちがつた觀念であるし、他方に於て非常に無味乾燥で、社會民主主義一派の理論的代表者の貧弱さをかなり著るしい程度で特徴づける觀念である。ソヴェート代表の演説は與へられた時間内に現情勢の評価に關する問題を廣汎に提起した。私はこゝではソヴェート代表の報告を述べない。なぜならばそれは吾々の立場にとつてはあたり前の評價であつたからである。だが情勢のこの評價は全討議に於て最もきは立つてゐた。といふのはこゝで言ひ表された爾餘一切のことは毫も重要な評價ではなく、一般にブルジョアの立場から見えてさへ恐慌の評価上何一つ新機軸を出してゐなかつたからである。

四 會議に於ける資本主義『計畫經濟』の提案——ローヴィンの報告

同様に國際的計畫化の諸問題もかなり無味乾燥であつた、況んやこの問題に關する報告者がこれをかかなり無味乾燥なものに取扱つたからなほさらである。だから吾々はたゞ會議にとつて最も重要な上述の三つの報告、何よりも先づブルジョアの諸條件のなかでの計畫化の可能性に關する問題に

觸れるに止めやう。この問題に關する報告者はワシントンにあるブラッセル經濟研究所員ローヴィンであつた。彼の論旨の出發點は、計畫化といふものは或る一つの生産様式にとつてのみ特殊的现象でないこと、計畫化の觀念は非常に古く、ずっと昔に存在し、それがソヴェート計畫化としてその具體的形態の一つに於て實現される以前にも存在したこと、計畫化に際しての目標、その社會的目的は或る全く特殊なもので、經濟を組織するための道具としての計畫化とは一致しないものであるといふ主張である。かういふ前提のためにローヴィンは計畫化をいかなる具體的な社會思想とも全く縁のない抽象的觀念と看做した。計畫化は彼によつて階級的現實から全く切り離されてしまつた。彼によると、計畫化はもし適當と考へられるならばどの經濟制度に適用してもよいといふのだ。いかにもローヴィンは計畫化が可能となるやうにアメリカの經濟制度そのものを著しく變化させやうと企てゝゐる。だが上記のやうな問題提起の結果として全く主觀的態度を取るほかはなくなつてしまつた。だから彼が階級闘争といふ意味でのあらゆる現實性から退却しなければならなかつたのも當然である。また彼は自分の覺書のなかで、マルクス主義は階級闘争を經濟的發展及び歴史的發展の槓杆と考へるといふ意味で、マルクス主義を批判しやうとしてかなり不成功だつたのも尤もな話である。彼はこのマルクス主義の命題を批判し、そして階級協調は可能であると主張する。

この協調によつて、彼の意見によると、計畫化を可能にするところの資本主義經濟の若干の改造を達成することができさうである。彼のその後の思惟行程は次のやうな傾向を取つてゐる。即ち現在の情勢は國民經濟の生産能力と消費者大衆の購買力との間の喰ひ違ひによつて特徴づけられてゐる。この喰ひ違ひの因つて來る所以は、生産力の發達が生産^{II}及び分配行程を規制するところの利潤に對する資本主義の追求によつて決定されることにある。他方では、労働者階級は生活必需品に對して充分の需要を示し得ないやうな状態にあるが、これが原因で國民の購買力は不充分である。だから恐慌を撲滅するためには二つの方向に沿つて善處しなければならぬことになる。即ち一方では、生産の指導的槓杆の線に沿つて若干の改造を行ふこと。他方では、國民の購買力を高めるといふ意味で若干の改造を行ふこと。すべてこれらのことは抽象的理性の或る種の容喙といふ方法によつて上から行ふやうに提案されてゐる。第一の點について言へば、生産と消費との間の均衡を確立するためには生産の計畫化が必要であり、生産プログラムの確定が必要であるといふことはローヴィン自身の立場から見ても當然らしく見えるにも拘はらず、ローヴィンはこれについてほんのちよつぱりしか語つてゐない。彼がその主要な注意を傾けたのは、價格形成と利潤確定とに變更を加へることが必要だといふことにある。彼はかう考へてゐる。即ち價格をば彼の言ふ社會的價格に改

めなければならぬ。他方利潤をば公正な利潤に改め、そして生産費はそれらの物品を客觀視すべき計畫的諸機關によつて計算されるやうにしなければならぬ。これらの諸機關は正常な利潤額と共に正常な生産費の大きさをも確定するだらうし、またこのやうにして社會的價格のための基礎もおかれるだらう。この社會的價格はまた問題の生産的側面を統制する手段でもある。他方に於て、問題の消費的側面即ち供給とは區別された需要を統制するためには、次のやうにすることが必要である（どうしてそれを行ふかはやはり語られてゐない）。何よりも先づ賃銀を年賃銀に改め、賃銀を一年間固定することが必要だ。次に六時間労働制と一週五日労働制とを實施しなければならぬ。いづれも計畫機關を通じて行はれることが必要だ。計畫機關は各個々の工業部門にもまた全體としての全國民經濟にも設置されなければならぬ。さらに一歩進んで、彼はさういふ計畫機關を世界的規模に於ても設置しやうと望んでゐる。これらの計畫機關の權限はどんなものであるか？ その根本的な權限、その第一の機能は測定するといふことにある。計畫は強制的方法をたゞ最後の手段としてのみ行使する。これらの諸機關が携はる第一の仕事は、個々の生産部門に於ける生産費と販賣價格とを測定することである。そしてローヴィンはかう考へる、いやヨリ正確に言へば夢見るのである。即ちついでに言ふが、かういふ機關は企業者や労働者や技師や經濟學者から構成されるはづ

で、諸階級の協調を促進し、諸階級ばかりでなくインテリゲンチアのやうな中間層の協調をすら促進するが、この諸機關が或る部門のために正常な生産費と公正な利潤とを確立した後次にこれを固定させ且つ公表する。すでにこの公表の一事は社會的意見を資本家たちに作用させる結果となり、そして資本家たちはこの價格に従つてのみ市場に商品を出すだらう。もし彼等がそれをヨリ高い價格で賣らうと試みるならば、彼等は利潤愛好者として、反社會的要素として折紙を附けられるだらう。従つてさういふ行動を思ひ止まるだらう。もしも彼等が思ひ止まらないならば、その時は計畫機關は強制的手段を行使することができる。計畫機關はいかなる強制手段を適用して資本家をして否應なく價格を引下げさせることができるか——それは全く不明である。かうしてこの目論見はたゞこれを説明する時でさへかなり穴だらけである。

國民的規模の計畫化の領域に於ける提案に附加してローヴィンは、世界的規模の計畫化の領域に於て次のやうな提案をこの會議で公表した。第一は、一切の聯合國間債務と賠償とについて五ヶ年間のモラトリアムの設定。この提案を行ふについては多少の掛引がある。フーヴァーは一年間のモラトリアムを提案したが、これによつて債務は帳消しにされたわけではない。だがもし五ヶ年間のモラトリアムが採用されれば、それは債務の事實上の棒引きを意味するだらう。なぜならば一切の

支拂を停止した後五年経つて再び債務の支拂を開始し、かうして現在あるが如き混亂した體制に復歸することを希望する向は少いからである。これが國際的狀態を統制するために彼が提案した第一のものである。次のものは、五ヶ年間のモラトリアムに基づく長期の國際的借款である。この借款は資本の過剰な國から資本の不足してゐる國に與へられ、商業の發達と生産力の復興とを助ける。次は、國際的協調によつて販賣市場を一方では主要原料生産者間へ、他方では主要工業生産物生産者間へ、つまり農業原料品を生産する主要な諸國と工業製品を生産する諸國との間へ分割することである。そして最後に、國際計畫局の設置である。この國際計畫局はまたこれらのことを長期に亘つて實現するだらう。だが手初めとしてせめて世界經濟と世界計畫化との問題に關する研究所なりとも設立することである。これがローヴィンの見地の要約である。この見地は本質的にはこの會議の多數者とこの會議を召集した人々や團體の見地を總括してゐる。

五 資本主義『計畫經濟』は不可能——ソヴェート代表のローヴィン批判

ソヴェート代表側はこの立場に當然批判を加へた。これに批判を加へることはさほど困難ではなかつたのである。吾々の批判は根本的には次の點に歸着する。先づ第一に、提案は殆んど實現されないだらう、なぜならば資本家たちはさういふ状態に移るためにどうして自分の權利や特權、また

はその鞏固な地位を見捨てるか、それが報告されてゐないからである。一步譲つて假りにさういふ提案の實現可能性があるにしたところで、その場合には資本主義經濟の古い刺戟、古い動力的積杆が斷ち切られて、しかも新らしいものは創造されない状態に立ち至るだらう。新らしい刺戟とは何か？ この新らしい刺戟とは即ち生産手段と生産要具とが社會化されること、労働者は自分を××正當な××と考へること、従つて労働者階級の全大衆が生産力の發展に關心を持つこと、労働者階級の諸組織及び産業財政計畫助成案の體系によつて固められた新らしい人間、労働者、支配人が經濟的管理の基本的積杆となることである。そのおかげで、生産力の尠大な急速な發展のために新らしい刺戟が、新らしい手段が、新らしい前提が、新らしい眞實の通路が作り出される。資本主義的諸條件の下ではこのやうな新らしい刺戟は作り出されない。だがたとへそれが實現されると假定したところで、古い刺戟の作用はめちやくちやにされ、且つ市場の無政府状態は少しも取除かれなない。なぜならば、もしローヴィン氏が生産の計畫化を拒否し、もしくはこのことを默殺するならば、またもし彼が生産費と利潤とを統制し始める限り一切はうまく行くだらうと考へるならば、彼はその資本の有機的組成と經濟的活動性とを異にする各々の部門及び各々の企業に勝手に何でも市場に持ち出す可能性を残しておくことになり、従つて市場の無政府状態は依然として毫も清算され

六 計畫經濟の本質と前提——ソヴェート代表の報告

主要な報告者の立場と會議の構成とが明かにブルジョア・インテリゲンチア的な性質を持つてゐるにも拘はらず、ソヴェート代表の報告は全會議によつて非常な共鳴をもつて迎へられた。なぜならば疑ひもなく目下歐米のインテリゲンチア間には著るしい左翼的傾向が認められるからである。どの程度までこの傾向が鞏固で永續的であるかは全く景氣次第である。だがこの景氣上の要素は、何よりも先づあらゆるブルジョア諸國のインテリゲンチア間に非常に多數の失業者があるといふことに表現されてゐる。このことは當然この左翼的飛躍を條件づけてゐるのである。その外、インテリゲンチアは取引所動亂に際して大投機者によつてなぎ倒されたところの取引所に於けるかの素人筋投機者の仲間に入つてゐるからである。だから現在彼等が悲觀的、反對派的な氣分をもち、且つ彼等が左翼的な問題提起にますます細心に注意を配りつゝあることは極めて當然である。これらのインテリゲンチアにとつて、ソヴェート同盟の經驗から何かを引つ張り出してブルジョア社會に適用しやうと努力してゐるローヴィンの「左翼的な」問題提起は異色を放つてゐる。その上、彼等は現實に實現されつゝある社會主義について彼に語られることは注意深く謹聽する。況んや現在明かに彼等の頭腦には、それがやがては至るところに出現する眞の主人があるに違ひないといふ思想が或る

程度まで閃いてゐるからなほさらの話である。このことは、専らインテリゲンチアによつて構成されてゐるこの會議に於てソヴェート代表が期待以上に遙かにざつくばらんに意見を述べ得たといふ事情を説明する。ソヴェート同盟に於ける計畫化の諸問題の審議は、なぜソヴェート同盟に計畫化が発生したか、そこでは計畫化は何を意味するか、それは何をもちたか、等々の問題の審議に變つたが、この審議に際して、不可避的に資本主義と社會主義との問題が提起されなければならなかつた。事實上その頃はブルジョアジーは全く呆然自失してゐたので、ブルジョアジー及びブルジョア・インテリゲンチア層の間でも、社會主義とは何であるか、それはどの程度まで資本主義に代り得るか、または代るべきであるかといふ問題をまじめに討議し得たやうな有様である。

ソヴェート代表の演説が行はれた時の雰圍氣を特徴づけた後、報告の内容に目を轉じやう。吾々は三つの報告をやつた。そのなかでは次のやうな問題が展開された。先づ第一に吾々は計畫化の問題について二三の一般的規定を與へた。吾々は、計畫とは社會主義經濟の存在形態であること、それは諸形態の一定の内容から全く取り外して或る他の形態に着せることができるやうな抽象的概念ではないこと、社會主義的經營計算は社會主義的計畫化の基礎であることを立證した。吾々が最後の點を特に展開したのは、社會主義經濟は計畫的經濟であるからそれは効果といふやうなことを考

へずにあらゆる經營計算なしでもやつて行けるものだといふやうな、一切のあり得べき主張に先手を打つためであつた。

次に吾々は社會主義經濟の必要な存在諸形態としての計畫化の諸前提とは何であるかを規定した。即ちこの諸前提とは一切の生産手段及び生産要具の社會化の必要、プロレタリアートの必要、ブルジョアジー×××及び階級としてのブルジョアジー×××の必要、労働者階級の經濟的及び文化的水準の高揚の必要(この場合彼は自分を主人なりと感じ始める)、經濟的指導の中央集權化と以前の支配者の階級構成の新しい構成による交代の必要、生産の集中と生産の専門化の必要、都市と農村との間の對立の×××及び農業と工業との結合の必要、植民地と植民地×××××の必要、及び計畫の作成に際して科學及び科學的研究活動の全面的利用と科學そのもの、計畫化の必要これである。これこそ計畫化の根本的諸前提であつて、この諸前提は會議に於ける吾々の反對者たちの立場とは全く相容れないものであるが、吾々の覺悟はこれを充分はつきり定式化し、且つ充分はつきり基礎づけたと吾々は信ずる。

さらに、吾々の計畫化の指導的意義とはどんなものであるか、特に現段階に於けるそれはどんなものであるかといふことが言明された。計畫化の指導的任務とは一體何であるか? 計畫化の指導

的任務とは(一)工業化、(二)經濟の社會主義化、及び(三)勤勞者の狀態の改善である。

一般的出發點と諸前提とをかう規定した後に吾々は、吾々の國民經濟計畫とは何であるか、その根本的諸要素とはどんなものであるか、會議の代表者たちの手許に配布された専門的な圖表は何を示してゐるか、吾々はどんな諸要素を計畫化するか、何が物的表現を取り何が價值表現を取るか、吾々はどんな風に計畫を作成するか、といふ非常に基礎的な説明に移つた。即ち計畫作成の均衡的な方法が展開され、それに次いで吾々のところでは誰が計畫するか、計畫機關の體系はどんなものかといふことが展開された。しかもこの場合計畫化は現在の發展段階に於ては全労働者階級の事業となつたことが特に強調された。それにも拘はらず、代表たちは長い間このことを理解することができなかつた。吾々が産業財政計畫助成案について語つた時、多くの代表たちは、この産業財政計畫助成案なるものが労働者委員會によつて提唱され、また計畫が上から提唱される時にはそれは労働者委員會に達するものと考へた。代表者たちはそれは労働者の集會によつて作るものであることを理解することができなかつた。このことを彼等に詳細に亘つて説明してやり、彼等も合點した。しかしこのことは彼等に最高度の驚嘆に値するものと思はれ、最も深い感銘を與へた。

續いて代表たちには次のことがはつきり示された。即ち計畫はローヴィン氏が計畫機關及び統制

とつて特殊のであり、何がさうでないかについて考慮をめぐらし始めてゐることを指摘するのは興味あることである。彼等はかう主張するのである。農業投資に對する工業投資の過重や重工業への巨大な投資は社會主義の一手販賣であるはずはなく、これはソヴェート同盟の後進性によつて説明され、且つ他の國に於ては繰り返し得ない現象であると。吾々はこの挑戦を多少とも公然と取上げ、それに對する返答として、もしもアメリカに社會主義が導入されるならば、そこでもやはり一層の工業化といふ方針が取られるであらう（だがたゞ我が國とは異つた形態と方向とに於て）と主張した。さらに吾々に對して多くの注意を惹いたところの具體的な反駁が行はれた。そしてこれこそは恐らくそれによつてすでに反ソヴェート宣傳を行ひつゝある新らしいスローガンなのである。吾々に對してかういふことが示された。即ち重工業及び一般に工業の發達は我が國ではインフレーションのおかげで達成されてゐること、我が國ではチェルヴァネツの相場が下落し本位貨の崩壊が生じてゐること。またイギリスの「エコノミスト」誌上でソヴェートの一労働者がルーブルの購買力は戦前の五〇％に等しいことを認めてゐるのは本當かどうか、現在我が國では戦前より著しく莫大な數十億の貨幣が流通してゐるのは本當かどうか、我が國では商品市場の混亂と關聯してこの市場には法外に高い價格が存在してゐるといふのは本當かどうか、我が國では生産物が切符で配給され

てをり、その場合切符では何一つ與へられず、しかも自由市場ではすべてのものがべらぼうに高い價格で販賣されてゐるといふのは本當かどうかといふやうな質問が行はれた。このやうに、今では反ソヴェート宣傳はソヴェート同盟の内部に於ける吾々の成果を批判することに移つてゐる。彼等は吾々が外國ですることに對しては攻撃を加へない。彼等は攻撃的性質を帯びたスローガンや吾々に對する貿易封鎖の宣言を促進するやうなスローガンによつて吾々を攻撃しない、こんなことに充分適當してゐるのは外ならぬかの「ダンピング」や「強制労働」の妖怪である。彼等の宣傳は吾々の國內事情の批判といふ側に向けられてゐる。そして彼等は防禦的立場に立つてかう言明する。それは大變結構だ、だが貴國にもやはり缺陷はある、吾々のところに缺陷あることは申すに及ばないことだが、貴國にもやはり缺陷があると。私に對しては次のやうな要請が示された。即ちなぜ私はソヴェートの缺陷に觸れなかつたかと。この場合二三の辯士たちは、吾々は君達の國に缺陷があり、君達は官僚主義や立遅れやアジア的なもの等々と鬭争しつゝあることを知つてゐるのに、なぜ君達はそれについて吾々に一言も語らず、たゞ君達の經濟生活の積極的側面についてのみ語るのかといふ理由で質問を發した。これに對して私は、諸君自身がそのことを心配し、自分からそれを行ひ且つそれを誇張して行つてゐる時どうして私にその必要があらうかと彼等に答へておいた。特に

我が國のインフレーションと商品市場の混亂とに關して示された考慮について言へば、こゝでは吾等は非常に多方面に亘つて論證したのである。吾々の最も一般的な論證は、インフレーションは、條件付きで言へば、ブルジョア國家で適用されてゐる工業の發展を強化する方法であるといふことであつた。それは資本主義的工業が農業や労働者階級やいはゆる中間層を犠牲にしてその發展のテンポを加速化し、他の産業及び、資本家を除いて他の人民集團を犠牲にしてその蓄積のテンポを強化する可能性を得るといふやうな現象である。だが我が國では同時に——しかもそれは數字上示し得る——工業が發達し、運輸が發達し、農業が發達し、一般に國民經濟の全部門及び全領域が發展して明かに他部門の發展を犠牲にする一部門の發展などは行はれてゐないのに、我が國にどんなインフレーションがあり得るだらう。さらに、もし労働者が一九一三年とくらべて一七〇%の實質賃銀を持ち、七時間労働制と一週間五日制とを持ち、しかも七時間労働制は最近採用されたばかりであるといふ情勢の下でインフレーションが行はれるとすれば、どうしてそれは我が國では前進運動の槓杆たり得るであらう。もし我が國では集團化によつて今では集團化された農場からの工場への出稼が減少させられてゐるとすれば（明かにそれは農民が家に止まるのを欲してゐるのを示してゐる。なぜならば彼にとつてそこは以前よりも住みよいから）、どうして農民を犠牲にしてインフレーション

が起るだらう。もし吾々が労働力不足から来る困難を持つてゐるとすれば、どうしてインフレーションがあり得るだらう。吾々はドンバスで労働不足から来る困難を嘗めてゐる。その理由も亦た農村の出稼労働力に頼つてゐるドンバスに農村からの出稼が少くなつたことである。このやうに我が國ではインフレーションは存在しない。一般に、社會主義經濟では何のためにインフレーションが必要であるか？ もしも吾々がこの方法を探るならば、それはたゞ吾々をして事態を混亂させるだけであらう。なぜならば吾々は結局に於て自分自身の基金を犠牲にして生活し發展するからである。若し吾々が全經濟もしくはその決定的部分でもこれを計畫的統制の下におくならば、インフレーションはたゞ吾々をして全状態を混亂させ、吾々がそれによつて蓄積を行ひ且つ生産力の一層の發展を作り出すところの一切の源泉を臺なしにし得るのみである。だから吾々はインフレーションに頼る心算もなければ意向もない。資本主義經濟ではインフレーションに頼る意向がある。といふのはインフレーションなるものは、その助けによつて資本家階級が自分の眞の動機を隠蔽しつゝ他階級、他部門を犠牲として自分の支配下にある生産力の成長と自分の階級的蓄積とを増大する手段に他ならぬからである。だがもしソヴェート同盟では××前よりも多くの貨幣が流通してゐるといふことが示されるならば、我が國には價格はもとのまゝで生産物が何倍多く存在してゐるかを考へ

て見よ。我が國では商品流通が三倍も大である。もし我が國には貨幣が一九一三年よりも四〇%多いものと見、しかも吾々は三倍も多く生産するとすれば、どうしてこれをインフレーションと考へることができるか？

八 科學的管理と計畫化——バーソンの報告

最後に私は會議に於て審議され且つ現在のインテリゲンチアの傾向を非常によく特徴づける一つの題目に觸れやう。それは、會議で用ひられた正確な術語で言ひ表せば、經營の科學的管理に關する問題とそれの計畫化に對する關係である。この題目に對する報告はテイラー協會の責任代表者バーソンによつてなされた。彼は經營の科學的管理が四つの過程を前提するといふ思想を展開した。即ち第一は生産過程及び生産過程に於ける労働の適用の科學的研究である。第二は標準化の過程即ち規格及び標準の確立である。これらのものは研究の後に労働の各機能とその各々の投下機會のために與へ得る。第三に計畫化と統制との過程、この場合には經營の技術的過程を組合はせるところの總體は確立された標準から成り、標準と規格とを遵守するためにその統制が確立されてゐる。最後に、第四は經營の科學的管理の基本的部分は協業といふことである。

これらすべての規定はもつと詳細な説明を要する。アメリカのテイラー主義者たちはかう言明してゐる。もし諸君の國では科學的探求といふ方法によつて生産過程に於て遂行される一切の作用に標準が確立されるならば、もしもその基礎の上に一切が計畫化され、またすべてのものが全く豫定通り遂行されるために統制が確立されるならば、さういふ場合に計畫遂行のために必要なのはたゞ全生産過程參加者の協同一致といふこと、つまり規格と標準との、内心からの欲求による自由意志的な遵守といふことだけであると。さらに報告者は、資本家の氣儘な權力を必要としない、なぜならばもしも諸君が上に述べた一切のことを遂行するならば、工場は恰かもオーケストラを演ずるやうに活動し始めるに違ひないからと述べた。オーケストラは作曲家が書いた樂譜によつて演ずる。個々の音樂家は作曲家によつて彼のために豫め書き下されたもののみを演じ得る。そして指揮者は彼等が始める時と終る時とを定め、彼等の行動を一致させる。オーケストラの演奏は協業に基くもので指揮者の氣儘な行動に基くものではない。そして經營の科學的管理が工業活動のこの樂譜を作る限り、資本家の權力を必要とせず、協業が必要である。さらにやはり相當興味ある思想の連續が展開されてゐる。彼等の言ふところの生産の標準化、つまり普通の言葉で言へば合理化はどういふ段階によつて行はれるか？ 先づ第一に個々の經營が標準化され且つ經營の科學的管理に基いて着手される。この場合準備職場から始めるか、もしも準備職場から始めないとすれば、倉庫——こゝ

から材料がやつて来る——から始める。そして準備職場では最後の職臺ではなく第一または第二の職臺から始める。一經營の標準化が終ると次のことは誰の目にも分る。即ち一經營は標準化されたが、それと接近してをり且つそれから何かを受けまたそれに何かを與へる他の經營が標準化されなう時は該經營の合理化は當該經營にとつても、また他の經營にとつても否定的要素である。なぜならば一經營が單獨に標準化されない以前よりも産業の再生産行程を大いに攪亂し始めるからである。一經營の標準化が行はれる限り、それから次のやうなことが生じて来る。即ち吾々はそれと關聯するあらゆる經營を標準化しまたは合理化しなければならぬ。その結果、全部門、一國の全經濟を標準化しなければならぬといふことになり、結局は全體としての全世界を標準化しなければならぬといふことになる。こゝに、合理化技師たちが技術上の強制から出發して到達するところの興味ある結論がある。

九 會議の總決算

もし會議の總決算を行ふならば、會議が提起したその任務といふ立場から見れば會議は本質的には積極的な結果を達成しなかつたと言はなければならぬ。會議は一つの決議も採用しなかつた。この場合ソヴェート代表の提議によつて決議が採用されなかつたのである。ソヴェート代表は、も

し決議が採用されるならば明かにソヴェート代表は反對投票をしなければならぬ、なぜならば計畫化の問題についてソヴェート代表も會議の爾餘の参加者も相一致するやうなどんな決議も作る事ができないから、と會議の議長に言明した。その時會議の幹部會はどんな決議にも投票を行はず、會議を討議の會として認め且つ終了させることを決定した。

吾々の立場から見ると全會議の總決算はどんなものであるか？ 吾々の立場からすれば總決算は斷然積極的である。なぜならば吾々の提起した問題は會議の中心問題となつたからである。そしてこの點についてはいささかの疑ひもない。吾々は、吾々の提起した問題が多數をもつて採用され、しかもこの會議に於て或る人々が吾々の言ふことを謹聽してくれるなどは勿論考へることができなかつたのだ。吾々は何のために外國に派遣されたか？ 先づ第一に、我が國では計畫化がどうして組織され、またこの計畫化の諸前提とはどんなものかといふ全般的な報告を會議の演壇から述べる可能性を得るためであつた。他方に於て、以前ブルジョア新聞紙上に散見したまた新たに發生しつゝあるかのソヴェート同盟に關する幾多の誹謗的な主張を吹き散らすためである。この方面に於て吾々は充分満足な諸結果を勝ち得たのである。最後に、吾々が會議の全出席者に吾々の計畫化に關して報告を行つた限り、これ亦た少なからぬ積極的結果を勝ち得たのである。なぜならばソヴェート同

二 世界恐慌とブルジョア經濟學者の計畫的幻想

一〇八

盟に同情を表した會議のその參加者たちは、疑ひもなく各國に發生しつゝあるところのインテリゲンチア間のかの幾多のソヴェート友の會に於て吾々の身代りとなるからである。

〔この論文は白揚社版『マルクス主義の旗の下に』所載の譯文を譲り受けて二三の變更を加へたものである。〕

附 外國に於ける「計畫氣分」とアムステルダム
計畫經濟會議（エヌ・オシンスキー）

〔『モスコイ評論』附録『經濟と技術』一九三一年十月四日第四十五號による〕
コムアカデミーに於けるオシンスキーの報告からの抜萃

〔これは前章の長い報告の抜萃であると思はれるが、非常に簡單に纏つてゐて全體を通觀するのに便利であるから、重複をいとはず採録した〕

一 「計畫化思想」の流行の原因

外國に於ける「計畫化思想」の流行は、現在西ヨーロッパのブルジョアジーの間に廣く支配してゐる當惑及び絶望から生じたものである。急進化しつゝあるブルジョア・インテリゲンチアだけでなく、本來の資本の代表者たちまでもが、この——ウインフリートの言ひ方をまねると——「計畫經濟的社會主義的な考へに媚態を呈する」仲間にはいつてゐる。その原因は、何よりも先づ、恐慌の

解決を資本主義にとつて熟知の手段や方法によつて求めやうとする試みがごとく失敗に歸したことにある。急進的なインテリゲンチアもブルジョアジーの各種のグループも、この最後のものとしての計畫經濟思想に絶望的な手段を求め始めた。實際彼等はソヴェート同盟の實例を眼前に見てゐる。恐慌を全然経験しないばかりでなく却つて——資本主義諸國で恐慌が荒れ狂つてゐるちやうどその時期に——失業を一掃してしまつた國、生産が收縮せずには却つて急速に増加しつゝある國の實例を。さてこれらの奇蹟はことごとく五ヶ年計畫の遂行中に現はれたものであるから、また恐慌の未曾有の強さのためにブルジョアジーのイデオログたちのなかにも恐慌の原因は結局生産の無政府性や生産増大と購買力増加との鋭い不釣合にあるのではなからうかといふ考へが起つたから、さてこそひどく不振に陥つてゐる資本主義經濟に各種のボルシェヴィキの遣り口を應用してみやうといふ考へが起つたのである。

二 合衆國に於ける計畫經濟思想の發展

この考へ方は合衆國で最も豊富に現はれた。すでに一九二七年の末には、有名な急進的なブルジョア經濟學者ステュアート・チエイズがソヴェート同盟の計畫經濟とその成績とについて非常に同意的な意見を述べた。その後一年を経て、リュウイス・ローヴィン博士がアメリカ經濟學者の會議

の席上で計畫經濟協議機關の設置を提案した。だがこれは冷淡にあしらはれた。一九三〇—三一年には、この思想は非常にポピュラーになつた。アメリカ合衆國の若干の有名な經濟學者、例へばシー・バード(五ヶ年計畫草案)、ステュアート・チエイズ(十ヶ年計畫草案)、エス・ローヴィン、アール・タグウェル、ウオレス・ドンハム(ハーヴァード大學)が、アメリカ合衆國に計畫化を採用することを主張した。

周知の通り、先日全アメリカ商業會議所、即ちアメリカ合衆國の商業及び工業の利益を代表する最も重要な團體が、『全國經濟會議』の創立を決議した。この會議は、會議所に直屬し、七百の地方會議所の協力によつて、アメリカ經濟を計畫的に組織することを目的とする。つまり新しい思想は、アメリカ資本主義の指導的部分をも把へたのである。

計畫經濟案の創始者たちが、ソヴェート計畫化や社會主義的計畫化と自分たちのそれとが無關係だといふことを強調してゐることは、全く注目に値する。例へばフーヴァー、ローヴィンの如きがさうである。彼等が計畫化といふテクニカル・タームを借用したことで吾々に感謝してゐるやうとるまいと、吾々にとつてはどうでもよい。だが彼等が協議してゐる計畫化は、吾々の計畫化とは根本的に異なるものであつて、それは實に獨占者グループの階級的支配を強めることだけを目的としてゐる

るのである。

三 アムステルダム會議、その構成、そのプログラム

一九三一年八月末にアムステルダムで開かれた國際會議の召集は、實にこの各地に於ける計畫化問題に對する強い關心に應じたものであつた。アムステルダム會議は、國際産業關係協會によつて召集された。この協會には研究所は勿論、労働の科學的組織や經營内に於ける労働者の状態に關する諸問題を研究してゐる個人會員も所屬してゐる。會議の參加者のなかではインテリゲンチアの代表が最も多く、合理化問題に大きな關心を持つてゐた『企業者』及び『労働者』は少數であつた。

會議のプログラムは最も廣範圍に亘る計畫化——國民經濟的規模の計畫化だけでなく全世界的規模の計畫化——を包含してゐた。この一般的な態度に應じて、會議のプログラムは次の諸項目に分れた。

(a) 現在の經濟情勢或ひは現在の矛盾——經濟的進歩の絶頂に於ける失業。(b) 科學的經營管理及び計畫化。(c) 社會經濟の計畫化の問題。(d) ソヴェート同盟に於ける國民經濟計畫化の諸經驗。(e) 各種の營業部門に於ける國際的計畫化。(f) 金融及び信用制度に於ける國際的計畫化。(g) 國際的計畫化の組織問題。(h) 労働者問題及び労働者運動。興味があつたのはb、c及

びdに關する報告及び討論だけだつた。世界恐慌の包括的な一般的な叙述を與へ、世界恐慌を全體制の危機として特徴づけ、最も簡明にその原因を指摘した者は、實に我がソヴェート代表であつた。その他には討論のなかで、恐慌そのものについてもその原因についても何ら優れた意見も特徴的な意見も發表されなかつた。

四 ローヴィンの資本主義の下での計畫化可能説

ローヴィン博士は彼の報告に於て次のやうな前提から出發した。國民經濟計畫化の觀念はソヴェート同盟がその實現に進む遙か以前から存在してゐたものであつて、必ずしも社會主義經濟と關聯してゐるものでは決してない。彼は、計畫化をもつて、非常に各種の社會的目的に役立ち、非常に各種の社會經濟體制と結びつき得る一つの道具、一つの手段だと考へてゐる。この見解では、計畫化は、一つの抽象的な觀念、一切の現實的な經濟的内容を缺いてゐる一つの抽象的な形式になつてしまふ。それは宛かもどんな形の頭にも合ふ帽子のやうなものである。具體的な經濟的範疇が、内容のない抽象に轉化されてゐる。

ローヴィンは、生産力の増大と最も主要な消費者層としての労働者大衆の購買力の増大との間に現在存在してゐる甚だしい開きを指摘することによつて、資本主義社會に計畫化の觀念を實現する

必要を根據づけてゐる。ローヴィンによれば、生産力の非常な増大の原因は資本家の利潤獲得努力と市場での彼等の競争にある。この「供給」の開きを除き、供給の増加が計畫的規則的に行はれるならば、利潤は「公正な」（即ち計畫的に規制された）利潤となり、市場価格は「社會的な」（即ち生産費と利潤とに應じて計畫的に規制された）価格になるだらう。他方「需要」も亦た計畫的に安定させねばならない。しかも、所謂「年賃銀」（これは一年分だけ豫め確定されてゐる）や、六時間労働制や、一週五日制や、就業労働者数を増加する諸方策やの採用によつてそれをやるといふのである。直接生産の計畫化に關する問題、個々の産業部門や經營の生産計畫の作成の問題を、ローヴィンが避けてゐることは、注目に値する。計畫局には所謂「階級的協調」を顧慮して企業者、労働者、技術家及び經濟學者の代表がなければならぬ。この計畫局が適當な方策を實行するのである。しかもローヴィン氏は、資本家が自由意志によつて彼の「社會的進歩的計畫化様式」——彼はかう名づけてゐる——に賛成するだらうと信じてゐる。資本家が計畫局で定められた「社會的」價格に従ふことを拒絶するやうな場合にのみ、初めて強制的な處置が適用される。ローヴィンは、この制度が供給と需要との開きを規制し、生産力を高め、労働者大衆の生活水準を向上させ得ると信じてゐる。

五 ローヴィンの提案に對するソヴェート代表の批判

先づ第一に吾々はローヴィン氏に向つて次の問を出した。經濟的政治的權力を完全に掌握してゐる資本家が自己を疎外するやうな提案に賛成すると想像する根據はいつたい何かと。ローヴィンはこれに答へることができなかつた。ソヴェート代表が正當にも強調した通り、ローヴィンの「改良された資本主義」に於ては、これまでのやうな生産力増大のための刺戟（ヨリ有利な價格と最大の利潤とを求める努力）は、新しい刺戟（社會主義の下で生産を支配してゐる全労働者階級の不斷の生産増加に對する關心）がそれにとつて代らないうちに、消え失せてしまふ。同時に市場の無政府性は世界から除かれない。なぜならば、生産は直接に計畫されず、「公正な」利潤を基礎にして計畫されるからである。「社會的價格」及び「公正な利潤」をどこかの産業部門に採用しやうとする最初のまじめな試みは、この産業からの資本の流出と他の産業への不釣合な資本流入とを惹き起し、だからつまりなほ一層大きな生産混亂を伴ふだらう。計畫局はただ命令するだけで起り得べき結果に責任を持たない監督機關になる。要するにローヴィンの提案の實現から生ずるものは、最悪の恐慌と同じやうな混亂であらう。

ナフタリ氏の所論はローヴィン氏にくらべると遙かに控え目であつたが、やはりそれに相應して

ヨリ無内容であつた。このドイツ社會民主主義の理論家が恐慌克服のために提案した諸方策は、次の三項目に總括することができる。(一)失業を減少させるために國際的規模に於て非常時労働をやる計畫。(二)資本投資の官廳による統制(發券銀行を通じて行ふ)及び商業信用銀行の統制。(三)資本主義的獨占の官廳による統制(組織化された資本主義)。

計畫化については、ナフタリは全然皮相的に且つ曖昧にしか意見を述べなかつた。ソヴェート代表がローヴィンの所論を克服するのに用ひた議論は、そのまゝナフタリの報告にも當てはまる。ただ違ふ點は、ローヴィンは彼の『改良された』資本主義を社會主義に至る過渡段階などと名づけることを要求しなかつたに反して、ドイツの社會民主主義者は、彼等の擁護してゐるブルジョアの諸關係に社會主義的なレッテルを貼つて労働者階級を欺瞞してゐる。

六 ソヴェート同盟に於ける計畫經濟

ローヴィンの報告が「計畫經濟世界」會議の一つの絶頂だつたとすれば、ソヴェート同盟の社會主義的計畫化に關するソヴェート代表の報告及びこれに關聯する資本主義と社會主義との諸問題に關する討論は、會議の第二の絶頂だつた。會議は、ソヴェート代表、オシンスキ、ガイステル、クラヴァルの三報告を緊張のうちに傾聴した。

彼等のブルジョア的な相手とは反對に、ソヴェート代表は先づ第一に次の根本原則を提起した。國民經濟の計畫化は、社會主義的生產様式の必然的な存在形態であつて、それは市場の無政府性や利潤追求が資本主義的生產様式の不可避的な存在形態であるのと同様である。最も廣汎な國民經濟計畫化——これは社會主義社會に於てのみ可能だ——の基礎になつてゐるのは生産の計畫化である。即ち生産計畫は同時にまた社會的生産物の分配及び消費の計畫でもある。『供給に對する需要の超過』は社會主義經濟の特徴である。それは宛かもその逆が、即ち恐慌となつて現はれてくる需要に對する供給の超過が資本主義の特徴であるやうなものだ。この需要の『内在的な』超過は決して以前のロシアが遅れてゐたことによるのではなくて、 \times 領有の桎梏からの生産力の解放と労働者階級——その労働力はもはや商品ではなくなつた——の消費の増大との兩作用に基づくのである。だからソヴェート同盟に於ける國民經濟計畫化にとつては、次のやうな根本原則が決定的である。(一)國の工業化。(二)經濟過程の社會化。(三)勤勞大衆の生活水準の不斷の向上。國民經濟計畫化の不可欠な條件としては次のものがある。(一)プロレタリアート $\times\times\times$ 。(二)生産 \parallel 及び分配手段の社會化。(三)階級 $\times\times\times$ 、何よりも先づ大ブルジョア \parallel 及び地主 $\times\times\times$ 。

會議参加者に配布した圖表を用ひて、我が代表は、計畫化が現在工業、動力業、交通業、商取

引、信用Ⅱ及び金融制度、農業の大部分で行はれてゐること、否それはもう國內の文化生活をも含んでゐることを證明した。採用された諸手段のうちの最も完全なものゝ成果、決算や社會主義的經濟計算の成果は、簡明に示された。計畫の分化、職場や仕事臺に至るまでの計畫の續行は、出席者に手に取るやうに描き出された。

ソヴェート代表の演説は非常な喝采を博した。全計畫化制度の統一性及び完全な完成、労働者による産業や金融に對する對策の作成及び社會主義的競争や突撃隊運動やによるその實現——これらは何よりも先づ會議參加者に深い印象を與へたものだつた。多數の代表者が、この最後に述べた大衆の經濟活動の新形態を自分の目で見て知るためにソヴェート同盟を訪れやうといふ希望を述べてゐた。

この對策は、アメリカの『テイラー主義者』、テイラー協會の代表者——『科學的經營法』別名合理化問題に従事してゐる技術家の間に特に喝采を博した。このやうな科學的經營は、バーソンの演説によれば、労働方法の研究、その標準化、計畫化、統制及び經營内で働いてゐるすべての者、誰よりも先づ労働者の協同によつてのみ、成し遂げられるものである。バーソンはこれに結びつけて、生産過程の完全な合理化の豫備條件についての一般的な考察を行つた。しかも彼は、個々の經

營及び産業部門に於ける生産過程の合理化は『全國國民經濟の生産の合理化、安定化』の枠内でのみ可能であり、この後者はまた世界經濟の合理化の枠内でのみ可能だといふ見解を懐いてゐた。

この見解は、資本主義がその恣意やその混沌やその私經濟的性質によつて生産の眞の合理化をいかに妨げてゐるかといふこともそれから結論されることであるから、なほさら注目し得る。資本主義世界では、計畫化ではなくて、計畫幻想や似而非計畫的で實際は利潤増加や賃銀切下げを狙つてゐる資本家グループの役に立つに過ぎないやうな諸設備しか考へ得られない。バーソンが合理化の豫備條件として強調した經營に参加してゐる全員の協同も、資本主義の下では考へ得られない。これに反して、社會主義的競争や突撃隊には、バーソンの立場からすれば『科學的經營』の原則が具體化されてゐるのである。

會議の總決算を與へると、會議は發案者が豫定した課題を果すことはできなかつたといふ結果になる。決議はまるで作られなかつた。といふのは參加者の間に現はれた鋭い對立は、かういふ場合に普通になされるやうな多少とも一致した表決を不可能にしたからである。それにも拘はらず、ソヴェート同盟に於ける國民經濟計畫化の形態や方法や結果についての啓蒙にとつての重要性は、大いに高く評價すべきである。會議は、多くの誤解を解き、ソヴェート同盟に向けられてゐた多くの

中傷を無力にするために、非常に力があつた。またインテリゲンチアの著るしいグループがソヴェート同盟に對して懐いてゐた意見を、積極的な同情に變へはしなかつたとしても、好意ある中立に變へるためにも、非常に力があつた——これは、干渉の危険がまだ無くなつてはゐない社會主義的建設の現在の段階に於ては實に重要な事情である。だから要するに吾々は會議の結果については満足することができるのである。

三 資本主義の空想と社會主義の現實 (アー・ド・フリース)

— 計畫會議の結果 —

〔「ブルジョアの幻想——社會主義的現實」IPK一九三一年九月四日
第八十六號による〕

八月二十三日から二十九日にかけてアムステルダムで開催された『經濟計畫世界會議』は終つた。この會議は、資本主義的××とソヴェート同盟に於ける社會主義的建設のイデオロギイ的××との會議だつた。

この會議は、主としてアメリカ及びオランダの産業資本家及び經濟學者の一群によつて、「組織化された資本主義」の幻想を宣傳し階級平和をお説教する目的をもつて組織されたのであつた。數百萬の人々が資本主義の必要に疑ひを懐き始め、×××労働者運動の影響が目に見えて増大してゐるこの恐慌時にあつては、改良され編制された恐慌拔きの資本主義の幻想は、かりに大衆がそれを信ずるとすれば、ブルジョアジーにとつて非常にありがたいものだといふことはわかりきつてゐる。

る。

だからこそ、ソヴェート同盟の代表がこの會議に出席して、資本主義の無政府性を組織化するこの不可能なことを證明し、ブルジョアジーの無力とプロレタリア××の國に於ける社會主義的建設の偉業とを對比して見せたといふことは、非常に重要なことだつた！ 會議の準備として、代表は、ソヴェート同盟に於ける計畫化の豫備條件、性質及び形態に關する資料、計畫經濟の成果や農業の計畫及び發展に關する資料、及びソヴェート同盟に於ける労働力の問題に關する資料のやうな非常に價値多い資料を含む詳細な報告を作成してゐた。

ロシア代表の口頭報告は、疑ひもなく會議の絶頂になつた。會議は、同志オシンスキイ、ガハステル、クラヴハル及びロイニンの演説を非常に注意深く傾聴した。彼等は、五ヶ年計畫の巨大な進展について、急速に進展する農業の集團化について、勤勞大衆の生活狀態の向上について報告し、これを資本主義の無政府性と對比した。

討議に際して二つのモメントが現はれた。一方では、階級××もう單純にソヴェート同盟の成果を敢えて否認しやうとはしない。だが彼等は、色々の懷疑的な口實や疑惑によつて、ソヴェート同盟がまだ「若い遅れた國」であるからこのやうな進歩が起り得たのだとか、經濟的發展のテンポはやがてすぐに緩慢になるだらうとか、二三年のうちにソヴェート同盟にもやはり「過剰生産」が起る危険があるとか、等々、等々といふ印象を呼び起さうと試みてゐる。ソヴェート同盟が今やすでに農業用機械の生産のやうな重要な工業部門に於て資本主義世界を追ひ越すほどになつてゐるといふ事實、社會主義は最も高度に發展してゐる資本主義國合衆國に於てさへ生産力の著るしい増大を齎らすだらうといふ事實、社會主義社會では一般的過剰生産などはまるで話にならず、せいぜい個々の計畫の誤謬——これは絶えず、行はれてゐる統制によつてすぐさま修正され得る——があるに過ぎないといふ事實——これらの事實を證明することはソヴェート代表にとつてたやすいことだつた。

他方に於て、ソヴェート同盟の諸經驗がブルジョア専門家のなかの最優秀な人々に深い印象を與へたことは、否定されない。だから、例へばドイツの學者ボロツクが、自分の懐いてゐるあらゆる疑問や狐疑を述べた後で、それでもなほ次のやうに述べたことは、無意義ではなかつた。

「ソヴェート同盟は、數百萬の労働者及び農民に向つてヨリよい將來と向上の可能性とに對する希望と信頼を與へた。反對に吾々のところでは毎年毎年だんだん悪くなつてゆくばかりだ。もしも資本主義が同様な感激と犠牲心を大衆の間に呼び起すことができなかつたら、大衆は結局ソヴェートの道を選ばだらうといふことは疑ひを容れない！」

ブルジョア科學の代表者たちの多數の報告について一言すれば、それらは資本主義の××のないこととブルジョア思想の混亂とを適切に證明してゐた。一方には、フランスのラザール教授のやうな公然たる懷疑家がゐた。彼はトラストや一般獨占諸組織について次のやうに述べた。『吾々が前もつて決められた協定に従つて生産すればするほど、なほさら悪くなつてゆき、結局は混亂に陥つてしまふ』。他方には、空想家や夢想家や改良主義的幻想の普及に利益を感じてゐる事業家がゐた。

この會議に對する社會民主主義の態度についてなほ一言しなければならぬ。彼等は明かに自己辯護を餘儀なくされてゐた。實際、改良主義的約束が毎日毎日幾千となく事實によつて反駁されてをり、労働者にとつてだんだんよくなるどころかますます悪くなつてゆく現在では、彼等はそれ以外にどうすることもできないのだ！會議はオランダの改良主義的指導者ウイバウトの開會の辭をもつて始まつたが、彼はありきたりのおざなりの外に、資本主義世界の經濟的發展——それについては社會民主主義も大いに責任があるのだが——は『絶望的、完全に絶望的』であるといふことを告白せざるを得なかつた。彼は、經濟戦争が毎日毎日悪化しつゝあること、一九二七年の世界經濟會議は少しも成果を示さなかつたことを述べた。だが彼はこのやうな困難な情勢からの血路を示すことはできなかつた。またジュネーヴの國際労働局理事長アルベール・トーマの演説は、社會政策を

無思慮に顧みない（社會民主主義者の最も積極的な協力の下にさうするのだが）悪い資本家についての哀れな嘆息に過ぎなかつた！

會議は勿論何らかの實際的結果を生み出しはしなかつた。また生み出し得なかつたのである。決議は作られなかつた。また「たとへ作られたとしても」最も立派な決議でさへも資本主義の無政府性を秩序づけることはできないだらう。だが會議は労働者階級の注目に値ひする。なぜならば、それは資本主義的××、改良主義イデオロギーの××、資本主義的恐慌克服の幻想の××、計畫的な社會主義的×××××——これらすべての實例を示すものだつたからである。

第三部 各 國

第一 アメリカ合衆國

一 資本主義「計畫經濟」理論（ハリ・ガンネス）

〔「ザ・コミュニスト」一九三一年十一月第十號による〕

一 合衆國に於ける計畫經濟熱と大ブルジョアジーの態度

労働者の生活水準とブルジョア經濟學者の信條とに對して破局的な影響を及ぼしてゐる世界經濟恐慌によつてますます明瞭になつた資本主義的無政府狀態の迷路のなかで、計畫經濟の問題が大衆に對して偉大な魅力を持つてゐる。

五ヶ年計畫と、人間が生産諸力によつて支配されるのではなく、生産諸力が人間によつて支配される新たな經濟秩序の先驅者としてのその意義とは、指導的な資本主義の代辯人たちにとつては厄

病神になつてゐる。誰も彼も『計畫化』を話題に上せてゐる。大衆は資本主義が彼等をますます深く飢餓のなかへ投げ込んで行きつゝあることを理解してゐる。さしも長い間抒情詩的賞讃の的であり、さしも長い間第二インターナショナルが××マルクスレーニン主義がまちがつてゐるその證據として讚美してゐた合衆國の尠大な生産組織も、今では誰の目にも明かに矛盾のうちにのたうち廻つてゐる。

右のことが非常にはつきりして來てゐるので、恐慌が過剰生産の恐慌であり、過剰に原因する飢餓の恐慌であるといふことを、理論的説明だけで労働者にはつきり證明してやるといふことは、もはやその必要がなくなつてゐる。生産諸力が社會的諸關係と矛盾に陥つてゐること、及び資本主義はその×××近づくとつれて、その無政府の體制を永久化するための手段としての×××××のなかへ大衆を投げ込むものであることは、何百萬何千萬といふ人々に曝露されつゝある。

最も遅れたアメリカの労働者農民にも、極めておぼろけながら計畫經濟といふ觀念が及んで來た。そして計畫的生產は恐慌、失業、飢餓、賃銀切下げを終熄させると共に、一般的な統一された規模で生産諸力を増大させ、同時に労働者の生活状態を引續いて改善するものであるといふ考へが、彼等の當面の話題になつてゐる。

今日までの人類社會に知られてゐるあらゆるものを遙かに尻目にかけてゐるソヴェート同盟の工業及び農業計畫の遂行は、指導的な資本主義の代辯人たちからのイギオロギー的攻撃を要求する一つの有力な勢力となつた。もう計畫經濟の觀念を單純に嘲笑し去ることはできない。默殺ももはや役に立たない。資本主義はこれで計畫經濟よりも優れてゐることを示して來たと言ふのは、飢えかつた失業者に、お前たちが一九二九年に食つた焼肉はロシアの労働者が今日食つてゐる食事よりも良かつたと言ふのと同じことである。

大學は計畫經濟に關するおしやべりで喧々がうがうとしてゐる。そして資本家たちは早くも、例へば、チェンバーリン、カルヴィン・ビー・フーヴァー、マスュー・ウォル、デョーヂ・スール、ダブリュー・ビー・ドン・ハム教授、チャールズ・エイ・ビーアドのやうな、計畫化についての議論にかけて口八丁の『玄人』を作り出した。フーヴァーの著作やマクファツデンの『ニュー・ヨーク畫報』のやうな資本主義の反古でさへも、アメリカの大衆が計畫經濟の觀念に夢中になつてゐる事實を見逃すことができなかった。この兩者ともに數多くの美辭麗句を並べ立て、これが『計畫』でござると詐り稱して賣りつけやうとしてゐる。

最後に、フーヴァー大統領自身も『計畫經濟』の觀念が大衆に對して持つてゐる魅力を見逃すこ

とができなかつた。フーヴァーは、一九三一年六月インディアナ共和黨系主筆協會での演説に當つて、五ヶ年計畫に應酬するため見え透いたデマゴギーに逃げ場を求めざるを得なかつた。

一九三一年六月十七日の『ウォール・ストリート新聞』は、フーヴァーが計畫經濟にちよつかいを出さうとしたことに對する指導的帝國主義者たちの感謝の念を表現した。彼等は『計畫化』についての論議がますます盛んになることに對する大銀行家たちの當惑を繰り返し、フーヴァーがこの問題を取扱ふ上に必要な仕事をやつたと考へて、次のやうに言つてゐる。

『現存秩序に挑戦して泣き聲を擧げ、「計畫」を求めてわめいてゐるかみしもを着けた教授先生たちの尙早意見に對して、フーヴァーは「アメリカ流の計畫」といふ彼自身の見解をもつてこれに答へた。彼が考へたのは、誰にもわかるやうに、次のことであつた。即ちアメリカの民衆は過去五十年の間、彼等自身の變通自在の思想體系に従つて働いて來た。アメリカの民衆は今日まで大體に於て奇蹟的にうまくやりのけて來た。そして將來もその成果に充ちた進化を續けて行くものと期待してよいだらう。アメリカはそのヨリ發展した何らかの手本に隸從するに至るに相違ないといふ恐怖に充ち、論難をもつてロシア的現象に反對する人々に對しては、フーヴァーは次のやうな誠に適切な回答を與へた。

「二三の人々はこの計畫が根本的な×××變革によつてのみ實行し得るものであると信じてゐる。他の人々は、いかなる制度も我が民族の國民性の成長であり、吾々の傳統の自然的な成長でなければならぬ、吾々は過去百五十年以上に亘つて若干の理想を築いて來たが、この理想は破壊されるべきものではなく、むしろその上に建設して行かなければならないものであると信じてゐる」。

帝國主義的執行委員會の指導的代表者が増大しつゝある五ヶ年計畫の人気を考慮することを餘儀なくされたといふことを承認したことを除けば、フーヴァーの計畫はまぎれもないデマゴギーである。

二 ファシスト及び自由主義小ブルジョアの『計畫經濟』

一 ドンハム教授の『計畫經濟』

だが小ブルジョアはさらに一步進んでゐて、指導的ブルジョアに恐慌からの血路を提供するやうなあらゆる計畫を理論づけやうと企てた。戰爭狂の前駐獨大使チェイムズ・ダブリュー・デューラードに尻押しされて、ファシストのマスチュー・ウォルも亦た一つの『計畫』を編み出した。さらにハーヴァードの産業經營大學の産業經濟學部長、ウォレス・ブレット・ドンハム教授も、結

びつけ得ないギャップを結びつけようとさへも試みずに、「一般的産業計畫の緊急の必要」について語つてゐる。先見の明のある計畫屋たちは、いつでも、資本主義社會の基本的階級關係や資本主義的生産の法則や資本主義國家の機能やには傍目もふらずに登場して來る。

ドンハム教授は資本主義社會に於ける何ものにも手を觸れることを欲しない。彼は階級を現在のまゝにそつくりとつて置かうと欲してゐる。彼は資本主義國家が××××××としてのその役割を保有することを欲してゐる。それでゐて彼は「計畫の缺除が吾々の現下の苦境の主な原因である」と考へ、計畫化を欲してゐるのである。實際彼は非常に強硬に問題を提出してゐる。

『吾々が必要とするものは、哲學的に基礎づけられた計畫に於てその絶頂に達するところの、有力な合理的に先を見透した指導である。アメリカの實業界でかういふ指導が得られるかどうか、その吾々の能力に、資本主義文明の運命が正に懸つてゐると言つてよい』（「サンデー・タイムズ」一九三一年三月十五日）。

ドンハム教授の欲してゐる計畫がどんなものであるかは、言ふまでもなく、暗夜の鳥のやうにはつきりしてゐる。彼は叫んでゐる。資本主義は指導と計畫化によつて救済しなければならぬ。

だがその基本的諸關係——私有財産、資本主義國家、労働者の搾取——には手を觸れてはならないと。

二 フアシスト・ウォルの『計畫經濟』

アメリカの資本主義的『計畫化』のもう一つの老舗はアメリカ市民聯盟である。このアメリカ市民聯盟といふのはアメリカ労働總同盟のファシスト幹部と賃銀切下げボストの清算取引所である。

彼等が持ち出した『計畫』にはデュームズ・ダブリュー・デューラード、エリユー・ルート及びマシュー・ウォルの裏書がついてゐる。長い間アメリカの市民聯盟は、五ヶ年計畫の『失敗』を「曝露」し、全く試験済みの××××××方法で合衆國に於ける共産主義を撲滅することにその精力を注いで來た。だがマシュー・ウォルは少くとも百パーセントだけ五ヶ年計畫を追ひ越すことに決心した。そこで彼は彼のいはゆるアメリカ十ヶ年計畫なるものを發表したのである。彼がこんなに突然に計畫に注意し出したのはどうしたわけであるか？ その計畫自體が次のやうに述べてゐる。

『合衆國及び外國の一般に認められた經濟學の權威たちの證明するところによれば、ロシアの五ヶ年計畫は望みのない失敗であることを曝露しつゝある……』（「タイムズ」一九三一年六月十五日）。

この『失敗』の結果、つまりプロレタリアートの支配下の計畫經濟に有利なやうに、××が『成

一日)がこれである。

自由主義的歴史家ビードは先づ吾々に次のやうに語つてゐる。

『計畫化はすでに行はれてゐる。それは、我が國發展の初期の二世紀の間經濟舞臺の中心を占めてゐた個人的農業と同様に、今ではアメリカ的になつてゐる吾々の工學的文明 Technological Civilization に固有のものである』。

『計畫化はすでに行はれてゐる』にも拘はらず、吾々はビードがいかにして計畫を採用すべきかについて雑炊的なおしやべりを長々とやつてゐるのを見出す。この計畫の第一歩は、議會によつて組織され、明かに指導的搾取者によつて引率統制さるべき「國民經濟會議」の設置である。

ビードの言ふところによれば、この「國民經濟會議」の機能は、ユナイテッド・ステイツ・スティー爾會社、ヂェネラル・モーターズ會社、フォードその他の大トラストの最近の活動と同様である。

『こゝでの手続きは合衆國の大會社がすでに採用してゐるものに從ふであらう。たゞそれがヨリ大規模であり、且つ法律上の制限ではなく、經濟「の法則」に從ふ點がこれと異なるだけである。』勿論中心をなす要素は、資本主義的諸關係をそつくりそのまゝ取つて置くことであり、私有財産

を存続させることであり、強ひて取り上げて言へば、私有財産をなほ一層少數の資本家の手に集中させることである。この計畫は「アメリカの(資本主義のと讀め)經濟的傳統にちよつぱりも背くことなく」行はなければならない。「實際、民間銀行の保護の下に破産及び再建がやられる場合に通常見受けられるよりも、もつともつと細心の注意が株式及び社債所有者に對して拂はれ得るだらう』。

ビードは利潤制度即ち労働者からの餘剩價值の搾取を存続させ、「計畫」の一部分として階級關係を保存しておくことに、細心の注意を拂つてゐる。彼の欲してゐるのは小ブルジョアの所得に對する保證であつて、國民計畫經濟ではない。繰り返し繰り返し彼は「作業能率を基礎とした等級別の配當」のつく株式のことを氣にかけてゐる。

ビードは、彼が資本主義的諸關係の基本的要素、即ち資本家階級の手への生産手段の集積と、生きるためにはボスたちのために労働して利潤を生産することを強要される無財産の労働者階級の存在とは、決して手を觸れやうとしてはゐないといふ事實を強調するために、次のやうに言つてゐる。

『右に言つたことから明かなやうに、こゝでは財産×××といふことは決して考へられてゐな

い。反對に、國內的紛争（南北戦争のことだが）中の三四百萬弗の價值のある奴隸所有權の廢止と、禁酒に際して行はれた數百萬弗の酒類業に對する投資の破壊とが示した手本は、工學的社會 Technological Society の手術方法としては最も望ましくないものとして捨て去られてゐる。

ビーアドはいはゆる奴隸解放によつて奴隸所有者が蒙つた黒人奴隸の價值の喪失が、經濟上の障礙であつたと考へ、さてこそ私有財産××××けるために、賃銀奴隸が資本主義の支配から自己を解放しやうとするのを喰ひ止めなければならぬと推論してゐるのである。

彼はその論文を結ぶに當つてこの計畫が役に立たないことを指摘して次のやうに言つてゐる。

『この計畫はすべてあまりに大であり、あまりに一般的であり、あまりに高遠であつて、現下の事態に對しては何の役にも立たないと言つても差支へないだらう』。

このやうに、資本主義經濟のために「計畫」を發見しやうといふ「科學的企圖」にも拘はらず、彼は右のやうな取消しでその論文を結んでゐる。たゞファシズムへの叫びだけがそのまゝに残されてゐるが、これは資本家側の「一層強硬な態度」への叫びである。

四 スールの「計畫經濟」

デューヂ・スールの提案のなかには「我が國經濟の頭腦の創造」といふことが含まれてゐる。こ

の頭腦が何をなすべきであるか、またそれがいかなる機能を果すべきであるかは、多少曖昧である。彼の積極的な主張は數多くの美辭麗句で粉飾されてゐるが、それだけに結果は計畫に對するつましい願望と誰か天才的な資本家が出て、實行し得ないまでも、讀みごたへのある計畫を作り上げてくれよばよいといふ希望とに終つてゐる。この自由主義者の「計畫」の清淨さの一見本とその中心點をなす思想とは、次の言葉のうちに含まれてゐる。彼はかう言つてゐる。

『もし吾々が經濟××を樹立すべきであるとすれば、かういふ人間は不必要かも知れないが、しかし現存の權威を調整し教育することが仕事なのだから、かういふ人間が必要である』。

換言すれば、資本主義が現在のまゝではもはや二進も三進も行かなくなつた場合には、ファシスト××（こゝでは「經濟××」と粉飾されてゐる）が必要であるといふのである。

彼の「計畫」のなかに帝國主義の利益をそつくり取つておくことに注意してゐるスールは、對外投資、つまり植民地民衆の搾取までも考慮してゐる。「海外投資は生産及び輸出入の必要に適合させられなければならないだらう（一に全く「計畫化」をやると豫定されてゐる中心的帝國主義的權威者たちのために）』。

この「計畫」のなかでは常に、資本主義の、即ち利潤のための生産の生産諸關係の鍵、資本主義

的無政府と無組織とのそもその源泉は、肝腎かなめとしてそつくりそのまゝになつてゐる。「管理の報酬としての利潤は、投資の誘因としての利潤は、あとに残るだらう。だがそれは必要に應じて制限され取締られなければならない」とスールは書いてゐる。

これが提案された資本主義的「計畫化」の小ブルジョア的中核である。「投資の誘因としての利潤」はあとに残る。労働者は利潤を作り出すために安賃銀でこき使はれる。そして生産の無政府状態は、「計畫」が一束にして屑籠へ投げ込まれるのと並んで、愉快に進んで行く。

どこでも同じやうに、小ブルジョアの雑炊家の計畫化の提案は、經濟計畫化に對する歎願としてではさらさらなく、資本主義のメシアに對する歎願として、そして究極的には先づ資本主義的無政府状態を掃き淨めプロレタリアートの××を樹立することによるほんたうの計畫經濟を暗示する××労働者階級に對する楯としてのファシズムに對する歎願として、要約することができる。

經濟問題を處理すべき新國家形態に關する自由主義者のおしやべりは、尖鋭化しつゝある階級勢力に肩すかしを喰はせやうとする企てである。×××××第一回世界大會に提出されたブルジョア民主主義とプロレタリアート×××××についてのテーゼのなかで、レーニンがかう言つた。

『資本主義社會には資本家×××とプロレタリアートの×××との中間の途は存在し得ない。第三

の途を夢想するのはすべて下層中産階級の反動的な挽歌であるに過ぎない』。

三 大ブルジョアジーの「計畫經濟」——スウォープ案

自由主義者のいはゆる計畫のどれよりも有力なのは、モルガン系の一般電氣會社の總裁でワシントンの帝國主義政府と密接に結託してゐるチェラード・スウォープが提案した計畫である。

『計畫經濟』といふやうな結論を少しも示さずに、スウォープの提案は、『生産及び消費の調整』といふスローガンの下に、指導的帝國主義者の支配の擴大、これらの帝國主義者と國家とのより密接な癒着及びスウォープが失業保險及び年金制度と稱してゐる温情制度の労働者に對する押しつけに、基礎を與へてゐる。

現在のところでは、とスウォープは言ふ、『生産の調整は現行法律の下では不可能である。そして現行法律を訂正または廢止しやうと思つてもそれは無益である』。だから必要とされてゐるものは、彼の論ずるところによれば、スウォープ、ヘンリー・フォード、ヂェー・ビー・モルガン、オウエン・デュー・ヤングのやうな指導的帝國主義者からなる超法律的な團體である。この團體はこれらの帝國主義者がその手中に産業を集中させ、労働者をた×××××ためにもつと×××××な×××を振り廻すことを一層容易にするだらう。簡単に言へば、資本主義國家と指導的帝國主義者との癒着

が完全になり、従つて一切の系統が彼等の手に歸し、いかにも人聞きのよい家長的な『保險制度』が制定されるだらう（この保險は労働者の賃銀から差引かれるのだ）。そしてもしこの方法が役に立たなければ、その時は公然たるファシズムが唯一の行く先であらう。

スウォープの提案は指導的帝國主義者の利益をむき出しにしてゐる。例へば、その主要點の一つは『組織化された産業が指導権を握る』といふことである。『組織化された産業』とは大トラストのことであるとスウォープはぶちまけてゐる。次にこのいはゆる『組織化された産業』の指導の下に次のやうな集中がやられることになる。

『五十名以上の従業員を使用し、州相互間の營業に従事してゐる一切の工業Ⅱ及び商事會社（その從屬會社をも含めて）は、次に述べる聯合體の監督の下に立つべき同業組合を組織する』。

この聯合體には帝國主義國家内の指導的帝國主義者の代表が入つて、その見地からこの集中された産業を支配する。そしてこの同業組合は、勿論、指導的トラストに支配されることになる。

スウォープはさらに進んで、價格の固定化や指導的銀行家の監督の下に立つ『標準會計及び生産費制度』Standard accounting and cost system の制定のやうなあらゆる種類の制度によつて、換言すれば、資本主義の一切の基本的矛盾を最高度に強化させるあらゆる手段によつて、帝國主義者の城塞を一層強化することを提案してゐる。

この提案の大部分が『失業保險』とか『養老年金』とかといふ×××約束を含んでゐるのは、労働者を×××帝國主義體制を支持させ、支配的トラストの城塞を強化するために故意に挿入したものであることは、スウォープと彼の『計畫』の支持者とが、今やこの失業保險を單に指摘することに對してさへも目の上の敵として徹底的に抗争してゐるのを見れば明かである。『組織化された産業』が指導権を握ると、彼等が急にこれらの計畫に反對するのはどういふわけか？

スウォープがこのやうにおほつびらに前面に押し出してゐる指導的帝國主義者と國家機構との癒着過程は、もつと前から進行中のものである。×××××第六回世界大會はこの過程の發展を曝露して次のやうに宣言した。

『資本の集中と、銀行制度を媒介とする大土地所有の一般的金融資本家組織への併合とは、大搾取者の合成勢力の強化をますます援助する。大×××の組織は直接に國家權力機構に結びつきつある』。

これはスウォープの提案が持ち出される數年以前にそれを特質づけたものである。

四 ファシズムへの途

第三部 各國（アメリカ合衆國）

このやうに、どの視角から見ても明かなやうに、資本主義のなかでの『計畫化』に關するおしやべりは、現存の諸關係から脱却しやうといふ企てではなく、それを強化し、私有財産及び利潤に對する資本家の確保を保證し、労働者の賃銀奴隸制度を永久化しやうとする企てである。

いつでも國家の活動が中心テーマとなる。そして相も變らずこの國家の活動はファシズムに歸着する。これらの計畫の他の部分は最も粗雑なかき集めであるが、ファシシヨ的發展即ち資本主義國家のおぼつびらな獨裁の事實は、否定すべくもなく、これらの『計畫』の眞髓をなしてゐる。

一方では、經濟恐慌が資本主義國家にますます資本家階級×××としてのその地金を現はすことを強制しつゝあるが、まだデモクラシーの假面は取り残されてゐる。純粹のファシズムに對する叫び聲である所謂計畫さへも、『自由の保存』とか『デモクラシーの遺産』とかといふことを口に上せてゐる。吾々はこれらの計畫がファシズムのための提案であつて、行動こそまだファシズムの方向に向つて進められてはゐないが、ファシズムへの第一歩のためのイデオロギイの基礎を準備してゐるものであることを銘記しなければならない。合衆國×××中央委員會第十三回プレナムは、合衆國の現時期をファシズムに關聯させて次のやうに規定した。

「ファシシヨ化の要素が増大しつゝあるとはいへ、合衆國の金融資本の支配方法はなほ、主として、デモクラシーの假面の下に進められてゐる。だがデモクラシーも原則的には決して公然たる（ファシスト）獨裁と異つたものではない。」

計畫經濟の最も初歩的な觀念について多くの資本家が混亂してゐることは、彼等が『組織化』とか、『統制』とか、『計畫化』とかといふことは、一般電氣會社、アメリカ電話電信會社等々のやうな大産業ですで行はれてゐるところであると言つてゐるのを見れば明かになる。

個別的産業施設のなかでの生産諸力の組織化は、一般的社會的計畫化と眞正面から對立する要素に基礎をおいてゐる。資本主義的生産の原動力たる利潤が、種々な工場に於ける労働力の組織化を持ち來すのであつて、その結果は、一般的市場のための盲目的生産が一層ひどくなり、そのためにこれらの個別的組織化の總和は一層大きな社會的混亂と一層大きな混沌状態とを持ち來すこととなる。

エンゲルスはこの事實を『反デューリング』のなかで非常に明確に表現した。彼は次のやうに言つた。

『生産の社會的形態と資本主義的領有との間の矛盾は、個々の工場に於ける生産の組織化と全社會に於ける生産の無政府状態との間の對立及び葛藤として再生産される』。

アメリカの産業は最もよくこのことを證明してゐる。

高度に組織化されたフォードの工場があり、ユナイテッド・ステイツ・スタイル會社に於ける驚くべき生産諸力の結集があり、餘剰價値の殆んど最後の一滴までも能率的に絞り取る同一型の一千百個の個別的生産單位があるにも拘はらず、吾々は現在經濟恐慌の性質が合衆國に於て資本主義體制の諸矛盾を最高の明瞭さをもつて曝露してゐるのを見出す。そこには工業と農業との葛藤がある。この葛藤が合衆國ほど大きなところはほかにない。こゝでは失業者常備軍の發展速度があらゆる記録を破つてゐる。労働者階級の絶對的貧困化と、非常に早く飽和點と過剰生産に到達することなく、長期に亘つて資本主義の基礎の上に生産を續けて行くことは不可能であるといふ事實とは、多くの資本主義的經濟學者が最も子供じみた解決策にかぢりつくほどはつきりと豫見することができらる。

マルクスの時代に於てさへも、餘剰價値を作り出すために個々の工場に於ける労働者の最も強度の組織化に味方したブルジョアジーは、この原理を全體としての社會に及ぼすには、資本主義的諸關係の×××私有財産並びに資本主義體制の前もつての×××が必要であることを知つてゐた。マルクスは次のやうに書いた。

『マニエファクチュア的分業、即ち労働者を終生部分的作業に拘束し、部分的労働者を無條件に資本の下に隷屬させることを、労働の生産力を増大させる労働の組織化として賞讃するその同じブルジョア意識が、社會的生產過程を社會的に統制し調節しやうとする意識的企圖をば、個々の資本家の不可侵の所有權と、自由と、自己決定的な「天稟」とに對する侵害として聲を高めて排斥するに至るのである。工場制度の熱心な辯護者たちが、社會的労働の一般的な組織化を、それは全社會を一の工場に轉化させるものであると主張する以外には、何等攻撃する口實を持たないといふことは、極めて特徴的な事實である』(『資本論』民衆版第一卷三〇三頁邦譯改造社版三三七頁)。

五ヶ年計畫の成功は資本主義の辯護方法を變化させた。

このやうに資本主義を維持するために生産を計畫化しやうといふ資本主義的企圖について語りつゝ、現代の搾取制度の辯護者たちは、一言で言へば、資本主義社會の基本的諸關係と階級勢力と資本主義×××と共にますます増大するところの資本主義の諸矛盾とを掃き捨てやうと努めてゐる。一方で個々の資本家が利潤即ち彼の「投資」の果實を種々な資本主義的冒險のほんたうの目的であり、それが「成功した」證據であると正しく理解してゐるのに、ブルジョア經濟學者はいはゆ

る正常時に於ける生産諸力の總和をば、實際には國民的需要を充たすための多かれ少かれうまく調節された生産であると述べてゐる。だからこそ彼等はいさ少し適切且つ圓滑にこの『國民的需要』を充たすやうに直すことが必要だと論ずるのである。マルクスは次のやうに言つてゐる。

「その生産様式が價值を基礎にし、しかも資本主義的に組織されてゐる一國を、單純に國民的需要を充たすために働いてゐる總體と見ることは、まちがつた抽象である」。

このまちがつた資本主義觀こそ『社會主義者』が持出すその當の見解である。それは勞働者階級の飢餓の増大が『國民』を維持するために必要であると信じてゐるラムゼー・マクドナルドの行動に於て、その論理的結論に到達する。

ブルジョア經濟學者が計畫化は資本主義の内部で行はれ得ると論ずるのは、資本主義的生産様式は、利潤を生産しつつ、この體制の多くの矛盾をますます擴大して行く規模で變化させるものであるといふますます明瞭になつて行く事實を隠蔽するためである。

資本主義がそのあらゆる階級關係並びに基本的諸矛盾と共に掃き飛ばされてしまはないうちは、生産諸力の意識的統制を伴ふ計畫經濟は實行されないだらう。

資本主義は、『社會的需要の充足によつて』ではなく、利潤の生産及び實現によつて規定された一點に、周期的に停止するに至るものであるから、決して社會的需要のための生産といふこととはできない。

社會的需要が最大であり、何百萬といふ人間が食ふものも着るものも住むところもなく、缺乏が人口の大部分の條件となつてゐるとき、資本主義×××し續けて行くといふ事實を見れば、このことがすぐわかる。

指導的帝國主義諸國が、猛烈な金融的痙攣を起しつつある恐慌のなかにますます深くはまり込んで行くにつれて、資本主義制度の内部での『計畫化』についてのおしやべりは、資本主義を破産と崩壊とから救ひ出さうといふヨリさし迫つた問題に道を譲つて行く。

合衆國では、スウエーデン、ポーランド、ウラル等々の『計畫』は、銀行制度が一般的經濟恐慌によつて切開かれた陥坑のなかへ墮落して行くのを喰ひ止めるために、信用プールの作らうといふフーヴァー及びウォール・ストリート一流銀行家達の氣狂じみた努力によつて、後方に押しやられる。それは資本主義の道ならしをやるための將來の『計畫化』といふ問題ではなく、崩壊を避けるためのさし迫つた問題である。かういふ情勢の下では、『計畫化』についての一切のおしやべりは、生産諸力の『組織化』といふ雑炊的な計畫からますます離れて行つて、資本主義を救済するた

二 資本主義的計畫經濟は可能であるか？

(ルース・フィッシャー)

(IPK一九三一年十一月三日第百四號による)

ニューヨークのブルジョア週刊雑誌『ザ・ネーション』の十月二十一日號の誌上に、有名なアメリカの經濟著述家ルース・フィッシャー——特に『石油帝國主義』といふ著述によつて有名になつた人——が上掲のやうな見出しで一論説を發表してゐる。そのなかでは、ソヴェート計畫經濟に關する彼の研究の結果が總括されてゐる。左にこの非常に興味ある論説を幾分縮めて印刷することにする(原文編輯者の註)。

一 『計畫化』思想の發生

ソヴェート政府は現在その第一次五ヶ年計畫を遂行しつゝあり、また第二次の計畫をも立案中である。ソヴェート政府の旗の下にある廣大な大陸のあらゆる資源が完全に開發されつくすまでには、政府にとつて色々なことが起るだらう。ロシアでは五ヶ年計畫は法律であり生活である。どんな經營でもこの廣大な計畫のなかでの自分の持ち分を知つてゐる。どんな子供でも五ヶ年計畫の一般的な概略を研究し、この計畫から生ずるはづの諸利益を知つてゐる。全ソヴェート同盟が大きな計畫を目指して働き且つ動いてゐる。

五ヶ年計畫が初めて發表された當時には、多くのロシア人が、否多くのボルシェヴィキでさへもが、疑ひの目をもつてこの計畫を眺めたのであつた。この課題はソヴェート同盟のやうな遅れた國にとつては大き過ぎるやうに思はれた。かりにこの計畫が豫定してゐるやうな進歩が十年以内に成し遂げられるとしても、モスコーは實際幸福だらうと言はれてゐた。これが一九二八年のことである。一九二九年にはこの合唱は一段と調子を高めた。だが一九三〇年には、これに若干の調子の違ふ聲がまじつてきた。勇敢な人々は、全ロシアに新らしい工場や都市ができるだらうとか、計畫は或る成功可能性を持つてゐるとか言ひ始めた。これらの觀察者のなかの數人は、勿論『ボルシェヴィキの手先き』だと言つて烙印された。ソヴェート同盟の經濟的勝利に關する彼等の話は、『宣傳』だとされた。だがまじめな實際家たちはつくづく考へ始めた。彼等は、ロシアには失業がないといふ事實を、ボルシェヴィキの讚美者からもまたボルシェヴィキの非難者からも繰返し繰返し聞かされた。彼等は、數千人のアメリカやドイツの技師たちがクレムリンと新らしい巨大工場を建設する契約を結んだのを見た。その工場のうち二三は世界でも最大のものなのだ。數百萬弗の價值を持

つてゐる外國製機械が、建設のためにソヴェート同盟に向けて送られた。飢餓に苦しみ崩壊し混乱しつゝあるはづのロシアが、大量の小麥やその他の商品を輸出し始めた。これらの事實に當面してはソヴェート同盟の問題についての従來の見解を改める必要が生じたことは明かである。

そこで世界は突然計畫經濟の利益を發見した。ロシアがやつてゐることを資本主義諸國もやり得ないはずがない。赤色コロンブスは卵をまつすぐに立てたのだ。だからブルジョアジーもそれを繰返して、さうすることによって自分たちの經濟上の諸問題を解決しやうといふのである。

今日計畫經濟は大流行である。ロシアに關する書物は、資本主義社會に對するロシアの挑戦を強調してゐる。資本主義はこの挑戦に應じ、しかも挑戦者から借りた武器をもつて競技場に現はれるつもりである。イギリスの一週刊雑誌は、イギリスのための五ヶ年計畫を提案してゐる。フーヴァー大統領は、アメリカ産業發展のための十ヶ年計畫を説いてゐる。チャールズ・エー・ビアードは、合衆國に於ける事業經營の活動を統制するために、議會から全權を委任された全國經濟會議の設置を主張してゐる。あまり重要でない著述家たちが彼の意見に賛成してゐる。一九三一年八月にはアムステルダムで計畫經濟世界會議が開かれた。そしてヴェー・オボレンスキー、オシンスキーに率ゐられたソヴェート同盟の代表は、數時間に亘つて諸代表の五ヶ年計畫についての質問に答へ

なければならなかつた。一九三一年九月に開かれたイギリスの労働組合會議は、帝國の計畫經濟に賛成する決議を討論した……

二 ソヴェート同盟の計畫經濟とアメリカの『計畫經濟』

アメリカに於ける計畫經濟とソヴェート同盟に於ける計畫經濟との間には、大した相違がある。資本主義的計畫經濟は、一つの經營かせいぜい一つの横斷的トラストかに限られる。この限界を超えると、資本主義の無政府性——競争——が無制限に支配する。少數の國際的カルテルの組織も試みられはしたが——例へば鋼鐵カルテル——不可避免的に崩壊せざるを得ない。鋼鐵カルテルの加盟者たちは、幾度も幾度も彼等の割當に違反した。即ち彼等の計畫を守ることができなかつた。そこで罰金が課された。すると不平や軋轢が生じた。何よりも先づ競争は除かれなかつた。そして遂にカルテルは機能を果さなくなつてしまつた。カルテルは勿論自由意志に基づいて組織されたのだつた。所有は統一されてゐなかつた。これがカルテル崩壞の理由の一つだつたのである。

ソヴェート同盟の諸經驗は、計畫經濟は全國を包含し且つ強制的である場合にのみ初めて効果あるものとなり得るといふことを證明してゐる。そればかりでなく、統制だけでなく所有までもが國家の手になければならない。ビアードその他の人々は、ボルシェヴィキが計畫經濟を發明したのは

ないことを主張してゐる。「フォーラム」Forumの七月號誌上で、彼は次のやうに言つてゐる。「その痕跡は、百年も前にチャールズ・バッチェによつて発見されてゐた。計畫經濟の起源は本來ロシアのものではない。」これは全然ほんたうだ。だがこれはビーアドにとつて不利な證據にしかならない。計畫經濟が古くからあるものならば、ソヴェート同盟がそれをやる前になぜ誰もそれをやつてみなかつたのであるか？ 私は、資本家はボルシェヴィキとくらべて少くとも同じくらゐに有能な經濟學者や事業家を持つてゐると確信する。なぜ彼等は計畫經濟の考へを思ひつかかなかつたのか？ その答はかうだ。彼等はそれを思ひつきはしたが、しかし計畫經濟は、簡単にそれが不可能だといふ理由から資本主義によつて採用されなかつた。計畫經濟と資本主義とは兩立し得ないのである。これに反して、ボルシェヴィキは初めから——レーニンの電化計畫及び一九二一年の國家計畫委員會の創立を初めとして——計畫に従つて前進した。これは彼等が賢いからではない。さうするより仕方がないからなのである。一旦國家的所有が存在するならば、國家は計畫經濟を行はざるを得ないのである。

決定的なことは所有の範圍である。ロシアに於ける計畫經濟は、全工業、全運輸機關、全農業、全銀行制度、全教育及び衛生設備を包含しないならば、失敗に歸するだらう。ヘンリー・フォード

は一聯の諸經營のための計畫を立て、デネラル・モーターズは別の一聯の諸經營のための計畫を立てる。この両者が競争し、過剰生産に陥り、従つてまた浪費する。だが、ソヴェート同盟に於ける五ヶ年計畫の事業はどういふ状態になつてゐるか？……

計畫の迷路のやうな複雑さは、勿論限りがない。だが無政府性は前もつて豫防されてゐる。一九二九年に合衆國で消費の激減をもつて終つたやうな過剰生産は起り得ない。五ヶ年計畫の複雑な細かい點にまで立ち入つた性質にも拘はらず、資本主義的な生産及び消費の混沌は存在しない。ロシアの後進性と勞働力の經驗の不足との結果、確かに計畫は多くの點で満されてはゐない。完全に滑らかに進行してゐる國民經濟の印象を與へやうとするのは、恐らく人を欺くことになるだらう。だがこれらの原因から起つてゐる損失は、競争やその他色々な形態の浪費——例へば廣告——を除くことから生ずる利益によつてたやすく相殺される。かりにソヴェートが現在のテンポで、だが計畫なしにロシアを工業化しやうと試みるとしたら、恐らくまちがひなく失敗をなめることだらう。

ソヴェート同盟の全經濟體制は、實際、生産、金融、運輸及び消費のあらゆる部面を包含する一個の未曾有の大きさの横斷的及び縱斷的トラストである。このやうなことが社會主義なしに、ソヴェートなしに可能であらうか？ もしかりに十個のシンヂケートがどこかの資本主義國の國民經濟

二 資本主義的計畫經濟は可能であるか？

120

彼の働いてゐる經營の所有者だと考へさせてゐるのである。

第二 ドイツ

一 銀行統制と社會民主主義 (エー・ローレンツ)

(I P K 一九三一年十月六日第九十六號による)

一 社會ファシストと銀行統制

資本主義體制の大きな×××勤勞大衆に對するその×××増大とに當面して、社會ファシズムは、もはや舊來のやうな手段で×××來した資本主義を辯護するだけにとどまつてはゐられない。數百萬の大衆が××××自分たちの貧困の原因として呪咀してゐる場合、社會ファシスト指導者たちも彼等に向つて資本主義の苦惱に満ちた現在はずでに社會主義への過渡であるなどと言つてはゐられない。十三年もの間從順な從僕としてこの資本主義に仕へてきた後で、彼等も亦た×××大衆と聲を揃へて「この破綻した××××！」と叫ばざるを得ない。だが『資本主義的破産者たちに事業を止めさせねばならない！』と叫びながら、實は彼等は、新しい×××策動を用ひて××

第三部 各國 (ドイツ)

121

「銀行管理局は特別に社會主義的な要求ではない。貨幣制度の規制及び信用制度の或る種の一般的規範は、資本主義的經濟力に加へられる社會的統制のそもそも最初の第一歩だつた。官廳による銀行管理は、合衆國やスエーデンやデンマーク等々で現に行はれてゐることである。」

だが社會ファシスト坊主たちの態度決定のためにこのやうな冷靜な文句を書いた當のヒルファデーニングが、一九三一年九月十日にベルリンの社會民主黨幹部の前で演説した時には、全然別のことを言つてゐる。そこで彼は、社會民主黨の二つの要求、即ち銀行統制とカルテル管理とについて次のやうに言つたのである。

『この二つの要求は、第一に社會民主主義の經濟政策的闘争にとつて重要である。それらの實現は、社會的民主主義及び社會主義の方向に大きな一歩を進めるものである』（『進め』一九三一年九月十一日）。

つまりこれによると、銀行統制を採用したポーランド労働者及び農民の慘酷な絞殺者は、社會主義の「先驅者」だといふことになる。上述の演説でヒルファデーニングは、驚いてゐるドイツ社會民主黨労働者に向つて、ブリュニング社會主義のもつともつと大きな事業を鼻高々と約束した。

「だがこれはほんの第一歩である。吾々は或る種の大コンツェルンやトラスト化した工業に於て

はもつと進んだことをやるつもりである！」

銀行統制は、古くからある「經濟民主主義」式の労働者××の一つである。それは、その助けを借りてヒルファデーニングやナフタリやライバートやデルトマンが資本主義の社會主義への平和的轉形を遂行すると約束してゐる家庭常備薬の一つである。それは、今年（一九三一年）六月のドイツ社會民主黨のライプチヒ黨大會でも、タルハフが推賞した經濟恐慌克服策の一つとして數へられてゐた。だがそれは非常に從屬的な役割しかつとめてゐなかつた。七月の銀行大動亂と同時に、實際には、ブリュニング首相が八月四日のラヂオ演説のなかで社會ファシスト指導者にそのスローガンを示した後初めて、ドイツ社會ファシストがこのスローガンを前面に押し出し得る時がやつてきた。その翌日には、もう「進め」紙上のナフタリの論説をもつてドイツ社會民主黨の銀行統制のための大カンパニーが始まつた。資本主義の醫者たちは、彼等にとつて新しい××××の大策動をやる機會が來たことを、かくも速かに理解したのである。

二 銀行統制の本質

いつたい誰が誰を統制するのか？

國家が銀行を統制するといふのである。だがそもそも銀行とは何か、國家とは何か？

銀行は、獨占的金融資本——この銀行Ⅱ及び産業資本の癒着こそが獨占とカルテルとトラストとの現代資本主義を特徴づけてゐる——の機關である。それは先づ第一に金融資本の經濟的利益に奉仕する機關であつて、この機關を用ひて金融資本は貨幣Ⅱ及び信用制度を支配し、従つてまた全經濟をその統制下に置くのである。この機關を用ひて金融資本は非獨占的經濟×××し自己の獨占的利益を貫徹するのである。金融資本の經濟的權力は——二十三年前當時まだマルクス主義者だつたハドルフ・ヒルファート・デイングは彼の著書『金融資本論』のなかでかう説明した——政治的權力となり、國家の支配となる。この國家はもう金融資本×××にほかならず、プロレタリアートの×××によつて××××××へられなければならないものである。

即ち資本主義國家も亦た金融資本の×××であり、×××である。金融資本が××××××を決定し、××××××××××するのであつて、×××に向つて意のままにそのなすべきことを指圖するのである。金融資本といへども絶對的な百パーセントに團結した統一體ではなく、色々の分子——それらは或る程度まで特殊の利害を持つてゐる（貨幣資本家、重工業トラスト、完成商品工業トラスト等々）——から構成されてゐるものであるから、金融資本の内部には軋轢や相違や敵對やグループ闘争がある。政府に關してもその構成や政策についてそれがある。といふのは一つ一つの金融資

本グループは政治の上に決定的な影響力を持つてをり、國家装置の××××××××やうと欲してゐるからである。これの反映が××××××であり、ブルジョアジーの政治的フラクション闘争である。だが金融資本の指導的グループによつて命令される全體としての金融資本の意志は、×××とつて常に決定的なものたることを失はない。

國家が銀行を統制するといふのは、つまり金融資本またはそのなかの最も有力なグループが自分の利益を一定の仕方で確認することを××××××することにほかならない。即ち具體的に言へば、ワツサーマン（デディ銀行）、ベルグマン（ダナート銀行）、ゴニッツ（ドレスデン銀行）等々の銀行家たちや、クルツプ、フリック（鋼鐵トラスト）、ドゥイスベルグ（イーゲー染料）、シーメンズ、ロステルグ及びコルテ（加里トラスト）、ジルフアーベルグ（褐炭シンヂケート）等々のトラスト王たちが、ブリュニン政府またはその銀行委員エルンストに向つて、デディ銀行、ドレスデン銀行及びダナート銀行、コンメルツウント・ブリヴァート銀行等々に關して何をなすべきかを述べることにはほかならない。現在、ブリュニン政府が九月十九日の緊急命令によつてこのやうな銀行統制を採用したとすれば、それは、銀行大動亂に對する勤勞大衆の激昂を宥め、銀行の鞏固さや銀行預金の確實さに對する信頼の喪失を政府の精神的信用によつて強めることが金融資本にとつて

目的に適つてゐると思はれたからである。

だが九月十九日に銀行統制に關する緊急命令が發布された時、社會ファシストの「進め」は次のやうに述べてこれに喝采した。

「政府が採用したやうな銀行統制は、社會主義的經濟政策の一つの道具となり得る——それはまだ社會主義的經濟政策ではない。だが次の一つのことは言ひ得る、即ち、それは資本主義の原則に對する吾々の思想の原則的勝利である。それは原則的には一つの成果である……」

實に奇妙な資本主義に對する「勝利」である、それには資本家も亦た同意を表明してゐるのだ！ ドイツ國權黨の「クロイツ新聞」(一九三二年十月一日)の言つてゐることを聞いてみよう。

「全國銀行委員の行動がこのやうな統制だけに制限されてゐる限り、かつて取引所法の制定や取引所委員やに同意したと全く同様に、銀行統制の實施に同意することができる。實際、かゝる施設の設置をこんなに久しく躊躇してゐたといふことは驚くべきことだとさへ言ひ得る。」

ブルジョア經濟學者レオポルド・シユワルツシルドがベルリンのブルジョア新聞「モンターク・モルゲン」(九月二十一日)紙上で述べた銀行統制の特徴づけの方が、實際もつと立派である。彼は銀行統制を「屏風」だと言つた。この屏風の蔭で銀行貴族は依然として自分たちのやりたいことをやり得るのであつて、その違ひは、將來銀行貴族は銀行委員によつて代表される×××精神的責任を轉嫁することができるといふことだけである。

「次のやうに言ふことができる。これは、利益は自分たちの適法的な營業から得られるものであつて、損失は一般公衆に轉嫁されるといふ昔からある發明に幸ひにもびつたり適つた一つの發明である……今やこの物質的現象に、さらにこれに照應する精神的現象が附隨する。今や精神的危険も亦た分散されて、うまく行かないものはすべて文句なしに××の負擔になる……」

銀行業者がこの改革の利益をすぐさま認めて、感情にこだはらず進んでそれに同意した事實は銀行業者の眞意を物語るものである。」

社會民主主義の輝かしい「勝利」——金融資本の××を隠蔽する屏風、金融貴族の利益のためにする「現代に於ける決定的な社會主義への途」、賃銀××反對の闘争や社會的施設廢止反對の闘争やブリュニング××及びその社會ファシスト的從僕に對する闘争から勤勞大衆を外らせ、×××た資本主義を××××××するための闘争から勞働者階級を引止めるための社會ファシズムの憎むべき××策動の一つとしての「國民經濟の國民的支配への途」といふ××——これが社會ファシスト指導者たちの罪深き計畫なのである。彼等も××××××××××××といつしよに自分たちの運命

も亦た×××のだといふことを知つてゐるのである。

二 ドイツ労働組合總同盟の計畫經濟案

(ワルター・ネッテルベック)

〔デア・ローテ・アウフバウ』一九三二年十二月一日第二十三號による〕

國防軍將軍兼聯邦大臣シュライヒャー氏についてこんな噂がある。彼は「餘暇」には製圖卓に向つて『計畫經濟』のスケッチを描いてゐると。だからと言つてドイツの將軍が社會主義を目標に置いてゐるなどといふことは、どうあつても望めないことである。彼は「餘暇」を資本主義計畫經濟の立案に捧げてゐるに過ぎない。將軍のかういふ特性は、彼との好意的關係を得るのに憂身をやつしてゐる自由労働組合の指導者たちに、知れずにゐるはずがない。

一 シュライヒャーへの途

×××労働組合反對派(RGO)の突撃とパーペン政府の賃銀切下げの強打との間に板ばさみになつて、彼等はまだ一度古い武器を手を取つた。それは鈍刀で、しかも鋸の齒のやうになつてゐたが、それでもまだ——社會主義の外見を残してゐた。ドイツ労働組合總同盟(ADGB)が今年「一

九三二年」の七月に公表した「經濟建直し」の綱領は、欲望充足經濟を要望してゐた。この經濟に於ては社會が生産手段に對して支配力を持つといふのである。吾々は他の場所で（註）、總同盟はここでたゞ社會主義の用語を弄んでゐるに過ぎないのだといふことを指摘しておいた。それにも拘はらず、いやむしろそれだからこそ、この「建直し綱領」は、總同盟では今でもまだ左翼的美辭麗句が通用してゐるかのやうな外觀を呈してゐた。社會民主黨は不思議なほど急速に總同盟の綱領に連帶の意志を表した。即ちこの綱領が出ると間もなく、社會民主黨國會フラクションの社會化案——これは全く「經濟建直し」綱領を基礎にしてゐた——が提出されたのである。

（註） ネットレルベック「經濟の建直し」デア・ローテ・アウフ・パウ第十五號。

この綱領は疑ひもなく社會民主主義的政策の線に沿つてゐた。「經濟の社會主義的建直し」（？）。そして×××の波が襲ひかゝつて來てゐるその瞬間に——社會民主主義的指導者たちは、言ひ古した言葉をまだ言ひふらしてゐた。危険の瞬間には吾々は社會主義の味方であると。

だが危険の瞬間に對する對策はこれ以外のものでも好からう——と少くとも總同盟の指導者は考へた——労働者大衆がもう殆んどこの「社會主義」を信じないとすれば、なぜこの「社會主義」を棄ててしまはないのか。將軍もやはりこの「社會主義」は好きでないと。そのうちに將軍との好

意的關係は次のやうな協定にまで生長して行つた。即ちそれはほかでもない、ファシスト××の根柢としての、ライパート、「労働組合總同盟」からシュテッゲルワルト、「バーベン政府の労働相、中央黨」を経てグレイボル・シュトライト、「國粹社會黨」に至るまでの統一戦線を目的としてゐたのである。

だが自由労働組合がその華かだつた過去の臭みのしみ込んでゐる間は、國粹社會主義者にとつてはこれとの公然の統一戦線はやり切れない。だから國粹社會主義ドイツ労働者黨（NSDAP）は次のやうな條件を出した。即ち自由労働組合の「非政治化」及びその「マルクス主義的謬想」からの解放（『國粹社會主義叢書』第四十二冊）がこれである。これをドイツ語に翻譯すれば社會民主黨からの自由労働組合の分離となる。シュライヒャーの一派もあくまでこの目的を主張する。そこで自由労働組合がこの目的の達成のためにどんな準備をやつてゐるかを見るのは、政治的に面白くないこともなからう。指導者たちはすぐさま齊戒沐浴して懺悔し、きつぱりと『マルクス主義的謬想』とは絶縁すると誓つた。もうまじめに「經濟の建直し」を云々する者はなくなつた。尤もこれは、自由労働組合の下部機關が時たまこれを使つてアデーションをやるのを妨げるものでないことは勿論である。しかるにこの綱領は半年前には改良主義的アデーションの中軸にされてゐたの

である。彼等指導者は、今度は別な仕事をやり出した。ドイツ労働組合總同盟の理論的機關紙『アルバイト』の最近の二號で、彼等は『社會主義的』といふ概念を近代的な職業身分制的な意味での經濟共同體として説明してゐる。

『社會的に安靜な、相對的に靜的な社會主義經濟社會では、「職業及び身分」は歴史的な意味に於てではなく、近代的な「職業身分制的な」意味に於て、形成され強かに發展するといふことが考へられる』(『デー・アルバイト』一九三二年十月號六二五頁)。

自由労働組合の指導者たちはこの變形メタモルフォーゼによつて、『社會ファシズム』から『生粹のファシズム』への飛躍を首尾よくやり遂げたのである——少くともこの發展のイデオロギー的方面が或る役割を演じてゐる限りでは。それとも『職業身分制』經濟社會といふものがファシズム的イデオロギーの本質的特性に屬してゐることを否認することができるとも言ふのか？

この點については自由労働組合の指導者たちには少しも不明瞭なところはない。彼等の仕事は二重の性質を持つてゐる。第一に、彼等は、社會主義は近代的な職業身分制的意味での經濟と矛盾しないことを、第二に、『職業身分制秩序』はそのものとして少しも反動的なものであるはずはないことを、證明しなければならぬのである。

二 ドイツ労働組合總同盟が身分制國家を宣傳する

ドイツ労働組合總同盟は『アルバイト』の第十號で、『いかにして職業身分制秩序は可能であるか』といふ問題を提出して、次のやうな結果に到達してゐる。

『抽象的及び形式的に把握すれば、職業身分制秩序原理とはまさしく次のことを意味する。即ち經濟が生産部門別に編成され自治體によつて計畫的に指導されることである。この原理の實際的適用に當つては次のやうな諸主要問題が生ずる。

- 一 諸生産部門はどういふ見地から區分……さるべきか？
- 二 從來獨立してゐた諸經營はどういふ形態で組織的に統括さるべきか？
- 三 職業身分制自治制度はどういふ選舉Ⅱ或ひは任命方法によつて形成……さるべきか？……
- 五 經濟的自治體と國家諸機關との關係はどういふ風に形づく……さるべきか？

この論説の筆者の説明によれば、『たゞこれらの諸問題を定式化しさへすれば、社會主義計畫經濟の討論をやつてゐるのだといふことがすぐにわかる』。『そして事實その通りになつてゐる！』と彼は自分で感歎して、さらに次の數行を續けてゐる。

『ブルジョア的、カトリック的、キリスト教的労働組合的諸派は現在では改良計畫を提出してゐる』

るが、それらは一部分は社會化論争の範圍内で立案され、一部分は經濟議會をめぐる討論——改良社會主義側（ウイッセル、カリスキー等々）及びブルジョア側（メーレンドルフ、ラーテナウ等々）の——と結びついて立案された諸草案と殆んど區別のないものだといふことがわかつてゐる」（同所六二八頁）。

ではブルジョア的カトリック的及びキリスト教労働組合的諸派が本質上「改良主義」一派の草案と同じ改良計畫を提出したとすれば、いつたいどんな結論が出て来るか？ かういふ問題の出し方は、ライバートからシュテゲルワルトを経てグレゴール・シュトラサーに至るまでの統一戦線のイデオロギー的準備にほかならないといふことは、別に証明を要するだらうか？ 総同盟の指導者たちが、彼等と本質的に親近の同盟者たちと共同の仕事を實踐的・政治的にもやることを、いつたい何が妨げるだらうか？ 右の『アルバイト』からの引用は、見逃さうとしても見逃せないほど著るしい「洗練さ」を含んでゐる。即ちこゝで社會民主黨はどういふ役割を振られてゐるかがこれである。「アルバイト」流に言へば、たゞこれらの諸問題を定式化しさえすれば、シュライヒャーを中心として討論をやつてゐるのだといふことがすぐにわかる。

三 職業身分制秩序と労働者階級

ドイツ労働組合同盟の指導者たちの反動的發展を全體として理解するためには、職業身分制秩序についての討論の本質を曝露することが必要である。なぜならば職業身分制秩序を、生産部門別に編成され自治體によつて指導される經濟を説明することは、明かにこの問題を曖昧にするものだからである。

a 國粹社會主義者は何を欲してゐるか？ 國粹社會黨は身分思想の問題では密接にイタリアの模範に頼つてゐる。イタリアの職業組合（レンヂョ）では企業者と労働者とが別々に組織されてゐる。これらの職業組合の尖端部は組合（コルポラチオネ）に編成されてゐて、そのなかで労働者職業組合の腐敗した指導者たちが企業者たちと「職業身分制」的に共同活動をやるのである。この身分制秩序の本質的特性は労働者階級の完全な權利剝奪にある。

b カトリック派は何を欲してゐるか？ 『これらの努力は、最近カトリック教學者會議で發表された綱領に於て最高點に達した。そのなかでは、經營帳簿の採用による經營への資本の拘束、終身的……の採用による經營への労働者の拘束——つまり労働者の終身的從屬を伴ふ正式な産業封建的企業者層の樹立が要求された』（『アルバイト』一九三二年五五〇頁から引用）。本質的な特徴は、労働者階級の完全な權利剝奪。

c キリスト教労働組合は特別に何を欲してゐるか？ 彼等は身分制秩序の基礎の上に何よりも先づ階級闘争を麻痺させることを欲してゐる。『キリスト教労働組合は根本的に最初から階級闘争を斥けて來た』（ギースバーツ）。ファシズム・イデオロギーと『キリスト教』イデオロギーとの密接な親近性は、彼等の政策を否でも應でも同じ方向へ、即ちブルジョアジーの階級利害への労働者の階級利害の從屬といふ方向へ驅り立てつゝある。

これが——『アルバイト』のいはゆる——本質的内容に於て『改良社會主義』諸派の草案と殆んど區別のない改良案なるものである。だがこれらの諸君は吾々に、これらの案は『改良社會主義』の側から見て少しも反動的なものではないと誓言する。では彼等はどんな詭辯でこれを證明しやうとしてゐるか？ それは實に單純である。つまり——『職業身分制思想をその内的論理のまゝに任せておいてこれを勝手に社會反動的目的に濫用しない限り、職業身分制秩序と經濟的社會的民主主義とは不可離に結びついてゐる』（『デー・アルバイト』一九三二年六二八頁）。かわいさうなムッソリーニ君。つまり君のファシズム×の職業身分制秩序は、君が職業身分制思想からその内的論理を奪つたことに基いてゐるのだ。だがそれは、君が君の職業身分制秩序を最初からダラゴナ——イタリーの改良主義労働組合の指導者——といつしよに打建てなかつたからなのだ。ドイツの

改良主義労働組合の指導者たちはこのまちがひをやらないだらう。彼等は初めから公然のファシストたちと協働して、しかも職業身分制思想の『内的論理』を最高度に展開させることだらう。